

Sustainability Report

丸善製薬 サステナビリティレポート

2025

自然の恵みをつなぐ

丸善製薬株式会社

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

目次

目次	02	1.組織統治	23	5.公正な事業慣行	69
編集方針	03	1) コーポレートガバナンス	24	1) 腐敗行為の防止	70
企業情報	03	2) コンプライアンス	26	2) 持続可能な調達	73
沿革	04	3) リスクマネジメント	28	3) サプライチェーンマネジメント	75
				4) 財産権の尊重	77
トップメッセージ	05	2.人権	31	6.消費者課題	78
企業理念	06	1) 人権の尊重	32	1) 品質保証	79
		2) ダイバーシティ&インクルージョン	36	2) 製品開発	81
PURPOSE(丸善製薬の存在意義)	06	3.労働慣行	41	3) 製品情報へのアクセス	86
経営理念	07				
経営ビジョン(2030年ありたい姿)	07	1) ワークライフバランス	42	7.コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	89
社是	07	2) 労働安全衛生	46		
		3) 人材育成	50	1) コミュニティへの参加	90
丸善製薬のサステナビリティ	08	4.環境	52	2) 社会的投資	92
中期経営計画	08				
丸善製薬のサステナビリティ	09	1) 環境マネジメント	53		
サステナビリティ基本方針	11	2) エネルギー消費と温室効果ガス	56		
国連グローバル・コンパクトへの賛同	11	3) 水	63		
企業倫理方針・行動規範	12	4) 廃棄物	65		
人権方針	14	5) 生物多様性	68		
環境方針	15				
持続可能な調達方針	15				
サプライヤー行動規範	16				
品質方針	17				
ステークホルダーとのコミュニケーション	17				
SDGs宣言	18				
マテリアリティ(重要テーマ・重要課題)の特定	19				
マテリアリティ(重要テーマ・重要課題)	20				
サステナビリティ情報プラットフォーム	21				
サステナビリティ・CSR意識の浸透	22				

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な
企業活動

消費者課題

コミュニティへの
参画及び発展

編集方針

丸善製薬は、ステークホルダーとのコミュニケーションツールとして「サステナビリティレポート2025」を作成しています。ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを行い、継続的に説明責任を果たしてまいります。

報告対象組織

丸善製薬株式会社

対象期間

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日・財務報告期間）の活動を中心に、一部それ以前からの取り組みや、直近の活動報告も含んでいます。

発行時期・頻度

2025年9月（日本語版・英語版）・年1回発行

参考にしたガイドライン等

本レポートは、ISO26000（社会的責任に対する手引）、GRIサステナビリティ・レポートング・スタンダード、国連グローバル・コンパクトIO原則などを参考にして作成しています。

サステナビリティ情報プラットフォーム

Sedex (Supplier Ethical Data Exchange)、EcoVadis、CDP

サステナビリティに関するお問い合わせ

<https://www.maruzenpcy.co.jp/form/>

企業情報

商号	丸善製薬株式会社
創業	1938年（昭和13年）9月5日
法人設立	1949年（昭和24年）7月13日
資本金	9,800万円
売上高	163億円／2025年（令和7年）3月期
従業員数	457名（臨時雇用者27名含む）／2025年3月31日時点
事業内容	医薬品、医薬品用素材抽出物、医薬部外品用素材抽出物、化粧品用素材抽出物、食品添加物、食品、食品用素材抽出物、健康食品、健康食品用素材抽出物の製造販売
本社・本社工場	広島県尾道市向東町14703-10
新尾道工場	広島県尾道市美ノ郷町本郷字新本郷1-140
三次工場	広島県三次市南畑敷町870-32
久井ファーム	広島県三原市久井町荻原壱本松10645-15
総合研究所	広島県福山市新市町相方1089-8
東京支店	東京都渋谷区恵比寿西2-6-7
大阪支店	大阪府中央区道修町2-6-6塩野日生ビル6階
タイ連絡事務所	No.388 Exchange Tower, 29th Floor, Unit 2901 - 2904, Sukhumvit Road, Klongtoey Sub-district, Klongtoey District, Bangkok 10110 Thailand
関連会社	ロンジェブ株式会社、丸善貿易（上海）有限公司

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な
企業活動

消費者課題

コミュニティへの
参画及び発展

沿革

1938年(昭和13年)	日暮喜ハが丸善商会を創立、食品調味用甘草(カンゾウ)エキスの製造を開始	1992年(平成4年)	丸善化成株式会社と丸善製薬株式会社が対等合併し新社名を丸善製薬株式会社とする
1949年(昭和24年)	組織変更し丸善化成株式会社を設立	1992年(平成4年)	会長に日暮兵士郎、社長に日暮彰文が就任
1958年(昭和33年)	医薬品製造業の許可を取得し生産を開始	1995年(平成7年)	三次工場の第二期工事で工場を増設
1958年(昭和33年)	丸善商事株式会社を設立(昭和60年ロンジェブ株式会社に改称)	2000年(平成12年)	広島県立新市工業団地内に総合研究所(第一期工事)を建設
1963年(昭和38年)	丸善製薬株式会社を設立	2001年(平成13年)	総合研究所の第二期工事で研究所を増設
1971年(昭和46年)	会長に日暮喜ハ、社長に日暮兵士郎が就任	2005年(平成17年)	尾道流通団地内に新尾道工場を建設
1978年(昭和53年)	ステビオサイド製剤の生産販売を開始	2007年(平成19年)	会長に日暮淳子、社長に井元勝恵が就任
1979年(昭和54年)	化粧品製造業の許可を取得	2007年(平成19年)	中華人民共和国に丸善貿易(上海)有限公司を設立
1980年(昭和55年)	医薬部外品製造業の許可を取得	2007年(平成19年)	三原市に久井ファームを開設
1983年(昭和58年)	界面活性剤(キラヤニン)、生薬抽出液(センブリ、アロエ他)等の生産販売を開始	2011年(平成23年)	三次工場(第三製造棟)を増設
1983年(昭和58年)	健康食品(牡蠣エキス、霊芝エキス)の生産販売を開始	2013年(平成25年)	新尾道工場(第二製造棟)を増設
1985年(昭和60年)	広島県立三次工業団地内に三次工場(第一期工事)を建設	2017年(平成29年)	社長に日暮泰広が就任
1989年(平成元年)	オーストラリアに自社農場取得、ループラン有限会社を設立(現在は閉鎖)	2017年(平成29年)	新尾道工場(第三製造棟)を増設
		2021年(令和3年)	三次工場(第四製造棟)を増設

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な
企業活動

消費者課題

コミュニティへの
参画及び発展

トップメッセージ

私たち丸善製薬は、法令遵守を基本として、お客様の目線に立ち、安全性の高い機能性成分を追究し、人に優しく世の中に役立つ事業の継続と地球環境の保全に努めてまいりました。

2019年には、創立70周年の節目を迎え、世界が直面する環境および社会問題に対する企業の関わりや課題解決がより重要になると考え、事業に関わる全ての皆様と地球環境の将来に対して責任を持って日々の事業活動を行うべく、行動規範を策定して取り組みを開始しております。

そして2024年に創立75周年を迎え、社業の源泉である社員の人権を尊重し、それぞれが互いの個性を認め合い、働きがいを持つことができ、且つ安全・安心な環境を整えることが経営の根幹だと考え「社員の幸福を通じ社会貢献」を、どのような時代にあっても変わらない「丸善製薬のありたい姿」と位置付けています。束ねた力を開花させることで社会に美と健康をつないでいけるよう、全社員取り組んでまいります。

丸善製薬のタグライン「自然の恵みをつなぐ」の中にある「自然の恵み」については、原料となる植物だけではなく事業活動において必要不可欠な各種エネルギーも「自然の恵み」であると捉えています。原料となる植物の調達に当たっては事業の継続性のみならず種の保存の観点からも現地での栽培指導などの様々な施策を取っており、また、エネルギーを必要とする工場の操業に当たっても地球温暖化ガス排出量の低減や太陽光発電の導入等、地球環境に多面的に配慮しながら持続可能な事業活動に努めております。

お取引先様や社員の皆様、また地球環境等との様々な「つながり」を大切に社会への責任を果たすべく、この行動規範に掲げている項目について「こうありたい」と願う様々な夢や課題に対して真摯に取り組み続けることが、事業を通じて人びとの健康で豊かな暮らしへの貢献につながり、ひいては創立100周年にもつながっていくものと考えております。

丸善製薬「企業倫理方針・行動規範」

<https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/conduct.pdf>



代表取締役社長

日暮泰広

自然の恵みをつなぐ

丸善製薬株式会社

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

企業理念

PURPOSE

(丸善製薬の存在意義)

自然の恵みをつなぎ
人々が美しく健康でいられる社会(づくり)に貢献します

笑顔のあふれる社会へ

瀬戸内、しまなみ海道の起点となる尾道市。優しいおだやかな海に囲まれた土地に丸善製薬は誕生しました。そんな地域社会との関わりが環境面、文化面などあらゆる観点から、企業活動を育んできました。

創業時からこれまでの間、私たちは提案型の営業に徹してまいりました。オリジナリティ溢れる発想で、あらゆる分野で甘草の応用を徹底的に試みるというのが原点でした。常に独創的な企業経営を心がけ、一貫して自然界の有用植物を中心に、そのものが持つ機能性成分にこだわり続けています。

私たちは、あくまでも抽出の技術に研鑽を重ね続けてきた結果が、今日の企業の開発テーマやニーズに呼応していたのだと考えています。

丸善製薬をもっといい会社になりたいという願い、自分は今こうしたいと考えているといった率直な願いが、会社の姿になっていくと考えています。

これまで築いてきた丸善製薬の歴史を明日へと紡ぐべく、新しい技術を培い、知恵を養い、誠実に、且つ大胆に歩いていくことが、私たちの希望となり、社会貢献を実現していくことに繋がってまいります。

健やかな社会とは、人々が今を幸せに生き、未来に向けて明るい夢を持てる社会であることだと考えています。人と地球への思いやりを生業として働ける喜びを社員一人ひとりが持っている。会社を育てるということは未来への責任を果たしていくこと。私たちは健やかな社会づくりに貢献していけると信じています。

抽出に夢を託して80年以上培ってきたのは使命観です。

1938年(昭和13年)の創業以来、私たち丸善製薬は、一貫して自然界の有用植物を中心に抽出手段を駆使して、お客様の目線に立った、安全性の高い機能性成分を追い求め、単に安心できる素材提供だけではなく、人に優しい世の中に役立つ事業継続と、地球環境の保全に努めてまいりました。

私たちは、どのような時代にあっても、社会から要求される製品、サービスを継続して提供していくことが、企業の存在価値の源泉となる『お客様の満足』につながることを考えております。

丸善製薬は、「あなたに贈る、自然のいのち・・・高めます、ヘルス・ビューティ・ヒューマニティ」を会社の使命観として、そこから生まれる喜びを享受するという明確な目的意識と思想で事業を展開し活動してまいりました。

これからも、機能性成分をキーワードに活動し続けてまいります。

医薬品や化粧品、食品添加物などの分野で、私たちは「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生しながら世界に向け自然の恵みをお届けし続けてまいります。

タグライン「自然の恵みをつなぐ」について

丸善製薬は、バルクメーカーとして高品質な原料製品を提供することで発展を遂げてまいりました。現在はお客様と共に商品を開発、次世代商品のコンセプトを私たちから提案、お客様の依頼を受けて原料となる植物の試験栽培など様々な取り組みを行っています。

2012年にタグライン「自然の恵みを運ぶ」を制定いたしましたが、創立70周年を迎える機会に改めて企業ドメインを見つめなおし、自然の恵みをさまざまな人や場所にお届けする＝「運ぶ」という従来の枠を超えて、自然の恵みを新たな価値観に「つなげていく」という、次世代のビジョンが見えてまいりました。

多様な手段によって私たちの提供できる価値を、お客様へ、社会へ、そして未来へ、しっかりとつなぎ合わせ、社会の発展に貢献していくという意味を込め、創立70周年を迎える2019年7月13日に「自然の恵みをつなぐ」へと刷新いたしました。デザインは自然の恵みを表す植物の葉のイメージを取り入れることで私たちの事業のベースとなるもの、原点を表現しています。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

経営理念

人間の幸福は 謝念につきる

人間の生きがいは 可能性への挑戦である

マルゼンの使命は 「奉仕」につきる

マルゼンの総意は 豊かさの追求である

制定：1979年7月14日

経営ビジョン(2030年ありたい姿)

一. 抽出道を究め、新たな道へ

二. 新事業領域へ、そして世界へ

三. 人が活きる会社へ

中期経営計画：2024年4月～2030年3月

社是

一. 真心をこめて

小さな雑事にも真心をこめたい。心のこもった仕事、心のこもった製品には生命がある。訴えがある。魅力がある。

二. うるわしい職場に

志を同じくする者が一つの職場で一緒に働ける。まことに不思議な縁だ。仲良く助けあって、うるわしい職場を作り上げよう。

三. 相手の身になって

あとから来る人のために、あとから使用する人のために、買ってくださる身になって仕事をしよう。相手のことを考えない人は、自らほろびる。

四. それぞれの持ち場で

考える人、ペンを持つ人、体をはって働く人、それぞれの持ち場があり、それぞれの苦労がある。自己を過信するな。他をうらやむな。

五. 自己にきびしく

職場は働くところ、そしてその対価を得るところ。しかしただそれだけではない。自分自身を鍛えるところ。そのきびしさの中から喜びを得るところ。

制定：1969年10月

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

丸善製薬のサステナビリティ

中期経営計画

計画期間

第63期～第68期／2024年4月～2030年3月

1.目的

2049年、設立100周年に向けCSRにおける「マテリアリティ」を特定し、現中期経営計画（第58期～第62期）の継続課題を継承、サステナビリティ重要課題の2030年目標を追加し、基本行動計画と計数計画を策定する。

2.中計理念

社員の幸福を通じ社会貢献を果たす。

3.2030年ありたい姿

(1)抽出道を究め、新たな道へ

- 1) 既存事業となる抽出・精製・分離・分析をコア技術に、研鑽とイノベーションを進め、発酵や合成など生産に関する新技術が導入され、経営基盤が安定している。
- 2) エビデンスに基づいた信頼される食品原料・化粧品原料の開発と提供がなされ、美と健康へ貢献している。
- 3) 顧客第一主義を貫き、First call supplierとして信頼を勝ち得た会社になっている。お客様に真摯に向き合い、価値創造を徹底的にサポートしている。
- 4) 各工場の特性を活かした生産体制が確立されている。

(2)新事業領域へ、そして世界へ

- 1) 安定した経営基盤を背景とし、コア事業の川上、川下への展開や、他企業との連携を図り、社会課題への対応、隣接する新事業への拡大を実現している。
- 2) 海外での生産拠点の確保に向け、海外の製造提携先との関係をさらに強化し、資本と人を投下した協力工場を持ち、将来の独資工場の建設を展望できる状態になっている。
- 3) 国際化への対応ができ、追従ではなく先手を打てる体制を実現できている中で各部門に人材が育っており、様々な商機を掴める体制になっている。
- 4) 原料においては、「買う」から「育てる」への転換、倫理的調達網の確立、サプライチェーンの管理がなされ、持続可能で安定した原料調達ならびに当社製品の供給体制が整っている。

(3)人が活きる会社へ

- 1) 多様性を尊重し、お互いが認め合い誰もが活き活きと輝き、仕事を通じて社会貢献が実感

- できる会社、人権を尊重し、差別、ハラスメントのない会社になっている。
- 2) 全社的な拠点の見直し完了し、ライフスタイルに応じて能力を発揮でき、健康で安心して働ける安全かつ高機能な職場環境になっている。
- 3) 事業活動における環境への負荷を考慮した取組みを推進し、2030年に温室効果ガスの排出量50%削減を実践し、地球環境の保全に努め、健全な事業継続を通して、社会の活性化に貢献している。
- 4) 尾道発祥の企業として創業の理念を大切にし、地域との繋がりをより強固なものとしている。

4.経営目標（第68期／2029年度）

1.純売上高	191億円（自社品175億円）
2.一人当たりの売上高	41百万円
3.経常利益	23億円／経常利益率12%以上
4.一人当たりの経常利益	4.9百万円

5.主要施策

【環境負荷の低減】

インフラの改善／エネルギー消費量の削減／温室効果ガス排出量の削減／水使用量の削減と排水管理／廃棄物発生量の削減／環境配慮型製品の開発／認証の拡充（ISO14001）

【海外戦略の構築と推進】

認証の拡充（ISO9001・FSSC22000）／海外法規制への対応／ブラックジンジャーの海外展開

【高付加価値化の推進】

機能性新素材の投入／バイオサイエンス事業の推進／顧客ニーズの捕捉

【原料調達・原料戦略】

生物多様性条約におけるABS・CBD対応／安定的な供給体制の確立／原料栽培の推進／サプライチェーンの構築／甘草戦略の見直し

【効率的な生産体制の確立】

外部製造委託の活用／効率的な設備投資／分離技術の導入

【在庫の適正化】

商品整理（不効率品目・不採算品目）／在庫削減

【業務の効率化】

DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進／各種情報のデータベース化

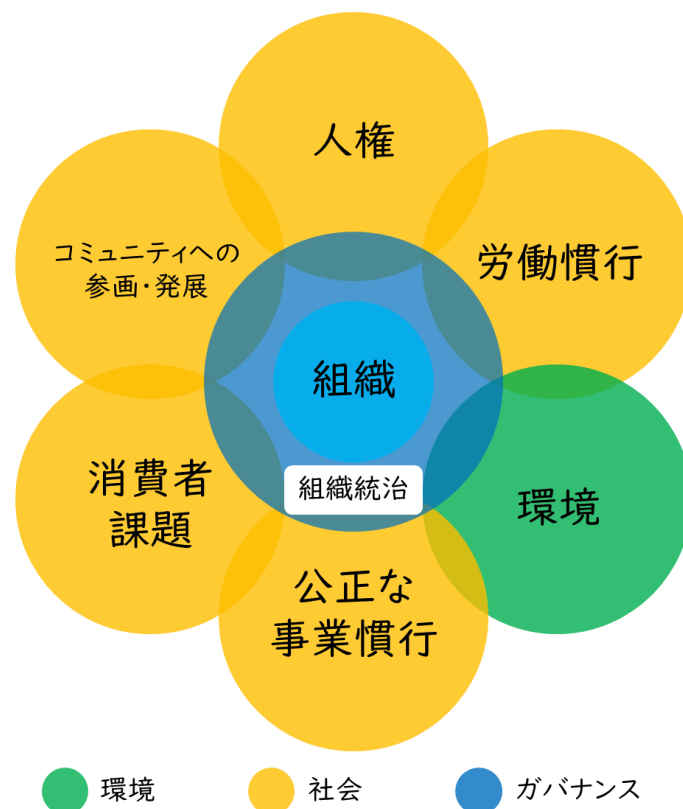
【人事制度の充実】

人材確保／人材活用／教育・育成体系の充実

丸善製薬のサステナビリティ

丸善製薬は、2022年3月にサステナビリティ経営推進のため、国際規格であるISO26000を支持し、7つの中核主題「組織統治」「人権」「労働慣行」「環境」「公正な事業慣行」「消費者課題」「コミュニティへの参画およびコミュニティの発展」をサステナビリティ基本方針として策定しました。

「ISO26000」7つの中核主題とそれぞれの課題



1. 組織統治

2. 人権

- ① デューディリジェンス
- ② 人権に関する危機的状況
- ③ 加担の回避
- ④ 苦情解決
- ⑤ 差別及び社会的弱者
- ⑥ 市民的及び政治的権利
- ⑦ 経済的、社会的及び文化的権利
- ⑧ 労働における基本的原則及び権利

3. 労働慣行

- ① 雇用及び雇用関係
- ② 労働条件及び社会的保護
- ③ 社会対話
- ④ 労働における安全衛生
- ⑤ 職場における人材育成及び訓練

4. 環境

- ① 汚染の予防
- ② 持続可能な資源の利用
- ③ 気候変動緩和及び適応
- ④ 環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復

5. 公正な事業慣行

- ① 汚職防止
- ② 責任ある政治的関与
- ③ 公正な競争
- ④ バリューチェーンにおける社会的責任の推進
- ⑤ 財産権の尊重

6. 消費者課題

- ① 公正なマーケティング、情報及び契約慣行
- ② 消費者の安全衛生の保護
- ③ 持続可能な消費
- ④ 消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決
- ⑤ 消費者データ保護及びプライバシー
- ⑥ 必要不可欠なサービスへのアクセス
- ⑦ 教育及び意識向上

7. コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

- ① コミュニティへの参画
- ② 教育及び文化
- ③ 雇用創出及び技術開発
- ④ 技術の開発及び技術へのアクセス
- ⑤ 富及び所得の創出
- ⑥ 健康
- ⑦ 社会的投資

※出典：「日本語訳ISO26000:2010 社会的責任に関する手引」

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

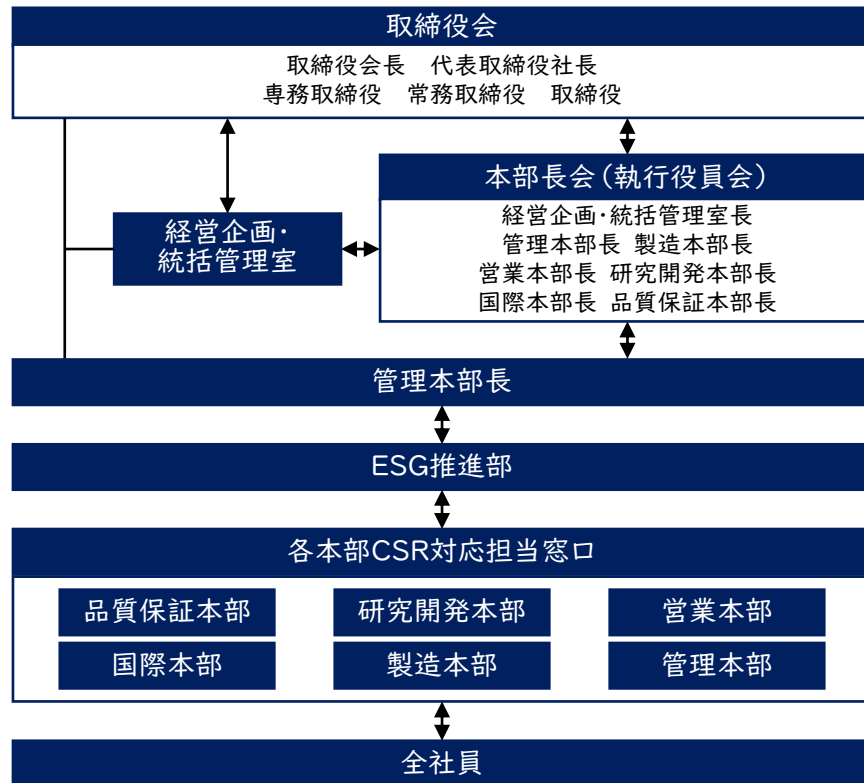
公正な
企業活動

消費者課題

コミュニティへの
参画及び発展

丸善製薬のサステナビリティ

サステナビリティ推進体制



丸善製薬は、サステナビリティに関わる重要事項について、必要に応じて毎月開催される取締役会や本部長会（執行役員会）に議案として提起し、審議を仰ぐ体制を整えています。

企業理念やパーパス、サステナビリティに関わる各種方針は取締役会にて承認され、サステナビリティ重要課題であるマテリアリティは本部長会（執行役員会）で承認され、取締役会へ報告されます。

取引先や銀行、所属団体などステークホルダーからのサステナビリティに関する要望やアンケート等には、ESG推進部が社内の取り組み状況を各本部のCSR対応担当窓口を通じて情報収集し、対応しています。

サステナビリティ重要課題は中期経営計画の重要課題として組み込まれており、基本行動計画と計数計画に基づいて策定された年度計画に対して、四半期ごとにレビューが行われ、本部長会（執行役員会）を通じて経営会議・取締役会へ報告されています。

サステナビリティ基本方針

丸善製薬は、「サステナビリティ基本方針」を定め、持続的な成長と社会への貢献を追求してまいります。ステークホルダーとの良好な関係を築き、社会課題に取り組みながら事業活動を通じて収益性を高め、良き企業市民として社会的責任を果たしてまいります。

1. 組織統治

企業倫理の徹底をはかり、法令を遵守した事業活動を行います。また、迅速な意思決定が行える組織体制で透明性のある経営を行います。

2. 人権

企業活動によって影響を受ける全ての人々の人権を尊重します。

3. 労働慣行

社員の多様性を尊重し、安全でやりがいのある働きやすい企業風土の醸成に努めます。

4. 環境

環境負荷の低減に取り組み、自然と調和する持続可能な社会の実現に貢献します。

5. 公正な事業慣行

お取引様との信頼関係を大切に、公正・透明・自由な競争と適正な取引を行います。また、社会環境面に配慮した、持続可能な調達活動を実施します。

6. 消費者課題

自然からの恵み(有用性)を、独自の技術により、安心・安全でお客様に満足頂ける高品質な製品として安定提供します。

7. コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

良き企業市民として、地域・社会とのコミュニケーションを積極的に図り、社会貢献に取り組めます。

制定:2022年3月14日

丸善製薬「サステナビリティ基本方針」

<https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/sustainability.pdf>

国連グローバル・コンパクトへの賛同

丸善製薬は、国連が提唱している、持続可能な発展を実現するための国際的な枠組みである「国連グローバル・コンパクト(以下、UNGC)」に賛同を表明し、2023年10月23日に参加企業として登録されました。

また、UNGCに署名している日本企業などで構成される「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン」にも加盟しました。

UNGCは、国連と民間(企業・団体)が手を結び、健全なグローバル社会を築くための世界最大のサステナビリティイニシアチブです。

UNGCに署名する企業・団体は、「人権の保護」「不当な労働の排除」「環境への対応」「腐敗の防止」に関わる10原則に賛同し、その実現に向けて努力を継続することが求められています。

丸善製薬は、UNGCの人権、労働、環境、腐敗防止に関わる10原則を支持するトップコミットメントのもと、社会に寄与する良き企業市民として、グローバル社会と協調しながら、全ての事業活動を通じて、UNGC10原則を実践していきます。



国連グローバル・コンパクトの4分野10原則

人権	企業は、原則1: 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、 原則2: 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである
労働	企業は、原則3: 結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持し、 原則4: あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、 原則5: 児童労働の実効的な廃止を支持し、 原則6: 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである
環境	企業は、原則7: 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、 原則8: 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、 原則9: 環境にやさしい技術の開発と普及を奨励すべきである
腐敗防止	企業は、原則10: 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

企業倫理方針・行動規範

企業倫理方針と行動規範

丸善製薬は、「企業倫理方針」と「行動規範」を定め、コンプライアンス経営の推進に取り組んでいます。

「企業倫理方針」とは、企業倫理と法令遵守に対する当社の基本的な考え方をまとめたものであり、「行動規範」とは、この方針を踏まえて全ての役員と従業員のとるべき行動や判断基準を示したものです。これらの考え方を社内で共有し、実践することで、お客様・社会から信頼される企業を目指してまいります。

企業倫理方針

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。この実現のために「企業倫理方針」を策定し、法令や社会ルールおよびその精神を理解し遵守するとともに、社会倫理を尊重し社会的責任を果たしてまいります。

■お客様に対して

お客様のニーズと社会課題の解決を見据えた商品の供給に努めます。
サプライチェーンにおいて倫理的な調達を行います。
情報セキュリティに努めます。

■社会に対して

遵法に徹して公正な企業活動を行い、適切な情報開示を行います。
持続可能な社会の実現への貢献を目指し、社会・環境面に配慮した事業活動を実施します。
社会の多様性に対応し、地域社会とのコミュニケーション活動を推進します。

■従業員に対して

全従業員の人権を尊重する活動を推進します。
スキルアップを支援し、従業員が最大限に能力を発揮できるよう努めます。
安全で快適な職場環境を整え、生産性を高めます。

制定：2024年1月19日

行動規範

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。

「行動規範」は、「企業倫理方針」を踏まえて全ての役員と従業員のとるべき行動や判断基準を示したものです。

世界が直面する環境課題および社会課題の解決がより重要になると考え、事業に関わる全ての皆様と将来の地球環境と社会に対して責任を持って日々の事業活動に取り組んでまいります。

1. 社会への貢献

- ・社会に貢献し、持続可能な発展に努めることを使命とします。
- ・公正・透明性・誠実さ・信頼性など、重要な価値観を尊重します。
- ・素材探索から製品開発まで、分析技術と最先端の評価技術でお客様の声にお応えするとともに、社会課題の解決を見据えた商品の開発に努めます。
- ・お客様の満足度向上に貢献できるよう、安全・安心を最優先とした商品・サービスの提供に努めます。
- ・事故や不良品が発生した時は、迅速に情報開示・安全対策等の対応を行います。
- ・地域社会への貢献を重視し、コミュニケーション活動を推進します。
- ・ボランティア活動や社会貢献活動に積極的に参加します。

2. 公正な企業活動

- ・各国・地域で定められた事業に関するすべての法令・規制・社会規範を遵守します。
- ・反社会的勢力やマネーロンダリングなどの違法行為に携わる者とは、一切の関係を持ちません。
- ・独占禁止法などの関連する法令を遵守し、公正で公平な取引を行います。
- ・会社利益と相反する行為を行いません。
- ・取引先、政治、行政、その他事業関係者と公正な関係を保ち、汚職、贈収賄、不正、詐欺行為など不適切な利益の供与、受理を行いません。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

企業倫理方針・行動規範

3. 情報セキュリティと個人情報・機密情報・知的財産権の保護

- ・コンピュータネットワーク上の脅威に対する防御策及び人的要因による過失から情報を守るための対策を講じ、定期的に確認を行います。
- ・事業活動を通じて入手した顧客、第三者、従業員、その他すべての個人情報及び取引上の情報や技術情報を適切に管理します。
- ・他者の知的財産権を侵害しません。

4. 環境への配慮

- ・事業活動が環境に負荷を与えることを念頭に、環境の保全を考慮し関連法令・規制を遵守します。
- ・研究・開発の段階から製品が環境に及ぼす影響を評価し、環境保全に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
- ・持続可能な資源利用のため、定期的にエネルギーや水、原材料などの事業活動に必要な資源の利用状況を確認し、利用効率の改善を図ります。
- ・事業活動全体を通して省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を促進し、温室効果ガスの発生抑制に努めます。
- ・化学物質の管理を徹底し、大気や水、土壌などの汚染防止に努めます。
- ・有害物質の使用削減、廃棄物の削減、処理、処分の適正化や有効利用を推進します。
- ・生物多様性を尊重し、生物多様性に配慮した事業活動を行います。
- ・持続可能な調達をかなえるために環境保全に配慮した調達活動を行います。

5. 人権と多様性の尊重

- ・個人の権利と多様性を尊重します。
- ・基本的人権を尊重し、国籍・出身地域・言語・人種・民族・宗教・思想・年齢・障がい・性別・性自認・性的指向・雇用形態・配偶者の有無・妊娠等の理由による雇用・採用・昇進などの差別や、個人の尊厳を損なう行為を行いません。
- ・いかなる形態の現代奴隷・あらゆる強制労働を一切認めません。

- ・児童の道德、健康、安全を損なうような就労を防止し、就業年齢に満たない児童労働を撤廃します。
- ・精神的または肉体的苦痛を有する言動やあらゆるハラスメントを行いません。
- ・持続可能な調達をかなえるために社会面に配慮した調達活動を行います。

6. 労働慣行と人材育成

- ・事業活動において適用される労働時間と賃金に関する法令を遵守します。
- ・従業員の健康と安全を第一に考え、健全で働きやすい職場環境づくりと安全の確保に努めます。
- ・従業員と従業員の家族の仕事と私生活の充実のためにワークライフバランスの推進に取り組みます。
- ・結社の自由と団体交渉に関する法令を遵守し、従業員の権利を尊重します。
- ・従業員に教育の機会を提供し、一人ひとりの適性、価値観に配慮した能力開発・自己実現を支援します。
- ・成果や能力を踏まえて、公平・公正・透明かつ意欲向上につながる人事制度を導入します。

制定：2024年1月19日

丸善製薬「企業倫理方針・行動規範」

<https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/conduct.pdf>

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

人権方針

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。

この実現のために「人権方針」を策定し、企業活動全体において、すべての「ひと」が生まれながらにして持つ基本的権利である人権を尊重し、永続的に実現していくための活動を推進してまいります。

1. 基本的な考え方

丸善製薬は、国際人権章典（「世界人権宣言」、「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」、「市民的及び政治的権利に関する国際規約」）及び国際労働機関（ILO宣言）を支持し、規定された人権を尊重しています。また、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を支持し、これに基づく取り組みの実行を通じて、人権尊重の責任を果たします。

2. 人権尊重責務の実行

丸善製薬は、自らが人権侵害を引き起こさないよう努めます。また丸善製薬の事業活動において人権に対する負の影響が生じていることが判明した場合は、是正に向けて適切な対応をとり人権尊重の責任を果たします。

3. 適用範囲

本方針は、丸善製薬の全ての役員と従業員に適用します。また丸善製薬の製品・サービスに係る全てのビジネスパートナー及びサプライヤーに対して、本方針への理解と支持を求め、人権の尊重に努めて頂くよう働きかけていきます。

4. 適用法令

丸善製薬は、事業活動を行う各国における法令および規制を遵守します。各国の法令および規制と国際的に認められた人権規範との間に矛盾がある場合は、国際的な人権規範を尊重する方法を追求していきます。

5. 人権デューディリジェンスの実施

丸善製薬は、人権デューディリジェンスの仕組みを構築し、継続的に実施します。丸善製薬の事業活動が社会に与える人権への負の影響を特定し、その防止および軽減に取り組みます。

6. 救済

丸善製薬の事業活動において人権への負の影響を引き起こしたことが明らかとなった場合、あるいは取引関係者などを通じた関与が明らかとなった場合、適切な手続きを通じてその救済に取り組みます。

7. 対話・協議

丸善製薬は、本方針を実行する過程において、ステークホルダーや独立した外部専門識者との対話と協議を行います。

8. 教育・研修

丸善製薬は、全ての役員と従業員に対し、本方針が丸善製薬の全ての事業活動に組み込まれ、効果的に実行されるよう、適切な研修・教育を行います。

9. 情報開示

丸善製薬は、人権尊重の取り組みおよび人権デューディリジェンスの進捗状況について報告します。

10. 担当責任者

丸善製薬は、本方針の実行に責任を持つ責任者を明確にし、実施状況を監督します。

制定：2022年2月9日
代表取締役社長

日暮泰広

丸善製薬「人権方針」

<https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/human-rights.pdf>

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

環境方針

丸善製薬は、健康で豊かな生活を営むために、かけがえのない地球と限りある資源を次の世代に引き継ぐことが責務であることを認識し、環境と調和した事業活動を積極的に推進してまいります。

1. 生産から廃棄に至るまでの全過程において環境に及ぼす影響を十分に理解した上で、環境に配慮した製品開発と製造技術を推進します。
2. 環境保全活動を推進ならびに徹底するために環境マネジメントシステムを整備し改善していきます。
3. 事業活動に使用するエネルギーや水、原材料などは、温室効果ガスの排出削減および環境負荷の低減に配慮し効率的かつ持続可能とする使用を推進します。
4. 事業活動における廃棄物の削減とリサイクルを行うことにより省資源、省エネルギーに取り組めます。
5. 地域社会の一員として、生物多様性に配慮した事業活動を推進するとともに、環境保全活動への参加と社員の自主的な活動への支援に積極的に協力します。
6. 環境保全活動を推進するために社内体制の整備を行い、社員への周知徹底と意識高揚に努めます。
7. 関連する環境の法規制と当社が同意するその他の要求事項の遵守を約束します。

制定：2022年2月9日

丸善製薬「環境方針」

<https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/environment.pdf>

持続可能な調達方針

丸善製薬は、すべてのサプライヤーからのご支援、ご協力のもと、持続可能な社会の実現への貢献を目指し、社会・環境面に配慮した調達活動を実施します。

1. 品質本位
自社の品質方針に準拠し、品質、安心、安全を優先した原材料の調達を行います。
2. 公正・公平性
サプライヤーの選定においては、品質、価格、納期、取引条件、保有技術、サービス能力、協力度、安定調達、CSRへの取り組み等の観点から総合的な評価により行います。また2社以上のサプライヤーからの競争見積りを原則として、公平な参入機会を提供します。
3. 遵法・倫理
社会の常識、関連する法令や倫理を含む会社の諸規程を遵守し、公正で良識ある調達活動を行います。またいかなるサプライヤーとも個人的な利害関係を持ちません。
4. 協働
サプライヤーとの良好なコミュニケーションのもと、相互理解、信頼関係の構築により、社会の健全な発展を目指します。
5. 人権
強制労働、児童労働、差別、非人道的扱いを支援することはありません。基本的人権を尊重し、労働環境、安全衛生に配慮した調達活動を推進します。
6. 環境
人に優しい世の中に役立つ事業継続と、地球環境の保全のために、関係する法令を遵守し、「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生する調達活動を実践します。
7. 情報セキュリティの保持
調達活動に関わる機密情報及び個人情報に関係する法令を遵守厳重に管理します。

制定：2020年12月9日

改定：2022年2月9日

丸善製薬「持続可能な調達方針」

<https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/policy.pdf>

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬の サステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な 企業活動	消費者課題	コミュニティへの 参画及び発展
----------	------	-------------------	------	----	------	----	-------------	-------	--------------------

サプライヤー行動規範

1. 品質と安全性の確保

- (1) 安全を最優先とした商品・サービスの提供に努めます。
- (2) 事故や不良品が発生した時は、情報開示、安全対策等の対応を行います。

2. 法令・社会規範の遵守

- (1) 各国・地域で定められた事業に関する法令と社会規範を遵守します。
- (2) 取引先、政治、行政、その他事業関係者と公正な関係を保ち、汚職、贈収賄、不正、詐欺行為など不適切な利益の供与、受理を行いません。
- (3) 反社会的勢力やマネーロンダリングなどの違法行為に携わる者とは、一切の関係を持ちません。
- (4) 独占禁止法などの関連する法令を遵守し、公正で公平な取引を行います。
- (5) 会社利益と相反する行為を行いません。

3. 人権の尊重

- (1) 個人の人権と多様性を尊重します。
- (2) 基本的人権を尊重し、国籍・出身地域・言語・人種・民族・宗教・思想・年齢・障がい・性別・性自認・性的指向・雇用形態・配偶者の有無・妊娠等の理由による雇用・採用・昇進などの差別や、個人の尊厳を損なう行為を行いません。
- (3) いかなる形態の現代奴隷も一切認めません。
- (4) あらゆる強制労働を一切認めません。
- (5) 児童の道德、健康、安全を損なうような就労を防止し、就業年齢に満たない児童労働を撤廃します。
- (6) 結社の自由と団体交渉に関する法令を遵守し、労働者の団結権や団体交渉の権利を尊重します。
- (7) 自らの事業活動において適用される労働時間と賃金に関する法令を遵守します。
- (8) 精神的または肉体的苦痛を有する言動やあらゆるハラスメントを行いません。

4. 環境への配慮

- (1) 事業活動が環境に負荷を与えることを念頭に、環境の保全を考慮し関連法令・規制を遵守します。
- (2) 持続可能な資源利用のため、定期的にエネルギーや水、原材料などの事業活動に必要な資源の利用効率の改善を図ります。
- (3) 廃棄物の削減、処理処分の適正化や有効利用を推進します。
- (4) 事業活動全体を通して省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を促進し、温室効果ガスの発生抑制に努めます。
- (5) 大気や水、土壌などの汚染防止に努めます。
- (6) 生物多様性を尊重し、生物多様性に配慮した事業活動を行います。

5. 情報セキュリティと個人情報・機密情報・知的財産権の保護

- (1) コンピュータネットワーク上の脅威に対する防御策及び人的要因による過失から情報を守るための対策を講じ、定期的に確認を行います。
- (2) 事業活動を通じて入手した顧客、第三者、従業員、その他すべての個人情報及び取引上の情報や技術情報を適切に管理します。
- (3) 他者の知的財産権を侵害しません。

制定：2022年2月9日

丸善製薬「サプライヤー行動規範」

<https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/supplier.pdf>

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

品質方針

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。

この実現のために「品質方針」を策定し、『顧客満足度向上』ならびに『会社信頼度向上』の実現に取り組みます。

1. 人々の健康と美の実現を願って抽出道を究め、国内外のお客様のニーズと信頼に応える製品を提供します。
2. お客様に「安心・安全」な製品を「安定的」に提供する事を使命とし、品質の確保と向上に取り組みます。
3. 適用される法令・規制要求事項の遵守を基本とし、社会的要求事項に応えます。
4. 品質マネジメントシステムを運用し、その有効性の継続的な改善により信頼性の向上に努めます。

制定：2022年2月9日

丸善製薬「品質方針」

<https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/quality.pdf>

ステークホルダーとのコミュニケーション

丸善製薬は、社会に貢献する企業であり続けるために、ステークホルダーの皆さまの声に耳を傾け、以下のようなコミュニケーションの機会、アプローチの方法を通じて、ステークホルダー・エンゲージメントを推進しています。

	丸善製薬の責任	アプローチ方法
株主	・事業成長(売上・利益) ・株主への利益還元 ・健全で透明な経営 ・説明責任 ・企業価値の向上	・株主総会 ・社員持株会
お客様	・顧客満足度の向上 ・安心安全な製品とサービスの提供 ・人々が美しく健康でいられる社会づくりに貢献する製品とサービスの提供 ・製品情報の発信	・営業活動を通じたコミュニケーション ・学会、見本市、展示会への参加 ・品質保証 ・工場視察 ・ウェブサイトなどによる情報提供
サプライヤー	・人権、環境等に配慮したサプライチェーンマネジメントの構築 ・責任ある原材料調達	・調達活動を通じてのコミュニケーション ・持続可能な調達方針、サプライヤー行動規範の周知活動、サプライヤーアンケートによるモニタリングとフィードバック
従業員	・人権と多様性(ダイバーシティ)の尊重 ・労働安全衛生の推進 ・働きやすい環境の提供 ・働きがい支援 ・健康増進 ・公正な評価と処遇 ・福利厚生の実施 ・人材の活用と育成	・労働時間等設定改善委員会 ・安全衛生委員会 ・健康診断、健康情報誌配信 ・各種研修 ・社内報およびイントラネット ・人事考課面談、1on1ミーティング ・自己啓発支援、資格取得支援 ・サステナビリティレポート説明会とアンケート
コミュニティ	・国際イニシアチブとの協働によるグローバル課題解決への貢献 ・地域社会における社会的、経済的な課題解決への貢献 ・健康増進に関する次世代教育 ・自然環境への配慮 ・生物多様性の保全	・国際イニシアチブへの参画(UNGC) ・ウェブサイト、サステナビリティレポートなどによる情報提供 ・社会貢献活動と地域コミュニティへの参画 ・地域イベントを通じての地域住民とのふれあい ・地域教育機関への出前授業 ・環境美化活動、緑化ボランティア

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な
企業活動

消費者課題

コミュニティへの
参画及び発展

SDGs宣言

丸善製薬は、国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、SDGsの達成に貢献することを、主体的に果たすべき責任と捉え、事業活動を通じて、社会・環境課題等の解決に取組み、SDGsの達成に貢献していきたいと考えております。自然界の有用植物を中心に、そのものが持つ機能性成分を医薬品、化粧品、健康食品、食品添加物などの分野で素材提供しています。

長きにわたり向き合ってきた自然の恵みを、事業を通じて人びとの健康で豊かな暮らしへ貢献するため、事業に関わる全ての皆様と地球環境の将来に対して責任を持って日々の事業活動を行うべく、取り組みを開始しています。

これまでに経済産業省関東経済産業局公表の「SDGsの観点で市場・社会から期待される基本的な事項」をもとに作成されたオリジナルのチェックシートにより、当社のSDGsへの取り組み状況の確認を行い、また全従業員のSDGs貢献への意識向上のため、SDGsバッジを配布しました。

このバッジは2014年、2018年の2度にわたる集中豪雨により土砂災害被害を受けた広島市安佐北区大林地区の間伐材を使い製作されたものです。バッジを装着することで気候変動対策や緑の豊かさを守る意識を高めながら日々の業務に取り組んでいます。

これらに総合的に取り組む事で、経営理念や企業理念の実践、企業価値の向上に取り組んでまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



*2015年9月国連サミットで参加国193ヶ国により採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されている2016年から2030年までの17の目標です。(国際連合広報センターWebサイトより)

丸善製薬株式会社 SDGs宣言

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、積極的な取り組みを通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

2021年6月3日
丸善製薬株式会社
代表取締役 日暮 泰広

当社のSDGsへの貢献

公正な企業活動

役員と従業員が一体となり、法令遵守を徹底した企業活動を実施することで、パートナー、お取引先、地域の皆さまから信頼いただける企業を目指します。

【主な取組み】

- 法令遵守徹底に向けた社内規程・体制整備と継続的な啓発
- 汚職・贈収賄防止の啓発
- 最先端のセキュリティ対策による情報の管理徹底
- 個人情報保護ポリシー制定・開示と情報管理状況の定例監査実施



人権の尊重

全従業員と、原材料調達から製造・販売にいたるまで関わるすべての人の人権を尊重し、誰もが働きがいを持てる社会の実現に貢献してまいります。

【主な取組み】

- 休暇制度充実や業務効率化による長時間労働抑制等、働き方改革推進によるワークライフバランス向上(広島県働き方改革実践企業:2017認定)
- 選性・産前産後に応じた人材育成とキャリア形成・支援制度の充実
- 調達方針への基本的人権尊重の明記と継続的な啓発の実施



環境負荷の低減

事業活動における環境への負荷を考慮した取組み推進により、温室効果ガスの排出削減を実施し、地球環境の保全に努めてまいります。

【主な取組み】

- 環境マネジメントシステムの確立と継続的改善・社内での啓発実施
- 省エネ設備・LED照明の導入による工場・オフィスでの省エネ実践
- 環境負荷低減エネルギー推進(LV6への転換、ソーラー発電導入)
- 排水処理・水質管理徹底による水資源の保全
- 久井ファームにおける抽出液濃縮肥化による循環サイクルの構築



品質・安全性の確保と向上

品質の確保・向上のための体制構築と継続的改善、安全性の管理徹底により、お客様に安心して使っていただける確かな製品を安定してお届けしてまいります。

【主な取組み】

- 品質管理部門の設置と品質検査の徹底
- GMPを遵守した工場での主力製品製造
- 三次工程・精製部門のISO9001:2015認証取得
- 設計段階からの環境・健康リスク評価の徹底



自然の恵みをつなぐ

「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生しながら、最先端の技術とたゆまぬ研究・開発により、お客様、社会そして未来へと、自然の恵みをお届けし続けます。

【主な取組み】

- 素材採掘から製品開発までお客様ニーズに対応するための分析技術・評価技術の研究・向上のための取組み
- 社内アイデア提案会の開催
- 特許・商標等の知的財産管理の徹底



地域への貢献

“Work locally. Think globally”(尾道から世界を考える)を実現する企業として、尾道から世界へ新たな価値をお届けし、地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。

【主な取組み】

- 地域の消費者へ直接お届けする「尾道健康館シリーズ」の企画・販売
- 尾道市内の小学校への尾道健康館シリーズのドリンク寄付
- 尾道市役所建設への寄付
- 尾道地区における積極的な設備投資や地元企業への積極参画
- 経済産業省「地域未来創生企業」への認定



※SDGsとは Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略。持続可能な社会をつくるために、世界が抱える課題17を目標として169のターゲットに整理したもので、2016年9月に国連で採択された。国連加盟国193ヶ国すべて、政府、企業、市民社会のあらゆる人が、SDGsを実現するための役割を担っている。

自然の恵みをつなぐ

丸善製薬株式会社

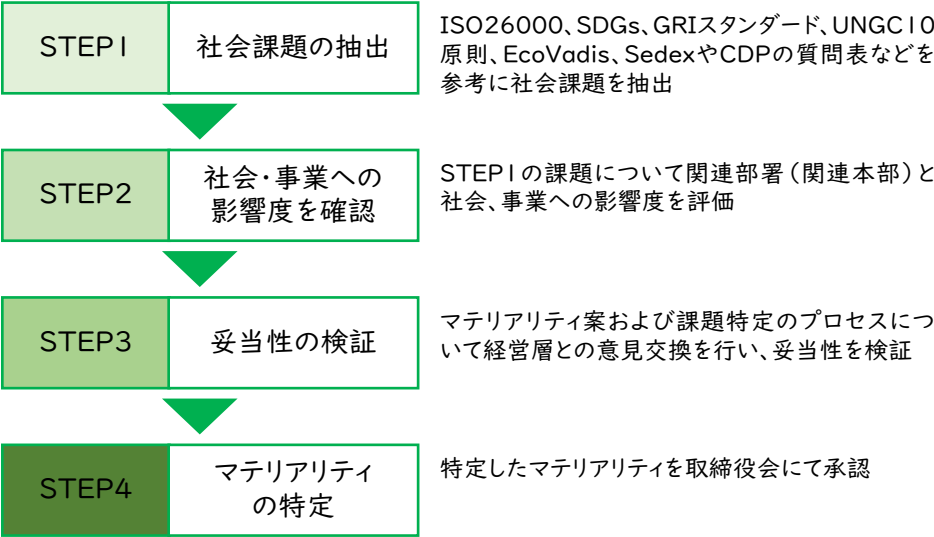
トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

マテリアリティ(重要テーマ・重要課題)の特定

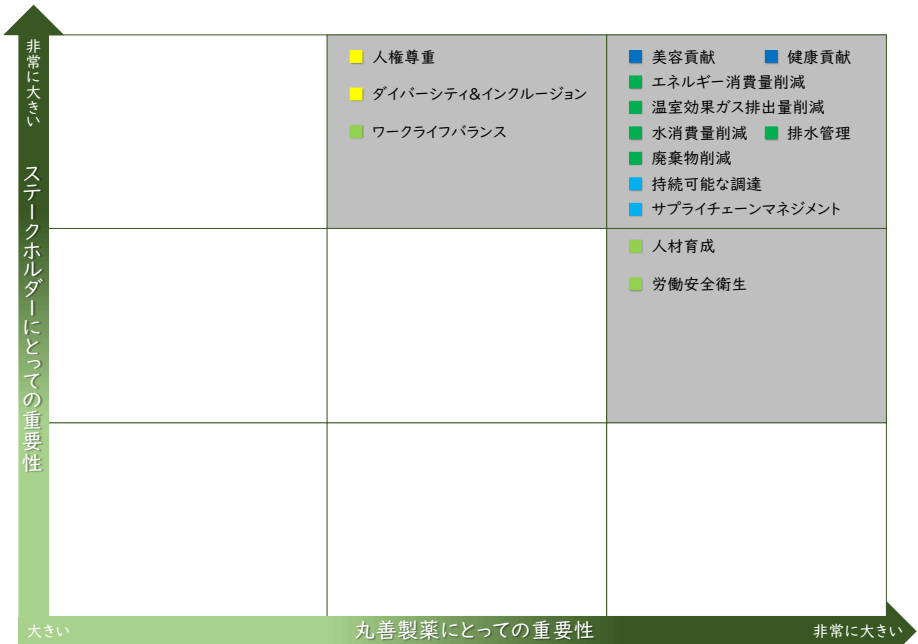
丸善製薬は、経営ビジョンの実現やSDGsへの貢献を目指し、2050年のあるべき姿・ありたい姿を想い描き、2050年時点の社会像からバックキャストして、2050年および2030年までに取り組むべきマテリアリティ(重要テーマ・重要課題)の検討を進め、2022年度に以下のステップを通じてマテリアリティを特定しました。

マテリアリティは、事業や地球環境、社会のサステナビリティを考慮し、当社事業と社会の双方にとって重要な内容であることが望ましいと考えています。マテリアリティの特定後は、社内外のステークホルダーからの助言等も踏まえながら、各マテリアリティに対する目標やKPI(Key Performance Indicator／重要業績評価指標)を設定し、2024年度から新たにスタートした中期経営計画(2024年4月～2030年3月)の重要課題として組み込み、経営とサステナビリティを推進しています。

マテリアリティ特定プロセス



マテリアリティマップ



マテリアリティの特定については、
1) まず、組織(企業)の視点から、持続可能な発展への影響を考慮して社会課題と企業活動との「関連性」を絞り込む。
2) 次に、その関連性における「重要性」の判断として、ステークホルダーの視点からステークホルダー及び持続可能な発展に及ぼす影響の程度、社会からの期待、行動の効果について考慮する。
3) 「重要性」の判断において、判断の拠り所とする基準を以下とする。
①課題がステークホルダー及び持続可能な発展に及ぼす影響の程度
②課題に対して行動をとった、あるいはとらなかったことによる影響
③課題に対してステークホルダーが抱く懸念の程度
④それらの影響に関して、社会がそのような責任ある行動を期待しているか

★丸善製薬にとって優先するステークホルダー
i) お客様 ii) 従業員 iii) 地域

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

マテリアリティ(重要テーマ・重要課題)

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
美と健康への貢献	美と健康へ貢献する製品開発	自然の恵みを世界につなぎ、すこやかな社会を支え、すべての人が笑顔であり続ける未来を実現します。	■食品 人生100年時代到来に向け健康寿命延伸をキーワードに製品開発を実施します。製品の有効性や安全性といった機能面は勿論、持続可能な原料調達も含めてお客様に信頼頂けるモノづくりを実施します。 ■化粧品 エビデンスに基づいた実効感、そして安全性や持続性など様々な点で信頼される化粧品原料開発を行うと共に、お客様の価値創造を徹底的にサポートします。	
環境負荷の低減	エネルギー消費量の削減	エネルギー消費量原単位換算で、2013年度比40%削減を目指します。	エネルギー原単位換算で、2013年度比20%削減を目指します。	
	温室効果ガス排出量の削減	温室効果ガス排出量の実質ゼロ(カーボンニュートラル)を目指します。	温室効果ガス排出量について、Scope1、2において2013年度比46%削減を目指します。Scope3において2027年までに排出量を把握し、2030年に向け削減していくことを目指します。	
	水使用量の削減と排水管理	サプライヤーでの環境負荷低減の技術支援を実施し、サプライチェーン全体として水の管理を進めます。	水資源使用原単位量(取水量)について、2013年度比10%削減を目指します。	
	廃棄物発生量の削減	5R(Reduce〈削減〉、Reuse〈再利用〉、Recycle〈再資源化〉、Renewable〈持続可能な資源の活用〉、Repair〈修理して使う〉)を推進し廃棄物の排出ゼロを目指します。	マテリアルフロー分析を実施し、廃棄物発生量の削減を進めます。Reduce:プラスチック使用量の削減 Renewable:抽出原料残渣の100%有効利用化(堆肥化/燃料化/飼料化)	

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
持続可能な調達とサプライチェーンマネジメント	持続可能な調達	全ての原料についてサプライヤーとの協働によって「持続可能な調達方針」を推進し、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	主要原料についてサプライヤーとの協働によって「持続可能な調達方針」を推進し、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	
	サプライチェーンマネジメント	「サプライヤー行動規範」に沿って、国内外のサプライヤーへのモニタリング調査を実施し、サプライチェーン全体における人権・労働・環境等の課題の把握と対応を目指します。	「サプライヤー行動規範」に沿って、国内外のサプライヤーへのモニタリング調査を実施し、サプライチェーン全体における人権・労働・環境等の課題の把握と対応を目指します。	
人権の尊重	人権尊重	ステークホルダーの人権リスク低減や従業員の人権教育に取り組み、従業員がいきいきと働き、能力を伸ばしていける環境づくりを目指します。	ステークホルダーの人権リスク低減や従業員の人権教育に取り組み、従業員がいきいきと働き、能力を伸ばしていける環境づくりを目指します。	
	ダイバーシティ&インクルージョン	多様な人材が個性や能力を発揮し、お互いを認め合いながら、いきいきと働くことができ、働きがいのある職場環境づくりを目指します。	多様な人材が個性や能力を発揮し、お互いを認め合いながら、いきいきと働くことができ、働きがいのある職場環境づくりを目指します。障がい者、女性、シニア層がより活躍できる環境を目指します。	
人権の尊重(労働慣行)	ワークライフバランス	従業員一人ひとりのライフスタイルに応じて能力を発揮し、働きがいを持って働ける職場の実現を目指します。	従業員一人ひとりのライフスタイルに応じて能力を発揮し、働きがいを持って働ける職場の実現を目指します。	
	労働安全衛生	労働安全衛生に関する法令遵守および安全意識と設備安全を徹底し、従業員が、安全、健康で快適に働けることを目指します。	労働安全衛生に関する法令遵守のもと、安全衛生に関する基本ルール徹底、設備や作業手順の改善により、安全操業基盤を強固にすることで、従業員が、安全、健康で快適に働ける職場環境づくりを目指します。	
	人材育成	従業員一人ひとりが多彩な能力を最大限に発揮し、高い目標に向かって挑戦することで成果を創出する人材の育成を目指します。	従業員一人ひとりが多彩な能力を最大限に発揮し、高い目標に向かって挑戦することで成果を創出する人材の育成を目指します。	

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

サステナビリティ情報プラットフォーム

Sedex (セデックス)

Sedex (Supplier Ethical Data Exchange) は、責任ある調達活動の推進などを目的とした、イギリスに本拠を置くNPO会員組織であり、会員間で責任ある事業慣行の情報を共有するためのプラットフォームを提供しています。

丸善製薬は2016年に加入し、本社・本社工場、新尾道工場、三次工場の3拠点を登録しています。取引先からのエシカル情報の共有要請に応えるため、サプライヤーとしてSAQ (Self-Assessment Questionnaire) に回答し、同プラットフォームを通じて情報を提供しています。



EcoVadis (エコバディス)

EcoVadis社 (エコバディス社) は、グローバルサプライチェーンを通じた企業の環境・社会的慣行の改善を目指して2007年に設立された、企業のESG (環境・社会・ガバナンス) 関連取り組みを評する価機関です。約175か国・約200業種10万社以上の企業を対象に、「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な資材調達」の4分野における企業の方針、施策、実績について評価を行い、スコアカードを発行しています。丸善製薬は2018年に加入し、4分野の質問票に回答しています。

2024年度は、上位5%以内 (カットオフスコア:73点) に該当する「ゴールド」評価を獲得しました。

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
評価					
パーセンタイル	上位26%	上位18%	上位11%	上位7%	上位2%
総合得点	54点	59点	65点	70点	79点

CDP (シーディーピー)

CDPは、2000年にイギリスで設立された国際的な環境非営利団体 (NGO) です。機関投資家の支援を受けて運営されており、企業に対して気候変動、水、森林などに関する質問書を提供し、情報開示を求めています。回答内容に基づき、各企業のスコアリングを行なっています。

丸善製薬は2016年より、「気候変動」「水セキュリティ」の各質問書に回答しています。

2024年度には、気候変動、水セキュリティともに「B」評価を獲得しました。



	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
気候変動	C	D	B-	B-	B
水セキュリティ	C	C	C	B	B

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1.組織統治

企業倫理の徹底をはかり、法令を遵守した事業活動を行います。
また、迅速な意思決定が行える組織体制で透明性のある経営を行います。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬の サステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な 企業活動	消費者課題	コミュニティへの 参画及び発展
----------	------	-------------------	------	----	------	----	-------------	-------	--------------------

1) コーポレートガバナンス

経営会議

丸善製薬の経営会議は、取締役会および代表取締役の統括のもと、執行役員も交えて業務執行状況の確認や重要事項の審議を行う場です。

経営会議では、企業理念やパーパス、サステナビリティに関わる各種方針の承認、マテリアリティの審議などが行われます。

取締役報酬の基本方針

【報酬方針】

取締役の報酬は、固定報酬としての役員報酬、変動報酬としての賞与（定例・特別）、通勤・赴任・旅費等の手当、退任時の退任慰労金から構成されます。

固定報酬は、取締役の行動が短期的・部分的なものとならないように、職務の遂行に対する基本的な報酬として役割や職責に応じた設計とします。

変動報酬は、毎年の事業計画達成への短期的なインセンティブを高めるため、当該事業年度の業績を強く反映させるものとします。

【報酬決定のプロセス】

取締役の報酬は、役員就業規則により定められており、報酬の総額は株主総会の決議により決定されます。各取締役に對する割り当ては、従業員給与の最高額を基準として代表取締役社長が決定します。

手当は各関係規程に基づき、退任慰労金は役員退職慰労金規程により定められています。

2) コンプライアンス

丸善製薬は、役員と従業員が一体となり、社内規程で法令遵守を掲げ、法令遵守を徹底した公正な企業活動を行っています。企業活動に関係する法令の制定や改正があった場合には、総務部門が中心となって社内に通達し、周知徹底を図っています。

通報窓口の設置

丸善製薬では、法令や倫理を含む社内規程への違反行為を発見した場合に備え、「コンプライアンス相談・通報窓口」を設置しています。従業員はこの窓口を通じて、相談や通報を行うことができ、寄せられた内容は精査のうえ、事実関係を正確に把握し、必要に応じて適切な是正措置を講じています。

内部相談窓口では、相談相手が従業員であることから心理的なハードルがある点に配慮し、外部相談窓口も設置しています。

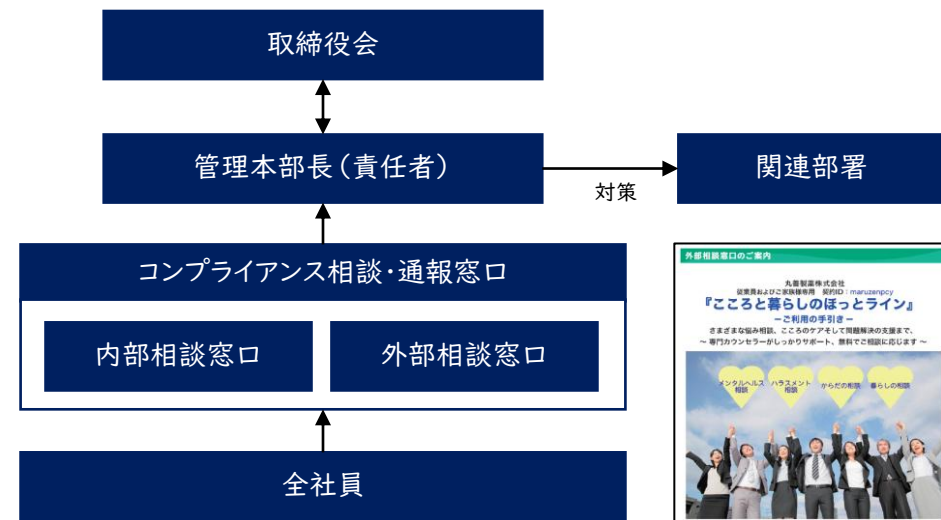
外部相談窓口では、専門のカウンセラーが電話、Web、対面、オンラインなど多様な手段で相談に対応し、相談者の同意がない限り、会社には内容が通知されることなく、プライバシーが確保された環境で安心して相談することができます。

会社には、コンプライアンス関連およびハラスメント関連の相談件数が報告され、相談者が会社への通知を希望した場合に限り、同意を得た範囲内で情報が共有され、適切な対応が行われる体制を整えています。

通報に基づく調査にあたり、通報者のプライバシーや秘密保持に対して最大限配慮し、また誠実に通報を行った通報者が、通報を行ったことを理由として解雇、配置転換、差別などの不利益な取り扱いを受けることがないことを社内文書や事業所内掲示を通じて周知を図っています。

また、相談・通報への対応が完了後も、相談・通報者に対して不利益な取り扱いや職場内での嫌がらせなどが行われていないかを確認するなど、十分なフォローアップを行います。

コンプライアンス対応体制



【コンプライアンスの相談・内部告発数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
内部相談窓口	0件	0件	0件	0件	0件	0件
外部相談窓口				0件	0件	0件

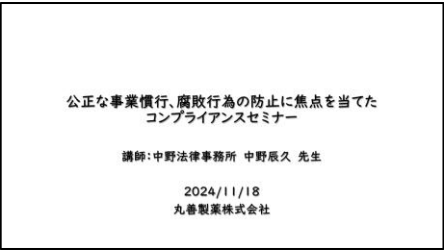
2024年度、コンプライアンスに関して相談・通報窓口寄せられた通報は0件でした。引き続き、コンプライアンス違反や違反の温床になりかねない事態が発見された場合には、必要な是正措置を行い、同種の問題が発生しないよう徹底してまいります。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) コンプライアンス

コンプライアンス教育

コンプライアンスの徹底のためには、個人のコンプライアンス意識を高める必要があることから、継続的な教育の実施が必要です。
2024年度は外部講師を招き、取締役および従業員を対象としたコンプライアンスに関する研修を実施しました。



【コンプライアンス・ガバナンスに関する研修実績】

～取締役～

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	-名	-名	-名	-名	6名	6名
受講者数	-名	-名	-名	-名	6名	2名
受講率	-%	-%	-%	-%	100.0%	33.3%

～管理職～

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	-名	-名	-名	-名	64名	71名
受講者数	-名	-名	-名	-名	52名	64名
受講率	-%	-%	-%	-%	81.3%	90.1%

～従業員～

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	-名	-名	-名	-名	-名	457名
受講者数	-名	-名	-名	-名	-名	427名
受講率	-%	-%	-%	-%	-%	93.4%

法規制の遵守

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
労働に関する法規制の違反件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件
環境に関する法規制の違反件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件
社会経済分野の法規制の違反による罰金・課徴金	0円	0円	0円	0円	0円	0円
社会経済分野の法規制以外の違反件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件
社会経済分野の法規制以外の違反による罰金・課徴金	0円	0円	0円	0円	0円	0円

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

3) リスクマネジメント

丸善製薬は、リスクに対して規程やガイドラインを策定し、災害および事故のリスク、情報セキュリティ上のリスク、品質上のリスクに的確に対処するための組織横断的な管理体制を構築し、リスクマネジメントを行っています。

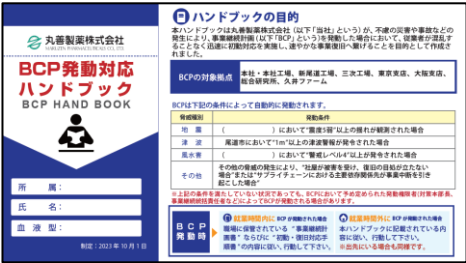
BCP（事業継続計画）への取り組み

丸善製薬は、医薬品、医薬品用素材抽出物、医薬部外品用素材抽出物、化粧品用素材抽出物、食品添加物、食品、食品用素材抽出物、健康食品、健康食品用素材抽出物の製造販売を主な事業としています。これらの事業が中断した場合、当社製品ならびにサービスを利用されているお客様に多大な影響を与え、お客様からの信頼を失うことが予想されるため、当社の事業を中断させる様々な脅威への対応として、事業継続計画を策定し、社内外の環境変化に応じた継続的改善を行っていくことを宣言しています。

BCPの策定にあたり、事業継続に関する法令、国内外の指針、その他の規範等を遵守するとともに、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応能力を強化することによって、SDGsの達成に貢献します。

不慮の災害や事故などの発生によりBCPが発動した場合、混乱することなく迅速に初動対応を実施し、速やかな事業復旧へ繋げることができるよう、全ての従業員に「BCP発動対応ハンドブック」を配布しています。

全従業員を対象としたBCP研修を実施し、事業継続に関する意識と組織対応能力の向上を図っています。



【管理職を対象としたBCPに関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	-名	-名	-名	-名	64名	71名
受講者数	-名	-名	-名	-名	64名	0名
受講率	-%	-%	-%	-%	100.0%	0.0%

【従業員を対象としたBCPに関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	-名	-名	-名	-名	466名	457名
受講者数	-名	-名	-名	-名	466名	13名
受講率	-%	-%	-%	-%	100.0%	2.8%

情報セキュリティへの取り組み

丸善製薬は、機密情報・個人情報などの情報資産を、サイバー攻撃をはじめとするあらゆる脅威から守るため、取締役会での審議を経て、「情報セキュリティ基本方針」を策定し、2025年4月より、当方針のもと情報セキュリティの取り組みを推進することを決定しました。

今後は、継続的な改善を行いながら、お客様・取引先・社会の信頼に応えるべく情報セキュリティの維持に努めてまいります。

情報セキュリティ基本方針

丸善製薬株式会社（以下「当社」という。）は、お客様および取引先からお預かりした、または当社が保有する機密情報および個人情報などの情報資産（以下「情報資産」という。）を事故・災害・犯罪などの脅威から守り、お客様および取引先ならびに社会の信頼に応えるべく、当社の情報セキュリティに対する取り組みの指針として情報セキュリティ基本方針を定め、情報セキュリティの維持に努めます。

- 1.経営者の責任
当社は、経営者主導で組織的かつ継続的に情報セキュリティの改善・向上に努めます。
- 2.情報セキュリティに関する内部規程の整備
当社は、情報資産の機密性、完全性および可用性を保護するために情報セキュリティに関する内部規程として情報セキュリティ対策基準を整備し、組織的・人的・物理的・技術的な対策を講じます。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

3) リスクマネジメント

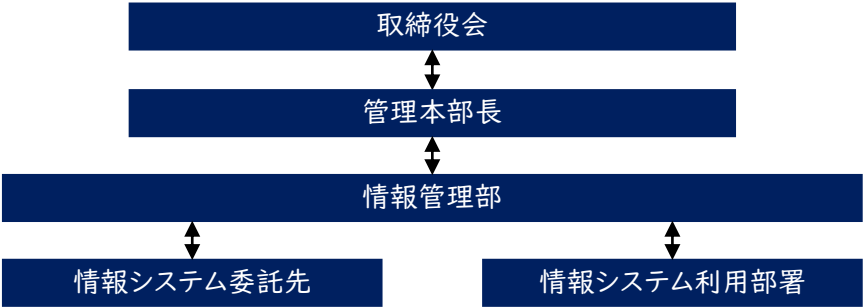
- 3.情報セキュリティ推進体制の確立
当社は、情報資産を保護するために情報セキュリティ対策基準に基づき情報セキュリティ委員会を組織し、情報セキュリティ対策の推進に努めます。
- 4.情報セキュリティに関する教育、研修の実施
当社は、経営者および従業員が情報資産の重要性を十分に認識し、情報資産を適切に取り扱うことにより情報漏えいの発生を防止するために必要な教育および研修を実施します。
- 5.情報セキュリティ対策の継続的改善
当社は、情報セキュリティ対策の実効性を定期的に評価するとともに情報セキュリティ対策基準および情報セキュリティに関連する諸規則、ならびに情報セキュリティ推進体制を見直し、情報セキュリティ対策の継続的な改善を図ります。
- 6.法令等の遵守
当社は、情報セキュリティに関わる法令、規則、規範、契約上のセキュリティ要求事項を遵守します。
- 7.違反および事故への対応
当社は、情報セキュリティに関わる法令、規則、規範および契約への違反、および情報セキュリティ事故が発生した場合には適切に対処し、再発防止に努めます。

制定日：2025 年4月1日
丸善製薬株式会社
代表取締役社長 日暮泰広

情報セキュリティ推進体制

丸善製薬は、情報セキュリティに関わる重要事項について、必要に応じて毎月開催される取締役会に議案として提起し、審議を仰ぐ体制を整えています。

情報セキュリティに関する課題は、基本行動計画と計数計画に対して四半期ごとにレビューが行われ、本部長会（執行役員会）を通じて取締役会へ報告されています。



情報セキュリティ対策

丸善製薬は、以下のような多面的なセキュリティ対策を基本的な考え方としています。

対策分類	対策内容
組織的対策	情報セキュリティ対応体制の構築 情報システム委託先との情報共有体制の構築
制度的対策	セキュリティに関する標準、基準文書の策定
人的対策	定期的な情報セキュリティ教育の実施
物理的対策	パソコン、携帯電話などの紛失時対策およびアクセス制御対策 入退室管理などが完備されたデータセンターの利用
技術的対策	マルウェア対策、脆弱性対策などの実施

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

3) リスクマネジメント

サーバーやデータは、免震構造の優れたデータセンターに保持し、バックアップを定期的に行い外部に保管するとともに、クラウド化を推進しリスク低減に努めています。在宅勤務などで業務を行う際のパソコン等の情報通信機器やソフトウェアの利用については、セキュリティを重視した利用環境を整備し、関連する規程を従業員に周知しています。

情報セキュリティ教育

サイバー攻撃に備え、24時間365日対応の侵入検知サービスによる監視の強化や感染拡大検知技術を利用した2次感染防止対策など、最先端のセキュリティ対策を継続して行っています。標的型メール攻撃対策システムを導入し、侵入を防ぐ対策に限らず、攻撃を受けた際の検知・分析への対策も強化しています。

また、情報セキュリティ教育や定期的な啓発活動として、役員・従業員を対象に「標的攻撃型メールに対する訓練」を実施しています。このメール訓練は、役員・従業員の「情報セキュリティに対する危機意識の強化」を図るとともに、訓練結果を分析し、今後のセキュリティ対策へ役立てることを目的としています。訓練後には、分析結果および情報セキュリティを取り巻くリスクについての報告を行っています。

【管理職を対象とした情報セキュリティに関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	61名	63名	61名	63名	64名	71名
受講者数	61名	63名	61名	63名	64名	71名
受講率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

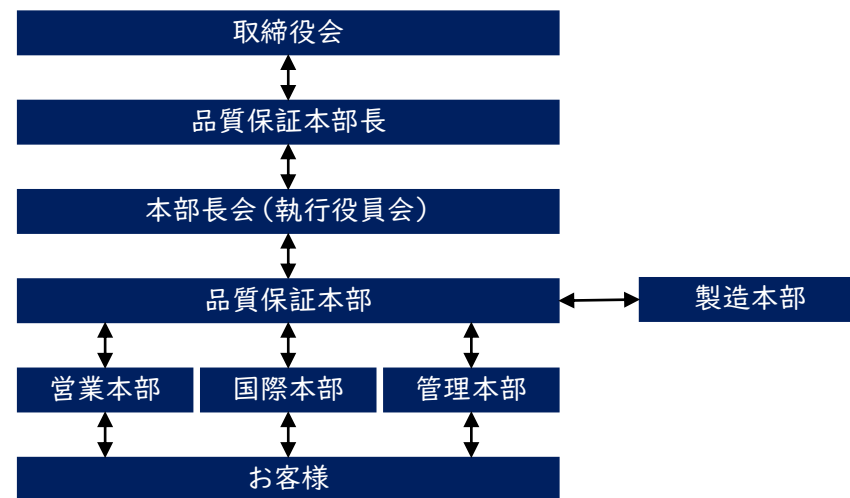
【従業員を対象とした情報セキュリティに関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	409名	417名	422名	437名	466名	457名
受講者数	409名	417名	422名	437名	466名	457名
受講率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

クレーム発生時の取り組み

丸善製薬は、クレーム発生時には品質保証本部が軸となり、発生原因と対策を明確にし、迅速な対応を行っています。また、重大クレームが発生した際には速やかに取締役会に報告して適切な措置を講じています。併せて、クレーム情報は関連部署への水平展開を図ることで再発防止に役立てており、製造時のトラブルについても同様に原因と対策を明確にして情報共有を行い、再発防止に役立てています。

製品重大クレーム対応体制



【製品回収／健康・安全問題の発生件数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
製品回収件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件
健康・安全問題件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2.人権

企業活動によって影響を受ける全ての人々の人権を尊重します。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) 人権の尊重

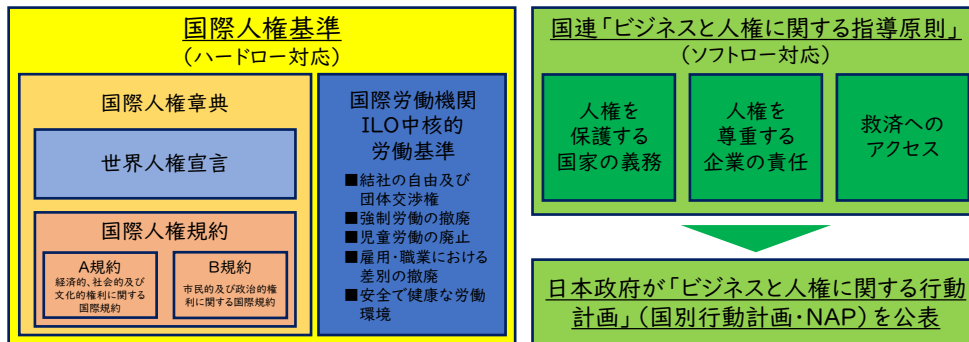
丸善製薬は、「あなたに贈る、自然のいのち・・・高めます、ヘルス・ビューティ・ヒューマニティ」を会社の使命観として、そこから生まれる喜びを享受するという明確な目的意識と思想で事業を展開しています。これからも「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生しながら世界に向け自然の恵みを提供し続けていくためには、世界中の人権が守られ尊重される社会の構築が重要です。

バリューチェーン全体において直接または間接的に人権に影響を及ぼす可能性があることを認識し、事業に関わるすべての「ひと」の人権を尊重するため、2022年2月に取締役会での審議を経て、「人権方針」を策定しました。今後は、当方針のもと人権尊重の取り組みを推進し、継続的な改善を行いながら、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
人権の尊重	人権尊重	ステークホルダーの人権リスク低減や従業員の人権教育に取り組み、従業員がいきいきと働き、能力を伸ばしていける環境づくりを目指します。	ステークホルダーの人権リスク低減や従業員の人権教育に取り組み、従業員がいきいきと働き、能力を伸ばしていける環境づくりを目指します。	

人権に関連する主な国際基準・ガイドライン



人権方針

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。

この実現のために「人権方針」を策定し、企業活動全体において、すべての「ひと」が生まれながらにして持つ基本的権利である人権を尊重し、永続的に実現していくための活動を推進してまいります。

1. 基本的な考え方

丸善製薬は、国際人権章典(「世界人権宣言」、「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」、「市民的及び政治的権利に関する国際規約」)及び国際労働機関(ILO宣言)を支持し、規定された人権を尊重しています。また、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を支持し、これに基づく取り組みの実行を通じて、人権尊重の責任を果たします。

2. 人権尊重責務の実行

丸善製薬は、自らが人権侵害を引き起こさないよう努めます。また丸善製薬の事業活動において人権に対する負の影響が生じていることが判明した場合は、是正に向けて適切な対応をとり人権尊重の責任を果たします。

3. 適用範囲

本方針は、丸善製薬の全ての役員と従業員に適用します。また丸善製薬の製品・サービスに関係する全てのビジネスパートナー及びサプライヤーに対して、本方針への理解と支持を求め、人権の尊重に努めて頂くよう働きかけていきます。

4. 適用法令

丸善製薬は、事業活動を行う各国における法令および規制を遵守します。各国の法令および規制と国際的に認められた人権規範との間に矛盾がある場合は、国際的な人権規範を尊重する方法を追求していきます。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬の サステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な 企業活動	消費者課題	コミュニティへの 参画及び発展
----------	------	-------------------	------	----	------	----	-------------	-------	--------------------

1) 人権の尊重

5. 人権デューディリジェンスの実施

丸善製薬は、人権デューディリジェンスの仕組みを構築し、継続的に実施します。
丸善製薬の事業活動が社会に与える人権への負の影響を特定し、その防止および軽減に取り組みます。

6. 救済

丸善製薬の事業活動において人権への負の影響を引き起こしたことが明らかとなった場合、あるいは取引関係者などを通じた関与が明らかとなった場合、適切な手続きを通じてその救済に取り組みます。

7. 対話・協議

丸善製薬は、本方針を実行する過程において、ステークホルダーや独立した外部専門識者との対話と協議を行います。

8. 教育・研修

丸善製薬は、全ての役員と従業員に対し、本方針が丸善製薬の全ての事業活動に組み込まれ、効果的に実行されるよう、適切な研修・教育を行います。

9. 情報開示

丸善製薬は、人権尊重の取り組みおよび人権デューディリジェンスの進捗状況について報告します。

10. 担当責任者

丸善製薬は、本方針の実行に責任を持つ責任者を明確にし、実施状況を監督します。

制定：2022年2月9日
代表取締役社長

日暮泰広

丸善製薬「人権方針」

<https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/human-rights.pdf>

人権デューディリジェンス

企業における基本的な人権尊重のあり方を示す「国連ビジネスと人権に関する指導原則」では、国家による人権保護の義務、企業による人権尊重の責任、人権侵害を受けたものへの救済について記されています。2020年に日本政府は「国連ビジネスと人権に関する指導原則」に沿って、「ビジネスと人権に関する行動計画（NAP）」を公表しました。

丸善製薬は、事業活動における人権尊重を目的として、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」を参考に、人権デューディリジェンスの体制を構築しています。当社およびサプライチェーン全体で人権リスクを把握・軽減・予防するため、想定される人権リスクに応じて優先順位を設定し、総務部、人事部、法務部、購買部、ESG推進部が連携して段階的に取り組みを進めています。

当社従業員に対しては、労働安全衛生、ハラスメント、ジェンダーに関する人権問題、賄賂・腐敗の各分野におけるリスクの把握・低減・予防に取り組んでいます。具体的な取り組みとして、人権に関する従業員アンケートの実施を検討し、2025年度に実施することを決定しました。

当社内では、児童労働、強制労働・人身取引が無いことを確認しています。

サプライチェーンに対しては、想定される人権リスクに基づいて優先順位を設定し、調査およびサステナビリティへの取り組みに対する情報交換やベストプラクティスの共有など、エンゲージメント活動を推進しています。

これらの活動を通じて、丸善製薬の事業活動に起因して人権への負の影響が発生している、または助長していることが判明した場合には、関連するステークホルダーとの協議を行い、適切な手続きを通じてその是正・救済を行います。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) 人権の尊重

2023年度に、「今企業に求められる『ビジネスと人権への対応』詳細版（法務省）」を参考に、人権マテリアリティとして14項目を特定しています。

【企業が尊重すべき人権の分野】

No.	人権課題	自社	サプライチェーン	No.	人権課題	自社	サプライチェーン
01	賃金の不足・未払、生活賃金	○	◎	14	テクノロジー・AIに関する人権問題	○	
02	過剰・不当な労働時間			15	プライバシーの権利	○	
03	労働安全衛生	◎	◎	16	消費者の安全と知る権利		
04	社会保障を受ける権利			17	差別	○	◎
05	パワーハラスメント（パワハラ）	◎		18	ジェンダー（性的マイノリティを含む）に関する人権問題	◎	◎
06	セクシュアルハラスメント（セクハラ）	◎		19	表現の自由		
07	マタニティハラスメント／パタニティハラスメント	◎		20	先住民族・地域住民の権利	○	○
08	介護ハラスメント（ケアハラスメント）	◎		21	環境・気候変動に関する人権問題		○
09	強制的な労働		◎	22	知的財産権		
10	居住移転の自由			23	賄賂・腐敗	◎	○
11	結社の自由	○		24	サプライチェーン上の人権問題	◎	◎
12	外国人労働者の権利		◎	25	救済へアクセスする権利	◎	○
13	児童労働		◎	◎:とても重要 ○:重要			

*今企業に求められる『ビジネスと人権への対応』詳細版（法務省）より抜粋

ハラスメント対応

丸善製薬は、パワーハラスメント、セクシュアルハラスメント、妊娠・出産・育児休業・介護休業等に関するハラスメントなど、あらゆるハラスメントの未然防止を目的として、「ハラスメント宣言書」を社内に公開し、注意喚起を行うとともに、職場環境の改善に努めています。

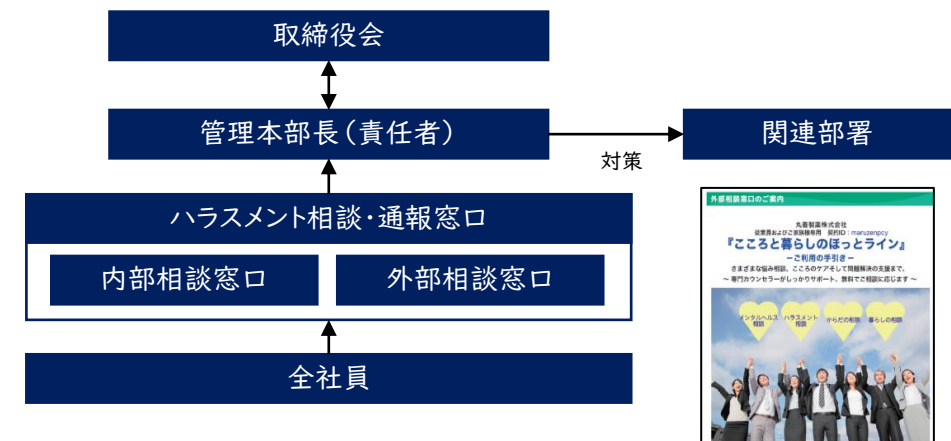
また、「ハラスメント相談・通報窓口」を設置し、各種ハラスメント行為への対応、従業員の意識向上と行動変容の促進に取り組んでいます。

内部相談窓口では、相談相手が従業員であることから心理的なハードルがあることに配慮し、外部相談窓口も併設しています。

外部相談窓口では、専門のカウンセラーが電話、Web、対面、オンラインなど多様な手段で相談に対応し、相談者の同意がない限り会社への通報は行わず、プライバシーが確保された環境で安心して相談できる体制を整えています。

さらに、定期的な啓発活動として、役員および従業員を対象に「人権（差別・ハラスメント）に関する研修」を実施し、ハラスメント防止に対する意識の社内浸透を図っています。

ハラスメント対応体制



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) 人権の尊重

【差別・ハラスメントの相談・内部告発数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
内部告発数	0件	1件	0件	3件	1件	0件
内部相談窓口	0件	1件	0件	2件	0件	0件
外部相談窓口				1件	1件	0件

【差別事例の総件数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
差別事例の総件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件

【従業員を対象とした人権に関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	409名	417名	422名	437名	450名	457名
受講者数	409名	417名	422名	437名	450名	94名
受講率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	20.6%

人権に関する教育

2024年度は、管理職層を対象とした職場のハラスメント防止研修（動画視聴型）を実施しました。



【管理職を対象とした人権に関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	-名	-名	-名	63名	64名	71名
受講者数	-名	-名	-名	63名	52名	71名
受講率	-%	-%	-%	100.0%	81.3%	100.0%

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) ダイバーシティ&インクルージョン

丸善製薬は、多様性を尊重し、互いを認め合いながら、誰もが働きやすく、働きがいを感じられる職場づくりを推進しています。あらゆる差別のない雇用を実現し、多様な人材がその個性や能力を最大限に発揮できる環境の整備に取り組んでいます。私たちは、多様性を受け入れ、お互いを尊重することで、いきいきと働ける職場を実現し、新たな価値の創造を継続的に目指しています。また、変化の著しい現代の市場環境において、ダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（包摂）の推進は、持続可能な企業経営に不可欠であると認識しています。

マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
人権の尊重	ダイバーシティ & インクルージョン	多様な人材が個性や能力を発揮し、お互いを認め合いながら、いきいきと働くことができ、働きがいのある職場環境づくりを目指します。	多様な人材が個性や能力を発揮し、お互いを認め合いながら、いきいきと働くことができ、働きがいのある職場環境づくりを目指します。障がい者、女性、シニア層がより活躍できる環境を目指します。	5 働きがいと経済成長 8 持続可能な消費と生産 10 人や国の不平等の解消

ダイバーシティ採用

丸善製薬では、多様性を尊重し、あらゆる背景を持つ人々が活躍できる職場環境を提供しています。創業以来、尾道の穏やかな気候と文化に育まれた当社は、「人」を大切に、その力を最大限に引き出すことを目指しています。

社員の多様な価値観やスキルを尊重し、それぞれの夢や目標に向かって共に歩むことを大切にしています。困難や失敗を乗り越えながら、喜びも悲しみも共有し、共に成長できる会社でありたいと考えています。

世代、年齢、ジェンダー、国籍、国境を問わず、多様な人々が共に働き、喜びを分かち合える職場を目指しています。多様性と様々な価値観の共有が求められる今、新たな可能性を共に見つけ、切り拓いていける人材を求めています。

丸善製薬ではこういう人を求めています

- ・創意工夫して変革を起こす人
- ・向学心を持ち挑戦し続ける人
- ・感謝の心を持っている人

女性の活躍推進

丸善製薬は、さらなる企業価値向上のためには女性の活躍が不可欠であると考えています。「女性活躍推進法」に基づき行動計画を策定し、女性従業員が長期的に活躍できるよう、仕事と育児の両立支援をはじめとする職場環境の整備に取り組んでいます。

2024年度は、女性従業員比率が33.3%、女性管理職比率が14.1%、男女間の勤続年数の差は4.9年となっています。

2024年に策定した女性活躍推進法に基づく行動計画では、女性管理職の割合が低いことを課題と捉え、2029年度までに女性管理職層を15名以上に増やすこと、また有給休暇取得率を65%以上に引き上げることを目標としています。

今後も、性別を問わず誰もが活躍できる企業であり続けるために、自信を持って働き、キャリアアップを目指せるよう支援する研修の実施や、管理職に必要なスキル習得を目的とした研修の充実などに取り組んでまいります。

女性活躍に関する認定

【えるばし認定】

女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況等が優良であると認められ、2023年6月15日に「えるばし認定」の3つ星（3段階目）を取得しました。2024年度も引き続き、3つ星認定を維持しています。



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬の サステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な 企業活動	消費者課題	コミュニティへの 参画及び発展
----------	------	-------------------	------	----	------	----	-------------	-------	--------------------

2) ダイバーシティ&インクルージョン

【従業員総数／女性比率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
従業員総数	409名	417名	422名	437名	450名	457名
男性	288名	287名	291名	298名	302名	305名
30歳未満	-名	-名	-名	-名	63名	55名
30歳～50歳	-名	-名	-名	-名	150名	155名
50歳超	-名	-名	-名	-名	89名	95名
女性	121名	130名	131名	139名	148名	152名
30歳未満	-名	-名	-名	-名	35名	35名
30歳～50歳	-名	-名	-名	-名	81名	85名
50歳超	-名	-名	-名	-名	32名	32名
女性比率	29.6%	31.2%	31.0%	31.8%	32.9%	33.3%

【正社員総数／女性比率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
正社員総数	381名	387名	397名	411名	425名	430名
男性	277名	276名	284名	289名	292名	291名
30歳未満	-名	-名	-名	-名	58名	49名
30歳～50歳	-名	-名	-名	-名	148名	153名
50歳超	-名	-名	-名	-名	86名	89名
女性	104名	111名	113名	122名	133名	139名
30歳未満	-名	-名	-名	-名	32名	32名
30歳～50歳	-名	-名	-名	-名	71名	78名
50歳超	-名	-名	-名	-名	30名	29名
女性比率	27.3%	28.7%	28.5%	29.7%	31.3%	32.3%

【臨時雇用者総数／女性比率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
臨時雇用者総数	28名	30名	25名	26名	25名	27名
男性	11名	11名	7名	9名	10名	14名
30歳未満	-名	-名	-名	-名	5名	6名
30歳～50歳	-名	-名	-名	-名	2名	2名
50歳超	-名	-名	-名	-名	3名	6名
女性	17名	19名	18名	17名	15名	13名
30歳未満	-名	-名	-名	-名	3名	3名
30歳～50歳	-名	-名	-名	-名	10名	7名
50歳超	-名	-名	-名	-名	2名	3名
女性比率	60.7%	63.3%	72.0%	65.4%	60.0%	48.1%

【従業員以外の労働者総数／女性比率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
従業員以外の労働者総数	-名	-名	-名	-名	3名	3名
男性	-名	-名	-名	-名	0名	0名
30歳未満	-名	-名	-名	-名	0名	0名
30歳～50歳	-名	-名	-名	-名	0名	0名
50歳超	-名	-名	-名	-名	0名	0名
女性	-名	-名	-名	-名	3名	3名
30歳未満	-名	-名	-名	-名	2名	2名
30歳～50歳	-名	-名	-名	-名	0名	0名
50歳超	-名	-名	-名	-名	1名	1名
女性比率	-%	-%	-%	-%	100.0%	100.0%

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) ダイバーシティ&インクルージョン

【取締役総数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
取締役総数	6名	6名	6名	6名	6名	6名
男性	5名	5名	5名	5名	5名	5名
30歳未満	0名	0名	0名	0名	0名	0名
30歳～50歳	1名	1名	1名	1名	1名	1名
50歳超	4名	4名	4名	4名	4名	4名
女性	1名	1名	1名	1名	1名	1名
30歳未満	0名	0名	0名	0名	0名	0名
30歳～50歳	0名	0名	0名	0名	0名	0名
50歳超	1名	1名	1名	1名	1名	1名
女性比率	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%

【管理職総数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
管理職総数	61名	63名	61名	63名	64名	71名
男性	55名	57名	55名	56名	57名	61名
30歳未満	-名	-名	-名	-名	0名	0名
30歳～50歳	-名	-名	-名	-名	23名	23名
50歳超	-名	-名	-名	-名	34名	38名
女性	6名	6名	6名	7名	7名	10名
30歳未満	-名	-名	-名	-名	0名	0名
30歳～50歳	-名	-名	-名	-名	2名	5名
50歳超	-名	-名	-名	-名	5名	5名
女性比率	9.8%	9.5%	9.8%	11.1%	10.9%	14.1%

女性活躍推進法に基づく行動計画(2024年作成)
「2029年度までに女性管理職層の人数を15名以上にする」

【正社員新規採用者総数／中途採用比率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
正社員新規採用者総数	28名	18名	20名	24名	21名	13名
男性	18名	10名	16名	15名	11名	6名
女性	10名	8名	4名	9名	10名	7名
労働施策総合推進法に基づく中途採用比率	64%	52%	68%	70%	14%	23%

【正社員離職者総数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
正社員離職者総数	12名	12名	10名	9名	10名	10名
男性	10名	11名	8名	9名	9名	7名
30歳未満	-名	-名	-名	-名	1名	0名
30歳～50歳	-名	-名	-名	-名	1名	1名
50歳超	-名	-名	-名	-名	7名	6名
女性	2名	1名	2名	0名	1名	3名
30歳未満	-名	-名	-名	-名	1名	2名
30歳～50歳	-名	-名	-名	-名	0名	0名
50歳超	-名	-名	-名	-名	0名	1名

【平均年齢】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
全従業員	42.0歳	42.2歳	40.9歳	41.2歳	39.7歳	41.4歳
男性	42.9歳	43.3歳	41.2歳	41.5歳	41.4歳	41.8歳
女性	39.8歳	39.7歳	40.1歳	40.4歳	36.3歳	40.5歳

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参加及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) ダイバーシティ&インクルージョン

【平均勤続年数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
全従業員	15.4年	17.0年	15.3年	15.5年	14.8年	15.7年
男性	17.3年	19.5年	16.8年	17.2年	16.4年	17.3年
女性	11.1年	11.4年	11.9年	11.7年	11.6年	12.4年
男女差	6.2年	8.1年	4.9年	5.5年	4.8年	4.9年

【平均年間賃金】

	2022年度	2023年度	2024年度
全従業員の平均年間賃金	6,035,437円	6,163,910円	6,039,297円
男性	6,506,216円	6,649,709円	6,525,441円
女性	4,982,375円	5,133,010円	5,042,435円
男女差	76.6%	77.2%	77.3%
正社員の平均年間賃金	6,326,578円	6,451,943円	6,343,969円
男性	6,792,977円	6,969,198円	6,890,128円
女性	5,261,932円	5,356,779円	5,245,075円
男女差	77.5%	76.9%	76.2%
臨時雇用者の平均年間賃金	2,112,034円	1,829,349円	1,762,217円
男性	2,228,212円	1,909,086円	1,908,331円
女性	1,909,665円	1,652,158円	1,336,658円
男女差	85.8%	86.6%	70.1%

*賃金差=女性の平均年間賃金÷男性の平均年間賃金×100%

*等級別の給与制度となっており、同一等級・職群での男女別格差はありません。

パートナーシップ制度

丸善製薬では、2023年4月より事実婚、内縁、同性婚パートナーを法律婚と同等に扱うパートナーシップ制度を導入しています。

ジェンダー（社会的・文化的に形成された性差）に対する理解を深めるため、「『ジェンダー』のこと、ちょっと気になる人のためのもやもや解消読本」（広島県環境県民局わたらしい生き方応援課）を配布しました。



障がい者の活躍推進

丸善製薬では、障がいのある従業員を継続的に採用するとともに、誰もが働きやすい職場環境の整備を推進しています。障がいの内容に配慮しつつ、本人の能力・意欲・適性を踏まえた採用および人員配置を行い、障がいの有無にかかわらず、一人ひとりが活き活きと能力を発揮できる人事制度を運用しています。

また、2018年9月には「障がい者雇用推進宣言」を表明し、以降も継続的に障がい者雇用の促進に取り組んでいます。



就業環境の整備

障がいの内容や程度は人によって異なるため、一人ひとりの特性に応じて業務内容を工夫し、必要に応じて適切な就業支援を実施しています。

障がいのある方が勤務する職場では、その方の得意なことや苦手なこと、必要な配慮事項などについて説明会を開催し、職場のメンバーの理解促進に努めています。

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な
企業活動

消費者課題

コミュニティへの
参画及び発展

2) ダイバーシティ&インクルージョン

【障がい者雇用社内研修会の開催】

障がい者の特性に対する理解を深めることを目的に、本社・本社工場および三次工場において社内研修会を開催しました。当日は、製造本部、品質保証本部、管理本部から延べ77名の従業員が参加し、障がい者雇用に関する知識と理解を深める機会となりました。



【障がい者雇用者数／雇用率】

2025年3月時点における当社の障がい者雇用率は、3.63%であり、法定雇用率（民間企業：2.5%）を上回る水準を維持しています。なお、2026年度からは法定雇用率が2.7%へ引き上げられる予定であることを踏まえ、当社では法令遵守にとどまらず、より積極的に障がい者雇用の促進に取り組んでまいります。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
障がい者雇用者数 *2025年3月末時点	11名	14名	13名	13名	15名	16名
男性	-名	-名	-名	-名	7名	8名
30歳未満	-名	-名	-名	-名	5名	6名
30歳～50歳	-名	-名	-名	-名	2名	2名
50歳超	-名	-名	-名	-名	0名	0名
女性	-名	-名	-名	-名	8名	8名
30歳未満	-名	-名	-名	-名	4名	4名
30歳～50歳	-名	-名	-名	-名	2名	1名
50歳超	-名	-名	-名	-名	2名	3名
障がい者雇用率（年間）	2.22%	2.12%	2.61%	2.92%	3.43%	3.63%

特別支援学校就職サポート隊ひろしま推進企業表彰

「特別支援学校就職サポート隊ひろしま」推進企業表彰は、特別支援学校の生徒の就労促進に顕著な貢献を果たした企業を表彰する制度です。広島県教育委員会が主催し、職場見学や実習の受け入れ、卒業生の雇用などを通じて、生徒の「働く力」の育成に寄与した企業が対象となります。

丸善製薬は、障がい者雇用に取り組み始めて12年目を迎えました。

このたび、2025年3月に「特別支援学校就職サポート隊ひろしま」への登録以降の継続的な取り組みが評価され、同表彰を受賞しました。



シニアの活躍推進

丸善製薬では、正社員の定年年齢を60歳から65歳へ引き上げ、従業員が安心して長く働き続けられる環境を整備しています。

また、高い労働意欲と能力を有する65歳以上の従業員に対しては、再雇用制度を導入し、年齢にかかわらず活躍できる機会を提供しています。

【定年退職者総数／再雇用者数／再雇用率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
定年退職者総数	6名	7名	5名	4名	7名	7名
うち再雇用者総数	0名	0名	1名	0名	0名	2名
再雇用率	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	28.6%
再雇用者総数	1名	1名	2名	2名	0名	2名

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

3.労働慣行

社員の多様性を尊重し、安全でやりがいのある働きやすい企業風土の醸成に努めます。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) ワークライフバランス

丸善製薬は、働き方改革に貢献する企業を目指して、「労働時間等設定改善委員会」を設置し、有給休暇取得の促進、残業時間の低減、在宅勤務、育児・介護・看護の支援などに努めています。従業員一人ひとりがライフスタイルに応じて能力を発揮し、働きがいを持って働ける職場の実現を目指しています。

次世代育成支援対策推進法（次世代法）に基づき行動計画を策定し、働き方見直しによる労働条件の整備（ノー残業デー）、子育てを行う従業員の職場と家庭における生活の両立を支援する雇用環境の整備に取り組んでいます。

マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
人権の尊重 (労働慣行)	ワークライフバランス	従業員一人ひとりのライフスタイルに応じて能力を発揮し、働きがいを持って働ける職場の実現を目指します。	従業員一人ひとりのライフスタイルに応じて能力を発揮し、働きがいを持って働ける職場の実現を目指します。	3 働きがい 8 働きがい

労働基本権の尊重

丸善製薬では、労働組合は組織されていませんが、毎年、事業所ごとに社員の過半数を代表する労働者代表を選出し、社員の意見を聴取するための連携を図っています。規程等の改定が社員に及ぼす影響が大きい場合には、事前に全社員向けの説明会を実施し、合意形成に努めています。また、毎年4月に発令される組織改編や人事異動については、社員とその家族のライフスタイルに大きな変化を及ぼすことから、少なくとも6週間前までには公示することとしています。

【労働協約の対象となる従業員の割合】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
従業員数	409名	417名	422名	437名	450名	457名
正社員数	381名	387名	397名	411名	425名	430名
臨時雇用者	28名	30名	25名	26名	25名	27名
労働協約の対象となる割合	93.2%	92.8%	94.1%	94.1%	94.4%	94.1%

【時短勤務者数／在宅勤務利用者数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
時短勤務者数	8名	10名	12名	9名	10名	14名
在宅勤務利用者数	0名	1名	19名	25名	6名	3名

有給休暇取得の促進

年次有給休暇の取得促進を図るため、「時間単位年休」を導入し、「有給休暇取得計画実績管理表」の共有や、管理職による呼びかけを通じて、有給休暇を取得しやすい職場環境の整備に取り組んでいます。

1人当たり年間12日の有給休暇取得を目標に設定し、2024年度は1人あたり13日を取得、取得率は72.0%となりました。「年次有給休暇の年5日取得義務制度」については、対象者全員が義務を達成しています。

また、取得できずに失効してしまった年次有給休暇を積み立て、後から利用できる「失効年次有給休暇積立制度」を2025年4月1日より導入することを決定しました。

女性活躍推進法に基づく行動計画（2024年作成）

「有給休暇取得率を65%以上とする」

次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画（2024年作成）

「有給休暇取得率を65%以上とする」

【年次有給休暇取得日数／取得率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
取得日数	11日/人	11日/人	12日/人	13日/人	13日/人	13日/人
取得率	62.3%	65.7%	70.0%	73.0%	71.0%	72.0%

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) ワークライフバランス

残業時間低減の促進・ノー残業デーの実施・業務改善

残業時間の低減を促進するため、1人当たり月間4.5時間を目標に設定し、管理職が部員・課員に対して就業時間後の早期退社を促すとともに、自身も長時間労働にならないよう注意喚起を行っています。また、月2回、第2・第3水曜日を「ノー残業デー」と定め、定時退社の推進に取り組んでいます。さらに、「作業の効率化」や「無駄な残業を行わない」といった従業員の意識改革にも努めています。

【月次実働時間と月次平均残業時間】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
実働時間	141時間	140時間	139時間	140時間	142時間	141時間
平均残業時間	5.00時間	2.00時間	3.30時間	3.24時間	3.18時間	2.40時間

次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画(2024年作成)
「ノー残業デーを月に2日設定し、実施する」

生活賃金

丸善製薬は、賃金が従業員およびその家族が人間らしく生活できるよう、支給する賃金が「最低賃金」および「生活賃金」を上回る水準となるよう配慮しています。最低賃金を上回することはもちろん、支給する給与が日本労働組合総連合会が発行する「2024連合リビンぐウェイジ(都道府県別リビンぐウェイジ)」と比較しても上回っていることを確認しています。

【初任給と最低賃金／生活賃金との比較】

	初任給	最低賃金との比較	生活賃金との比較
高等学校卒	177,000円/月	123.1%	108.3%
専門学校卒・短期大学卒	191,000円/月	132.9%	116.8%
4年制大学卒	220,000円/月	153.0%	134.6%
6年制大学卒/大学院修了	237,000円/月	164.9%	145.0%

*広島県の最低賃金(1,020円/h)、生活賃金(1,160円/h)、2024年度月次実働時間より算出
*等級別の給与制度となっており、同一等級・職群での男女別格差はありません。

育児・介護・看護と仕事の両立

ライフスタイルの多様化に伴い、働き方にも多様性が求められる中、育児・介護を目的とした休業、子の看護休暇、家族の介護休暇、育児・介護時短勤務、育児時差出勤などの制度を設けています。育児・介護休業法に基づく各制度のうち、取得率の低い男性従業員の育児休業制度や介護休業制度については、パンフレット等の掲示・配布により周知を行っています。



また、男性従業員の育児休業取得を促進する取り組みとして、出生時育児休業(産後パパ育休)を取得する男性社員のうち、国から手取り10割相当の支援給付金を受けることのできない期間に対して、2025年4月より基本給の100分の13を支援支給する「男性育休取得促進制度」を導入することを決定しました。

【育児休業の取得状況／取得率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
子が出生した従業員数	16名	22名	16名	10名	17名	6名
男性	12名	18名	15名	8名	15名	6名
女性	4名	4名	1名	2名	2名	0名

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な
企業活動

消費者課題

コミュニティへの
参画及び発展

1) ワークライフバランス

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
育児休業を取得した従業員数	5名	4名	4名	3名	5名	3名
男性	1名	0名	3名	1名	3名	2名
女性	4名	4名	1名	2名	2名	1名
育児休業取得率	31.3%	18.2%	25.0%	30.0%	29.4%	50.0%
男性	8.3%	0.0%	20.0%	12.5%	20.0%	33.3%
女性	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-%

2024年度は、男性の育児休業取得率が33.3%でしたが、引き続き諸制度の周知に努めてまいります。

【育児休業後の復職率／定着率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
育児休業から復職後に在籍している従業員の総数	5名	4名	4名	0名	5名	2名
男性	1名	0名	3名	0名	3名	2名
女性	4名	4名	1名	-名	2名	-名
育児休業後の従業員の復職率	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	66.7%
男性	100.0%	-%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%
女性	100.0%	100.0%	100.0%	-%	100.0%	-%
育児休業後の従業員の定着率	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	66.7%
男性	100.0%	-%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%
女性	100.0%	100.0%	100.0%	-%	100.0%	-%

次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画(2024年作成)

「子供の出生時に父親が取得できる

育児休業制度の取得者を増やす」

【不妊治療と仕事との両立支援制度(このとり休暇制度)】

不妊治療を受ける従業員を支援するための取り組みとして、不妊治療の開始から子を懐妊するまでの間、1年間に10日、最長2年間で最大20日の休暇を有給で取得できる「このとり休暇制度」を2025年4月1日より導入することを決定しました。

【子育てサポートに関する認定】

仕事と子育ての両立を支援する取り組みが優良であると認められ、2024年12月19日に「くるみん」認定を受けました。この認定は、次世代育成支援対策推進法に基づいて策定した行動計画を遂行し、かつ認定基準を全て満たした事業主が、厚生労働大臣の認定を受ける制度です。



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) ワークライフバランス

【介護休業の取得状況】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
介護休業を取得した従業員数	0名	0名	0名	0名	0名	0名
男性	0名	0名	0名	0名	0名	0名
女性	0名	0名	0名	0名	0名	0名
介護休業から復職後に在籍している従業員の総数	0名	0名	0名	0名	0名	0名
男性	0名	0名	0名	0名	0名	0名
女性	0名	0名	0名	0名	0名	0名
介護休業後の従業員の復職率	-%	-%	-%	-%	-%	-%
男性	-%	-%	-%	-%	-%	-%
女性	-%	-%	-%	-%	-%	-%
介護休業後の従業員の定着率	-%	-%	-%	-%	-%	-%
男性	-%	-%	-%	-%	-%	-%
女性	-%	-%	-%	-%	-%	-%

【管理職を対象としたワークライフバランスに関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	-名	-名	-名	63名	64名	71名
受検者数	-名	-名	-名	63名	64名	71名
受検率	-名	-名	-名	100.0%	100.0%	100.0%

【従業員を対象としたワークライフバランスに関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	-名	-名	-名	-名	-名	457名
受検者数	-名	-名	-名	-名	-名	457名
受検率	-名	-名	-名	-%	-%	100.0%

ワークライフバランスに関する教育

2024年度は、従業員を対象にワークライフバランスに関する研修として、「男性育休取得促進制度」「不妊治療と仕事との両立支援制度（こうのとりの休暇制度）」「失効年次有給休暇積立制度」の導入を機に、育児休業法、介護休業法に関する説明会を実施しました。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) 労働安全衛生

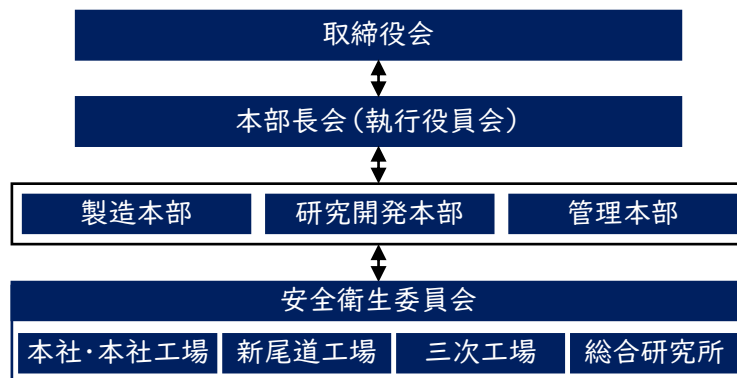
丸善製薬は、すべての従業員の健康と安全を第一に考え、危険にさらされることなく、安心して働けるよう、可能な限り安全な職場環境の整備に努めています。「労働基準法」や「労働安全衛生法」などの関係法令に基づき、安全衛生活動の充実を図るとともに、労働災害の未然防止、従業員の安全と健康の確保、快適な職場環境の形成を目的として「安全衛生に関する規程」を定めています。

マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
人権の尊重 (労働慣行)	労働安全衛生	労働安全衛生に関する法令遵守および安全意識と設備安全を徹底し、従業員が、安全、健康で快適に働けることを目指します。	労働安全衛生に関する法令遵守のもと、安全衛生に関する基本ルールの徹底、設備や作業手順の改善により、安全操業基盤を強固にすることで、従業員が、安全、健康で快適に働ける職場環境づくりを目指します。	 

労働安全衛生マネジメント体制

丸善製薬は、本社・本社工場、三次工場、新尾道工場、総合研究所において「安全衛生委員会」を設置し、毎月の安全パトロール、リスクアセスメント、安全職場会議、安全衛生に関する研修を実施しています。これらの取り組みにより、安全衛生の高い事業所を継続的に維持するためのマネジメント活動を推進しています。



【安全衛生委員会構成】

	本社・本社工場	三次工場	新尾道工場	総合研究所
安全衛生委員長	工場長	工場長	工場長	研究開発本部長
安全衛生副委員長	副工場長	副工場長	副工場長 製造本部室1名	研究開発副本部長
衛生管理者	管理本部1名	製造本部1名	製造本部1名	研究開発本部1名
産業医	1名	1名	1名	1名
安全管理者	製造本部1名	製造本部1名	製造本部1名	-
防火管理者	製造本部1名	製造本部1名	製造本部1名	研究開発本部1名
安全運転管理者	管理本部1名	製造本部1名	製造本部1名	-
安全衛生委員	製造本部5名 品質保証本部1名 営業本部1名	製造本部9名 品質保証本部1名	製造本部8名 品質保証本部1名	研究開発本部5名 品質保証本部1名
事務局	-	-	製造本部1名	品質保証本部1名
オブザーバー	-	-	-	総務部1名

リスクアセスメントの実施

毎月の安全衛生委員会開催時に、労働者を代表する委員会メンバーで構成された複数の班が事業所内のパトロールを実施し、事業所の全従業員を対象に、安全衛生および健康リスクに関する事項について、潜在的な危険性や有害性を特定し、リスク低減のための優先度を設定しています。

リスクアセスメントの結果に基づき、危険や健康被害を防止するための措置を講じ、関連する作業に従事する従業員には保護具を提供しています。

ブローアー、コンプレッサー、クーリングタワーなど、著しく騒音・振動を発生する設備については、行政の検査のもと、防音対策などの基準を満たしたうえで設置を行っています。また、機器更新時には、省エネルギーかつ低騒音型機器への更新を進め、職場環境の改善にも取り組んでいます。

化学物質を取り扱う事業所においては、労働安全衛生法に基づく化学物質リスクアセスメントを実施し、化学物質による災害リスクの低減に努めています。

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な
企業活動

消費者課題

コミュニティへの
参画及び発展

2) 労働安全衛生

2024年度の各工場における無災害達成日数は、2025年3月末時点で本社工場4,272日、新尾道工場4,622日、三次工場273日となっています。

【労働災害数(労働災害度数率、労働災害強度率、労働関連災害発生率)】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
休業災害件数	0件	0件	0件	0件	1件	0件
不休災害件数	4件	4件	6件	6件	7件	9件
死亡災害件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件
労働災害による死傷者数	0名	0名	0名	0名	1名	0名
労働災害度数率*1	0.00	0.00	0.00	0.00	1.30	0.00
延べ労働損失日数	0日	0日	0日	0日	23日	0日
労働災害強度率*2	0.000	0.000	0.000	0.000	0.028	0.000
労働関連災害発生率*3	0.000	0.000	0.000	0.000	0.222	0.000

*1:100万延べ実労働時間あたりの労働災害による死傷者数(災害発生頻度をあらわしたもの)

*2:1000延べ実労働時間あたりの延べ労働損失日数(災害の重篤度をあらわしたもの)

*3:従業員1人あたりの労災発生件数

【本社工場倉庫防潮堤設置】

本社事務所、本社工場事務所および本社工場倉庫において「南海トラフ地震を想定した高潮」に対処するため、防潮堤を設置しています。



安全教育・訓練

従業員の安全衛生に関する知識および技能の習得を支援するため、雇入れ時や作業内容変更時、危険・有害業務への従事時など、業務内容に応じたさまざまな安全教育を行っています。

また、設備の運用技術の伝承にも注力し、作業手順や規程の遵守を徹底する職場づくりを通じて、安全を重視する企業文化の醸成に努めています。

さらに、労働安全意識の高揚と労働安全活動の促進を図り、労働災害防止の重要性に対する認識を深めるため、全国安全週間行事にも積極的に参加しています。

令和6年度全国安全週間スローガン
危険に気付くあなたの目
そして摘み取る危険の芽
みんなで築く職場の安全



【管理職を対象とした安全衛生に関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	-名	-名	-名	63名	64名	71名
受講者数	-名	-名	-名	63名	64名	0名
受講率	-%	-%	-%	100.0%	100.0%	0.0%

【従業員を対象とした安全衛生に関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	409名	417名	422名	437名	450名	457名
受講者数	28名	18名	20名	87名	85名	13名
受講率	6.8%	4.3%	4.7%	19.9%	18.9%	2.8%

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) 労働安全衛生

防災意識向上への取り組み

災害発生時における従業員の安否確認のため、「安否確認システム」を導入しています。年1回の防災訓練では、安否確認訓練や事業所別の訓練概要をもとに、各事業所で防災備蓄品の点検を実施し、防災意識の向上に努めています。

2024年度は、6月に「線状降水帯の発生」を想定した訓練、11月に「南海トラフ地震の発生」を想定した訓練を実施しました。

【安否確認システム訓練参加率】

	2023年度		2024年度	
安否確認システム訓練参加率	6月 11月	71.4% 100.0%	6月 11月	80.5% 86.9%

健康診断とストレスチェックの機会提供

すべての従業員に対して、定期的な健康診断の受診および任意によるストレスチェックの受検機会を提供しています。健康診断の結果をもとに「健康ればーと」を発行し、健康課題の周知と改善を図るため、毎月1回、健康情報「まるぜん保健室」を配信しています。また、希望する従業員には健康促進を目的として、自社開発素材を配合した機能性表示食品「アクティブボディ[®]顆粒」を配布しています。

【健康診断受診率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	419名	428名	437名	443名	456名	463名
受診者数	414名	424名	431名	439名	454名	461名
受診率	98.8%	99.1%	98.6%	99.1%	99.6%	99.6%
二次検診対象者数	3名	3名	6名	4名	6名	4名
二次検診受診者数	1名	3名	3名	1名	0名	0名
二次検診受診率	33.3%	100.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%

【管理職を対象としたメンタルヘルスに関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	-名	-名	-名	63名	-名	-名
受講者数	-名	-名	-名	63名	-名	-名
受検率	-%	-%	-%	100.0%	-%	-%

【ストレスチェック受検率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	405名	413名	424名	439名	465名	455名
受検者数	313名	320名	355名	377名	353名	327名
受検率	77.3%	77.5%	83.7%	85.9%	75.9%	71.9%

【社内健康情報誌「まるぜん保健室」の配信】

No.	掲載内容
第11号	必ず受けよう、健康診断・がん検診
第12号	職場の健康管理とは？～企業努力だけでは×、個人努力だけでも×～
第13号	生理前後の症状、我慢していませんか？「月経困難症」と「月経前症候群(PMS)」
第14号	誰でも迎える更年期、上手に付き合っていくには？
第15号	自分にとってのストレスは？解消法をもってこころ豊かな生活を
第16号	「秋バテ」って何？季節の変わり目の体調管理にご用心
第17号	日本人が発症しやすい病気、「糖尿病」とは？
第18号	糖尿病予防は、まず生活習慣の改善が重要
第19号	沈黙の殺人者（サイレントキラー）、高血圧症を予防しよう
第20号	血圧が高いと言われたら・・・自己測定と生活習慣の見直しを
第21号	貧血予防は食事から！まず原因の確認を
第22号	禁煙（卒園）のススメ～気軽な気持ちではじめましょう～



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) 労働安全衛生

有機溶剤健診・特定化学物質健診の受診

品質保証部門、製造部門、研究開発部門では、有機溶剤や化学物質を使用します。これらの業務に従事する対象者に対して、有機溶剤健診および特定化学物質健診の受診機会を提供しています。

【有機溶剤健診・特定化学物質健診受診率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	125名	139名	143名	150名	113名	146名
受診者数	125名	139名	143名	150名	113名	146名
受診率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

「禁煙の日」制定

丸善製薬では、若年層の喫煙率が高い傾向にあることから、喫煙率の低下を目的として、毎月22日を「禁煙の日」と定め、スローガンを掲げた取り組みを実施しています。この日は、喫煙の害と禁煙の重要性について理解を深め、実際の行動につなげることで、自身の健康について考える機会とすることを目指しています。全従業員に向けて、「禁煙のススメ～気軽な気持ちではじめましょう～」を共有し、禁煙への意識向上を呼びかけています。

スローガン

「毎月22日は”禁煙の日”

吸わん吸わん(スワンスワン)で禁煙を！」

外部からの評価

【ひろしま企業健康宣言 健康づくり優良事業所認定】

全国健康保険協会（協会けんぽ）広島支部が主催する「ひろしま企業健康宣言」に参加し、2024年度において、健康増進に積極的に取り組む企業として認定

されました。丸善製薬では、以下の健康づくりに関する取り組みが総合的に評価され、認定を受けています。

～取組内容～

1. 特定保健指導の同日受診実施
2. 社員皆様の健康の推進の為、希望者にアクティボディ®顆粒の提供
3. 感染症対策として、職場の環境整備
4. 健康情報の定期的な配信

【健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）認定】

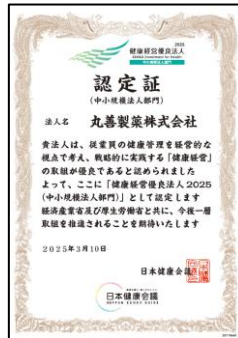
丸善製薬は、経済産業省が主催する「健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）」に認定されました。

健康経営優良法人認定制度とは、地域の健康課題に即した取組や、日本健康会議が推進する健康増進の取組をもとに、特に優れた健康経営を実践している大企業や中小企業などの法人を顕彰する制度です。

健康経営に取り組む優良な法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業、金融機関などから「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人」として社会的に評価を受けることができる環境の整備を目指しています。

～取組内容～

1. 健康診断結果からの会社全体の健康課題の把握
2. 社員皆様の健康増進の為、希望者にアクティボディ®顆粒の提供
3. 特定保健指導の実施
4. 同好会活動等の運動の機会拡充に向けた取り組み
5. 感染症対策に向けた取り組み



自然の恵みをつなぐ

丸善製薬株式会社

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

3) 人材育成

丸善製薬は、人材を最も重要な経営資源と位置づけ、高い意欲と能力を持つ人材の確保と育成に努めています。ビジネス環境がより複雑かつ高度化する中、多様な知識や技能を持つ人材を確保し、その能力を最大限に発揮できるよう育成することが極めて重要であると考えています。

社員の能力や仕事での成果を重視した人事制度を導入しており、高い目標に向かって挑戦する姿勢とその成果を評価し、処遇に反映することで、従業員の意欲向上につなげています。また、海外留学制度の活用、資格取得支援、社内外セミナーの受講機会の提供などを通じて、従業員のスキルアップをサポートしています。

マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
人権の尊重 (労働慣行)	人材育成	従業員一人ひとりが多彩な能力を最大限に発揮し、高い目標に向かって挑戦することで成果を創出する人材の育成を目指します。	従業員一人ひとりが多彩な能力を最大限に発揮し、高い目標に向かって挑戦することで成果を創出する人材の育成を目指します。	

人事考課制度

丸善製薬の人事考課制度は、企業理念や経営戦略を反映させ、公平な賃金体系の実現を目的としています。業務の結果やプロセスを適正に評価し、昇給や賞与に反映させることで、従業員のモチベーション向上と企業全体のパフォーマンス強化を図っています。また、企業理念や社是で強調される項目を評価基準に取り入れることで、従業員が企業の目指す方向性を理解し、それに沿った行動を促しています。

さらに、定期的な面談を通じて従業員の目標やキャリアパスを明確にし、必要なスキルや知識の取得を支援することで、従業員の成長とキャリアアップを後押ししています。

上司と部下の間で率直な意見交換が行われる場を提供し、従業員の意見や提案を積極的に取り入れることで、働きやすい職場環境の構築にも取り組んでいます。

キャリア形成支援制度

【自己申告制度】

年に1度、現在の業務状況や将来担当したい業務、希望する自己開発の内容について申告し、その内容をもとに上司との面談を通じて、自身のキャリアプランを検討する制度です。

【複線型職能等級制度】

入社後、一定年数が経過した後に、自分に適したキャリアパスを選択できる制度であり、管理職を目指す「総合職」と専門スキルの深化を目指す「一般職」のいずれかを選択することができます。

スキルアップ支援制度

【階層別研修】

新入社員から管理職層まで、職位に応じた研修を実施し、各階層に必要な教育制度を充実させることで、人的資源を最大限に活用できる人材の育成に取り組んでいます。

2024年度は、新入社員研修、新入社員フォローアップ研修、初任職層研修、監督職層昇格研修、監督職スキルアップ研修、人事考課者研修、評価者導入研修を実施しました。

また、入社時研修以降から監督職層研修までの間に社内研修の機会が少ないことを踏まえ、全社員を対象とした希望制の受講型研修を実施しました。

【一般啓発、自己啓発制度】

社員の積極的な自己啓発や、業務上必要な能力開発への支援を目的に、マネジメント、ビジネススキル、語学などの資格取得や、ライフスタイルに関連する内容に応じた教育制度を整備しています。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

3) 人材育成

【資格取得一時金制度】

会社が指定する資格を取得した際に、取得一時金を支給する制度です。

～対象資格例～

TOEIC、中国語検定、第一種衛生管理者、サステナブル経営／CSR検定、簿記、ITパスポート、マーケティング検定、日本化粧品検定、リテールマーケティング（販売士）検定、貿易実務検定、公害防止管理者、危険物取扱者、ボイラー整備士、食品保健指導士、品質管理検定、健康食品管理士 など

【海外研修生派遣制度】

社員の語学修得および、派遣先国の文化や歴史を学ぶことを通じて、国際的な視野を持つビジネスパーソンを育成することを目的とした制度を設けています。制度導入以降、これまでに6名の社員が本制度を活用し、各分野で活躍しています。

lonlミーティング

人事考課面談とは別に、上司と部下のコミュニケーションの充実や新たな成長機会の創出を目的として、lonlミーティングを実施しています。双方向のコミュニケーションを通じて新たな気付きを得ることで、社員の成長につなげています。

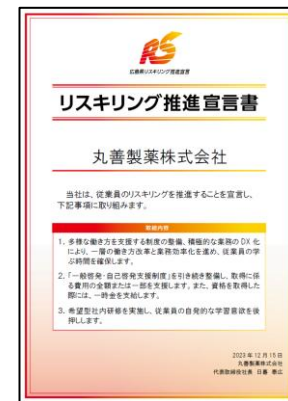
リスキリングの推進

丸善製薬は、従業員が積極的に新たなスキルや知識を習得し、急速に変化する市場環境や新技術、社会からの要請に対応できるよう、一人ひとりの成長を支援しています。従業員の能力向上を通じて、組織全体の持続可能性の向上を図っています。

また、2023年12月には、広島県に対して「リスキリング推進宣言」を行い、正式に承認されました。

～取組内容～

1. 多様な働き方を支援する制度の整備、積極的な業務のDX化により、一層の働き方改革と業務効率化を進め、従業員の学ぶ時間を確保します。
2. 「一般啓発・自己啓発支援制度」を引き続き整備し、取得に係る費用の全額または一部を支援します。また、資格を取得した際には、一時金を支給します。
3. 希望型社内研修を実施し、従業員の自発的な学習意欲を後押しします。



【従業員一人当たりの年間平均研修時間と教育研修費】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
年間平均研修時間	11時間	8時間	8時間	12時間	12時間	11時間
教育研修費	110,774円	45,792円	58,664円	71,744円	69,672円	68,605円

【業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の総数と割合】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	381名	387名	397名	411名	425名	430名
男性	277名	276名	284名	289名	292名	291名
女性	104名	111名	113名	122名	133名	139名
対象者の割合	93.2%	92.8%	94.1%	94.1%	94.4%	94.1%
男性	96.2%	96.2%	97.6%	97.0%	96.7%	95.4%
女性	86.0%	85.4%	86.3%	87.8%	89.9%	91.4%

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

4.環境

環境負荷の低減に取り組み、自然と調和する持続可能な社会の実現に貢献します。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) 環境マネジメント

近年、世界では地球温暖化などの気候変動に伴うさまざまな地球規模の環境問題が深刻化し、人々の暮らしや企業の事業活動に影響を与えています。

2024年6月5日の世界環境デーに、国連のグテーレス事務総長は気候変動に関する演説の中で、「私たちは恐竜ではない。私たちは隕石だ」と述べ、人類自身が地球にとっての脅威であると地球環境の危機的状況に対し新たな強い表現で警鐘を鳴らしました。

この発言は、2023年の「地球沸騰化の時代が到来した」という表現に続くものであり、気候変動の加速と人類の責任をより強く訴えるものでした。

さらに、1.5℃の気温上昇抑制目標が危機に瀕しており、今後5年以内にその上限を超える可能性が80%に達していることを指摘し、「私たちは地球を使ってロシアンルーレットをしている」とも述べ、今こそ行動すべき「真実の時」であることを世界に強く訴えました。

丸善製薬は、事業活動が直接または間接的に地球環境に影響を及ぼし、また地球環境に依存していること、そして環境の変化が事業活動に影響を及ぼすことを認識しています。地球環境負荷を低減する取り組みを推進していくため、2022年2月に取締役会での審議を経て、「環境方針」を策定しました。今後は、この方針のもと、環境負荷低減の取り組みを推進し、継続的な改善を図りながら、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

環境方針

丸善製薬は、健康で豊かな生活を営むために、かけがえのない地球と限りある資源を次の世代に引き継ぐことが責務であることを認識し、環境と調和した事業活動を積極的に推進してまいります。

1. 生産から廃棄に至るまでの全過程において環境に及ぼす影響を十分に理解した上で、環境に配慮した製品開発と製造技術を推進します。
2. 環境保全活動を推進ならびに徹底するために環境マネジメントシステムを整備し改善していきます。

3. 事業活動に使用するエネルギーや水、原材料などは、温室効果ガスの排出削減および環境負荷の低減に配慮し効率的かつ持続可能とする使用を推進します。
4. 事業活動における廃棄物の削減とリサイクルを行うことにより省資源、省エネルギーに取り組みます。
5. 地域社会の一員として、生物多様性に配慮した事業活動を推進するとともに、環境保全活動への参加と社員の自主的な活動への支援に積極的に協力します。
6. 環境保全活動を推進するために社内体制の整備を行い、社員への周知徹底と意識高揚に努めます。
7. 関連する環境の法規制と当社が同意するその他の要求事項の遵守を約束します。

制定：2022年2月9日

丸善製薬「環境方針」

<https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/environment.pdf>

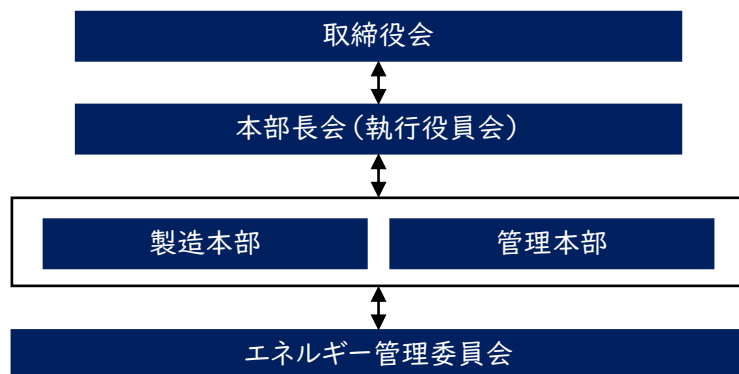
環境マネジメント体制

丸善製薬は、「エネルギー管理委員会」において、「省エネ推進」「CO2排出量（スコープ1・2）」「水使用量」「廃棄物量」などの環境目標の策定、進捗管理、評価を行っています。

これらの活動は年に1回、「環境報告書」を通じて経営層レベルの責任者へ報告されています。また、環境に関するマテリアリティ項目は、中期経営計画の重要課題として組み込まれており、基本行動計画と計数計画に基づいて策定された年度計画に対して、四半期ごとにレビューが行われ、本部長会（執行役員会）を通じて経営会議・取締役会へ報告されています。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) 環境マネジメント



【エネルギー管理委員会構成】

経営層レベルの責任者	気候関連問題に精通した取締役
管理統括者	製造本部長
管理部署	製造本部室
エネルギー管理員	製造本部1名
エネルギー管理企画推進者	製造本部1名
事務局	管理本部1名
各事業所	本社工場1名、三次工場1名、新尾道工場1名 総合研究所1名、久井ファーム1名、東京支店1名

気候関連問題の管理に対するインセンティブと貢献

丸善製薬では、製造本部を中心に、製造技術の向上と製造管理の徹底を目的とした小集団活動発表会（QC社内発表会）を実施しています。取締役を含む審査員が審査・表彰する制度となっており、従業員のモチベーション向上につながることが期待されています。

従来の「生産の効率化」「低コスト化」「売上・利益への貢献」といった財務視点の評価基準に加え、「脱炭素」「水使用量削減」「廃棄物削減」など、環境負荷低減に関する非財務視点の評価基準が新たに導入されています。

気候変動におけるリスクと機会

2021年のIPCCによる第6次評価報告書では、「地球温暖化と人間活動の影響は疑う余地がない」と、人間活動の関連性が初めて明確に断定されました。

このまま化石燃料依存型の社会で気候政策が導入されない場合、21世紀末までに世界の平均気温が最大5.7℃上昇する可能性があるとして指摘されています。

2015年のパリ協定では、「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること」が掲げられました。

丸善製薬は、気候変動問題を率先して取り組むべき社会課題と捉え、「リスクへの対応」と「機会の獲得」の両面から取り組んでいます。世界的にカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みが活発化する中、イノベーションを生み出し、事業を通じた貢献が強く求められています。

丸善製薬の事業全般にかかわる気候変動におけるリスクと機会の分析を行い、特定したリスクのうち、移行リスク（現在の規制・新たな規制）として、炭素税や排出量取引制度などの規制が強化された場合、財務的な影響を及ぼす可能性があることを確認しました。

物理的リスクのうち緊急性の高いものとしては、干ばつや洪水などの異常気象による自然災害の影響があり、慢性的なものとしては、恒常的な気象変動に伴う植物原料の安定調達への影響が大きいことを確認しました。

特定した機会の中では、気候変動の緩和と適応に貢献する低炭素・脱炭素への取り組み強化や、自社商品・サービスの提供を通じて、企業価値や製品価値を高める機会獲得の可能性を確認しました。

気候シナリオ別（1.5℃、4℃）の分析の必要性についても認識しており、引き続き分析・検討を進めてまいります。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) 環境マネジメント

【リスクと機会】

リスク／機会	分類	項目	期間	内容
移行リスク	現在の規制 新たな規制	規制強化	中期	製品の製造工程において多くのエネルギーを使用していますので、低炭素・脱炭素、省エネルギー、省資源の製造技術が確立できていないと、炭素税や排出量取引制度などの規制が強化され財務的な影響を及ぼす可能性があります。 対応策として省エネや太陽光パネルの設置、再生可能エネルギー電力の利用に取り組んでいます。
物理的リスク	緊急性	干ばつ	短期	製品の製造工程（抽出・洗浄など）において多くの水を利用しますので、水不足は事業に重大な影響を及ぼす可能性があります。 対応策として水源確保のため給水槽の設置と定期的なメンテナンスを行っています。
		洪水	短期	近年増加傾向にある大型台風やゲリラ豪雨を要因とする洪水などは工場や製造設備、製品保管倉庫を浸水させる可能性があります。 対応策として各工場では類似した製造設備を所有し代替生産対応が可能な体制をとっています。また本社事務所、本社工場事務所および本社工場の製品倉庫は防潮堤を設置しています。
	慢性	気候変動	長期	原材料の多くが天然や栽培された植物由来のものに依存していますので、気候変動に伴う雨量の変化は植物由来原料の調達に影響を及ぼす可能性があります。 対応策として主要原料植物の十分な在庫確保、産地拡大や他の栽培地での育成研究を行っています。
機会	リソースの効率 エネルギー源	気候変動	中期	取引先のサステナビリティへの関心が高まり、低炭素・脱炭素への取り組みを強化することによって、企業評価の維持・向上は不可欠なものとなっています。 省エネや太陽光パネルの設置、再生可能エネルギー電力を利用し、低炭素・脱炭素に取り組むことは企業価値を維持・向上させる機会と捉えています。
	商品 サービス	廃棄物	短期	取引先のサステナビリティへの関心が高まり、廃棄物削減への取り組みを強化することによって、企業評価の維持・向上、製品価値の向上が期待されます。 原材料栽培地で廃棄される植物残渣を有効利用しアップサイクル商品を製造・販売することは企業価値の維持・向上、製品価値を向上させる機会と捉えています。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) エネルギー消費と温室効果ガス

2025年2月18日、日本政府は国連気候変動枠組条約（UNFCCC）事務局に対し、新たなNDC（国が決定する貢献）を提出しました。このNDCでは、2035年度までに温室効果ガス排出量を2013年度比で60%削減し、2040年度までに73%削減することを目標としています。

これらの目標は、地球規模での平均気温上昇を1.5℃以内に抑えるという国際的な目標と整合しており、2050年までにネット・ゼロを達成するための科学的根拠に基づいた直線的な排出削減経路に位置づけられています。

丸善製薬は、製品の製造工程や原料の調達、製品の輸送など、バリューチェーン全体においてエネルギーを使用し、温室効果ガスを排出しています。2010年には「エネルギー管理委員会」を発足し、生産拠点となる3工場（本社工場・新尾道工場・三次工場）を中心に、「省エネ推進」や「温室効果ガス排出量削減」に取り組み、環境負荷の低減に努めています。

引き続き、地球温暖化対策の国際的な枠組みである「パリ協定」に基づく長期戦略の策定および、2050年ネットゼロ（カーボンニュートラル）への取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
環境負荷の低減	エネルギー消費量の削減	エネルギー消費量原単位換算で、2013年度比40%削減を目指します。	エネルギー原単位換算で、2013年度比20%削減を目指します。	7 気候変動 12 責任ある消費と生産 13 気候変動
	温室効果ガス排出量の削減	温室効果ガス排出量の実質ゼロ（カーボンニュートラル）を目指します。	温室効果ガス排出量について、Scope1、2において2013年度比46%削減を目指します。Scope3において2027年までに排出量を把握し、2030年に向け削減していくことを目指します。	7 気候変動 12 責任ある消費と生産 13 気候変動

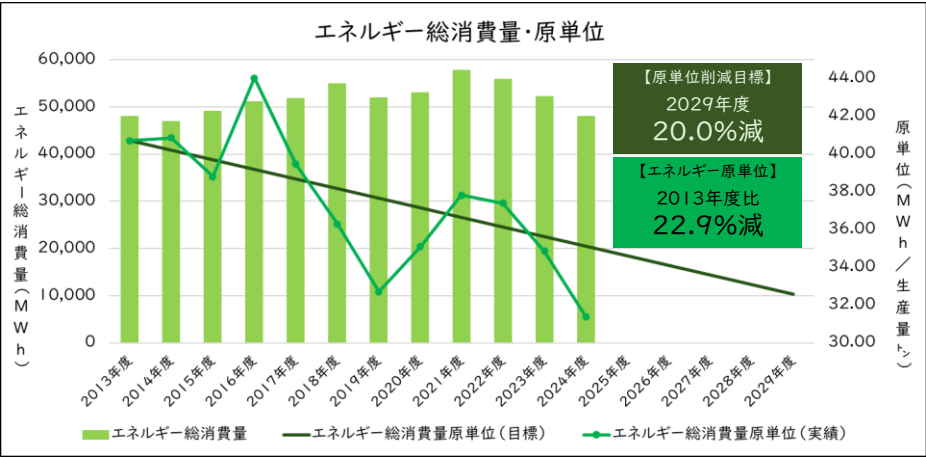
エネルギー消費量・原単位

2024年度のエネルギー消費量は、47,916MWhとなり、対前年比4,216MWhの減少（前年比8.1%減、2013年度比0.0%減）となりました。

エネルギー消費量原単位は、31.38MWh／生産量トとなり、対前年比3.49MWh／生産量トの減少（前年比10.0%減、2013年度比22.9%減）となりました。

省エネ法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）に基づく報告義務として、「定期報告書」と「中長期計画書」を提出しています。

【エネルギー総消費量・原単位の推移】

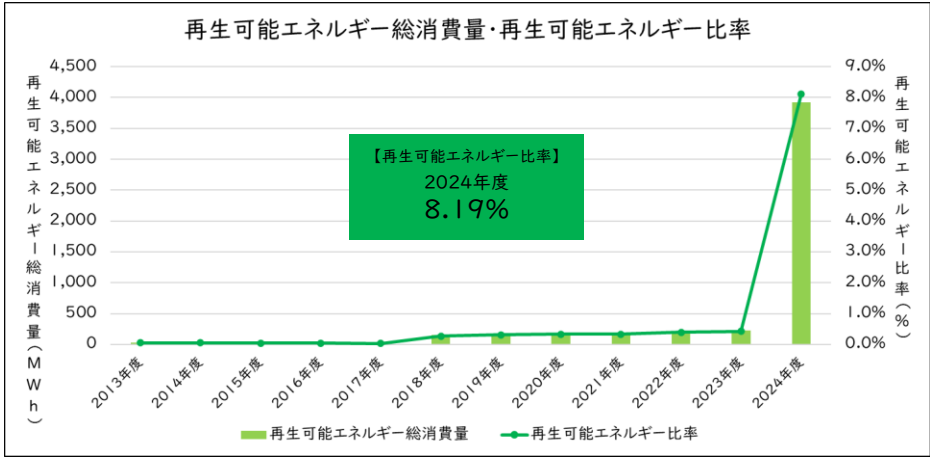


	2013年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
エネルギー総消費量	47,923	51,920	52,933	57,724	55,784	52,132	47,916
非再生可能エネルギー総消費量	47,896	51,757	52,755	57,530	55,562	51,910	43,994
再生可能エネルギー総消費量	27	163	178	194	221	222	3,922
再生可能エネルギー比率	0.06%	0.31%	0.34%	0.34%	0.40%	0.43%	8.19%
エネルギー消費量原単位	40.72	32.72	35.10	37.83	37.41	34.87	31.38
生産量	1,177ト	1,587ト	1,508ト	1,526ト	1,491ト	1,495ト	1,527ト

*単位:エネルギー消費量(MWh)、原単位(MWh／生産量ト)

2) エネルギー消費と温室効果ガス

【再生可能エネルギー消費量の推移】



	2013年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
エネルギー総消費量	47,923	51,920	52,933	57,724	55,784	52,132	47,916
再生可能エネルギー総消費量	27	163	178	194	221	222	3,922
自家発電	27	163	178	194	202	199	242
本社分析センター	-	0	7	31	32	30	30
本社製造事務所棟	-	-	-	-	2	12	10
新尾道工場	27	163	171	163	168	157	157
久井ファーム	-	-	-	-	-	-	45
購入電力	0	0	0	0	19	23	3,680
新尾道工場	-	-	-	-	-	-	3,435
大阪支店	-	-	-	-	-	-	31
久井ファーム	-	-	-	-	19	23	214
再生可能エネルギー比率	0.06%	0.31%	0.34%	0.34%	0.40%	0.43%	8.19%

*単位:エネルギー消費量(MWh)

2024年度の再生可能エネルギー消費量は、3,922MWhとなり、エネルギー総消費量に占める割合は8.19%でした。

省エネルギー活動への取り組み

丸善製薬では、省エネ活動として、全従業員が冷暖房の適切な温度設定、使用していない電気機器のこまめな電源のON・OFF、休憩時間中に使用していない場所の照明の消灯などに取り組んでいます。

また、毎年2月には「省エネルギー月間」として、暖房が過度にならないよう呼びかけるなど、日々の活動の中で一人ひとりが省エネルギーを意識して行動しています。



トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な
企業活動

消費者課題

コミュニティへの
参画及び発展

2) エネルギー消費と温室効果ガス

温室効果ガス (GHG) 排出量・原単位

～マーケット基準～

【スコープ1排出量】

スコープ1排出量は4,453トン-CO₂となり、対前年比では21トン-CO₂の減少（前年比0.5%減、2013年度比6.4%減）となりました。

【スコープ2排出量】

スコープ2排出量は4,733トン-CO₂となり、対前年比では1,957トン-CO₂の減少（前年比29.2%減、2013年度比31.9%減）となりました。

【スコープ1+2排出量】

スコープ1+2排出量は9,186トン-CO₂となり、対前年比では1,977トン-CO₂の減少（前年比17.7%減、2013年度比21.5%減）となりました。

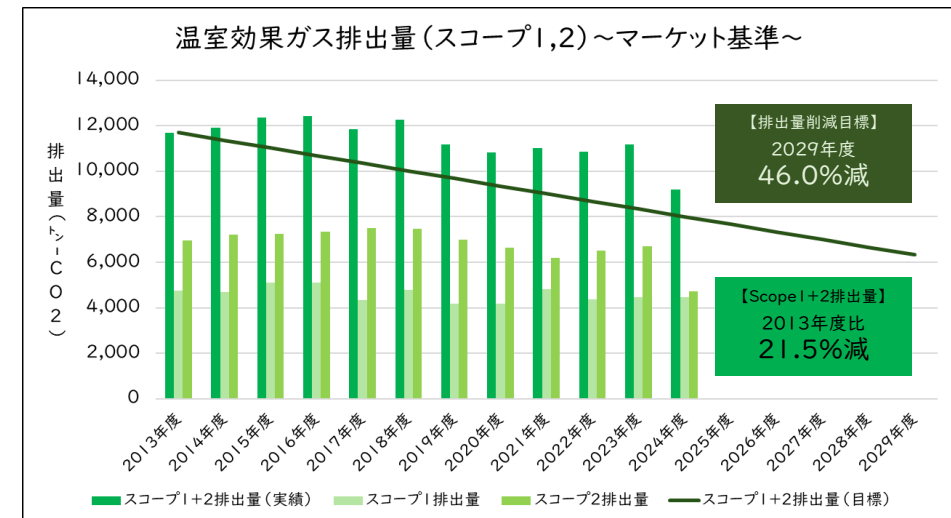
【排出量原単位】

生産量1トンあたりの排出量原単位は、スコープ1では2.92トン-CO₂/生産量トンとなり、対前年比では0.08トン-CO₂/生産量トンの減少（前年比2.5%減、2013年度比27.9%減）となりました。

スコープ2では3.10トン-CO₂/生産量トンとなり、対前年比では1.37トン-CO₂/生産量トンの減少（前年比30.7%減、2013年度比47.5%減）となりました。

スコープ1+2では6.02トン-CO₂/生産量トンとなり、対前年比では1.45トン-CO₂/生産量トンの減少（前年比19.4%減、2013年度比39.5%減）となりました。

【温室効果ガス排出量・原単位の推移】



マーケット基準		2013年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
排出量	スコープ1	4,758	4,194	4,179	4,802	4,370	4,473	4,453
	スコープ2	6,946	6,976	6,647	6,203	6,497	6,690	4,733
	スコープ1+2	11,704	11,170	10,827	11,005	10,867	11,163	9,186
原単位	スコープ1	4.04	2.64	2.77	3.15	2.93	2.99	2.92
	スコープ2	5.90	4.40	4.41	4.06	4.36	4.48	3.10
	スコープ1+2	9.94	7.04	7.18	7.21	7.29	7.47	6.02
生産量		1,177トン	1,587トン	1,508トン	1,526トン	1,491トン	1,495トン	1,527トン

*単位:排出量(トン-CO₂)、原単位(トン-CO₂/生産量トン)

～算定基準～

エネルギー起源CO₂排出量(スコープ1,2): Σ(各燃料の年間購入量×各燃料の単位発熱量×各燃料のCO₂排出係数)+購入電力量×電力のCO₂排出係数

各燃料の単位発熱量、各燃料のCO₂排出係数は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」の「温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度」に基づく値を採用。都市ガスのCO₂排出係数は基礎排出係数を使用。

電力のCO₂排出係数は、各年度の電気事業者別の値(調整後排出係数、マーケット基準)を使用。

2) エネルギー消費と温室効果ガス

～ロケーション基準～

【スコープ1排出量】

スコープ1排出量は4,453トン-CO₂となり、対前年比では21トン-CO₂の減少（前年比0.5%減、2013年度比6.4%減）となりました。

【スコープ2排出量】

スコープ2排出量は3,857トン-CO₂となり、対前年比では1,465トン-CO₂の減少（前年比27.5%減、2013年度比32.6%減）となりました。

【スコープ1+2排出量】

スコープ1+2排出量は8,309トン-CO₂となり、対前年比では1,486トン-CO₂の減少（前年比15.2%減、2013年度比20.7%減）となりました。

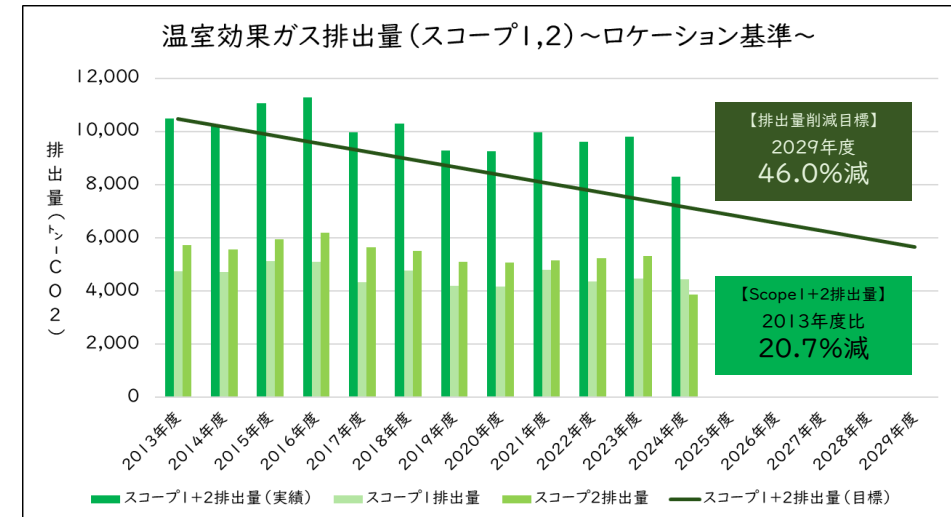
【排出量原単位】

生産量1トンあたりの排出量原単位は、スコープ1では2.92トン-CO₂／生産量トンとなり、対前年比では0.08トン-CO₂／生産量トンの減少（前年比2.5%減、2013年度比27.9%減）となりました。

スコープ2では2.53トン-CO₂／生産量トンとなり、対前年比では1.03トン-CO₂／生産量トンの減少（前年比29.0%減、2013年度比48.1%減）となりました。

スコープ1+2では5.44トン-CO₂／生産量トンとなり、対前年比では1.11トン-CO₂／生産量トンの減少（前年比16.9%減、2013年度比38.9%減）となりました。

【温室効果ガス排出量・原単位の推移】



ロケーション基準		2013年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
排出量	スコープ1	4,758	4,194	4,179	4,802	4,370	4,473	4,453
	スコープ2	5,723	5,095	5,077	5,167	5,233	5,322	3,857
	スコープ1+2	10,482	9,289	9,256	9,969	9,603	9,795	8,309
原単位	スコープ1	4.04	2.64	2.77	3.15	2.93	2.99	2.92
	スコープ2	4.86	3.21	3.37	3.39	3.51	3.56	2.53
	スコープ1+2	8.91	5.85	6.14	6.53	6.44	6.55	5.44
生産量		1,177トン	1,587トン	1,508トン	1,526トン	1,491トン	1,495トン	1,527トン

*単位：排出量（トン-CO₂）、原単位（トン-CO₂／生産量トン）

～算定基準～

エネルギー起源CO₂排出量（スコープ1,2）：Σ（各燃料の年間購入量×各燃料の単位発熱量×各燃料のCO₂排出係数）+購入電力量×電力のCO₂排出係数

各燃料の単位発熱量、各燃料のCO₂排出係数は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」の「温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度」に基づく値を採用。都市ガスのCO₂排出係数は基礎排出係数を使用。

電力のCO₂排出係数は、全国平均係数（ロケーション基準）を使用。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) エネルギー消費と温室効果ガス

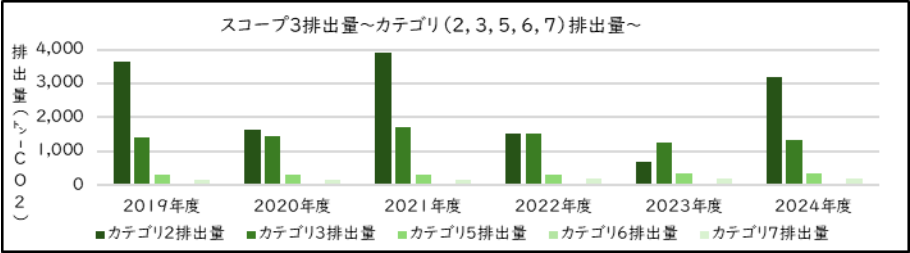
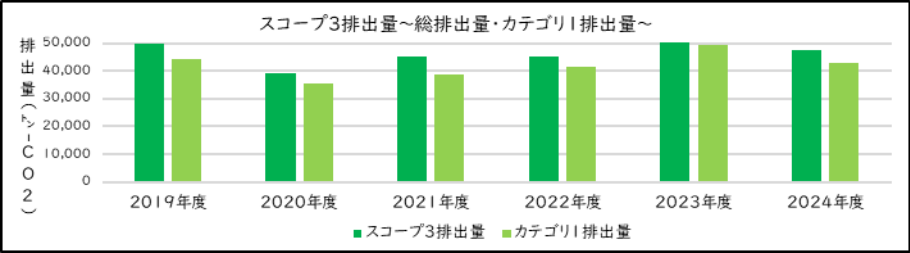
【スコープ3排出量】

丸善製薬では、スコープ3排出量の算定にあたり、環境省が提供する「排出原単位データベース」を活用し、15のカテゴリのうち、カテゴリ1（購入した製品・サービス）、カテゴリ2（資本財）、カテゴリ3（Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動）、カテゴリ5（事業活動から出る廃棄物）、カテゴリ6（出張）、カテゴリ7（雇用者の通勤）の6つのカテゴリを対象に排出量の把握に努めています。

今後は、2027年度に予定している削減フェーズに向けて、排出量データの精度向上および算定対象範囲の拡充に取り組んでまいります。

また、スコープ3の下流カテゴリ（カテゴリ9～15）については、当社製品が取引先製品において主に微量に配合される用途であることから、最終製品の使用段階や廃棄段階における温室効果ガス排出への影響は極めて限定的であると判断しています。

このため、現時点では下流カテゴリについては算定対象外としていますが、今後、製品の用途や供給先の変化により排出影響が増加する可能性がある場合には、必要に応じて再評価を行い、適切な情報開示に努めてまいります。



スコープ3排出量	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1 購入した製品・サービス	44,264	35,303	38,889	41,483	49,249	42,726
2 資本財	3,650	1,649	3,915	1,510	705	3,172
3 Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	1,431	1,457	1,706	1,535	1,262	1,339
4 輸送、配送（上流）	算定検討中	算定検討中	算定検討中	算定検討中	算定検討中	算定検討中
5 事業活動から出る廃棄物	329	301	335	318	339	352
6 出張	53	54	55	57	59	59
7 雇用者の通勤	174	179	181	189	194	197
8 リース資産（上流）	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
9 輸送、配送（下流）	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
10 販売した製品の加工	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
11 販売した製品の使用	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
12 販売した製品の廃棄	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
13 リース資産（下流）	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
14 フランチャイズ	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
15 投資	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
スコープ3排出量	49,903	38,943	45,082	45,091	51,807	47,844
スコープ3排出量原単位	31.44	25.82	29.54	30.24	34.65	31.34
スコープ3排出量（カテゴリ1を除く）	5,638	3,640	6,193	3,608	2,558	5,118
スコープ3排出量原単位（カテゴリ1を除く）	3.55	2.41	4.06	2.42	1.71	3.35
生産量	1,177ト	1,587ト	1,508ト	1,526ト	1,491ト	1,495ト

＊単位：排出量（ト-CO2）、原単位（ト-CO2／生産量ト）

～算定基準～

カテゴリ1：Σ{(購入・取得した製品またはサービスの金額データ×排出原単位)}

カテゴリ2：Σ{(資本財の価格)×(排出原単位)}

カテゴリ3：Σ{(購入電力量)×(排出原単位)}+Σ{(各燃料の年間購入量)×(排出原単位)}

カテゴリ5：廃棄物種類別のΣ(廃棄物量×排出原単位)

カテゴリ6：従業員数×排出原単位

カテゴリ7：勤務形態別都市区分別のΣ(従業員数×排出原単位×勤務日数)

排出原単位は、「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース (Ver.3.1)」「CFP基本DB:『カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム基本データベースVer.1.01(国内データ)』」に基づく値を採用

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) エネルギー消費と温室効果ガス

温室効果ガス (GHG) 排出削減の取り組み

【低炭素燃料への転換】

丸善製薬では、事業所における燃料の低炭素化を推進しています。

三次工場では、工場設備の稼働に利用する燃料を重油からLNG（液化天然ガス）へ転換することで、温室効果ガス排出量の削減を図っています。

これに続き、新尾道工場においても、重油からプロパンガスへの燃料転換の検討を開始しました。

さらに、総合研究所では、温室温風機の更新に伴い、灯油からカーボンオフセットガスへの燃料転換を検討しています。

【生産の効率化】

丸善製薬では、QC活動から波及した取り組みとして、製造技術の向上および製造管理の徹底により、高効率な生産活動の継続的な追求に取り組んでいます。年1回開催される社内発表会では、優れた取り組みに対する表彰制度を設けており、従業員のモチベーション向上にもつながっています。

2024年度からは、新たな評価基準としてSDGsへの貢献や、「脱炭素」「水使用量削減」「廃棄物削減」といった非財務的視点の基準が加わり、生産効率の向上と環境負荷の低減を両立させる取り組みを一層強化しています。

【環境に配慮した設備の導入】

丸善製薬では、温室効果ガス排出量の削減に向けて、環境に配慮した設備の導入を推進しています。

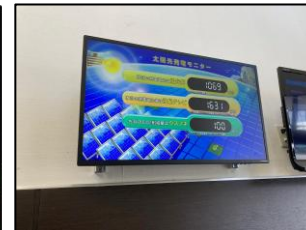
2024年度は、本社工場において、スプレー乾燥機のボイラーを重油使用量の削減が可能な高効率タイプへ更新しました。

また、すべての事業所において、照明設備のLED化を段階的に進めており、省エネルギー化を図っています。これは、蛍光灯の製造および輸出入が禁止される国際的な動向を踏まえた対応でもあり、2027年末までに全照明のLED化を完了する計画です。

【再生可能エネルギーの利用】

丸善製薬では、事業活動における再生可能エネルギーの活用を積極的に推進しています。新尾道工場、本社分析センター、本社製造事務所棟（プロトピアビル）、および久井ファームでは、自家消費型の太陽光発電設備を設置し、発電された電力を従業員厚生棟や定温倉庫などで使用しています。

三次工場および総合研究所では、初期投資や維持・管理の負担が不要なPPAモデル（Power Purchase Agreement）による太陽光発電設備の導入を検討しており、事業所内での再生可能エネルギー利用の拡大を目指しています。



新尾道工場



久井ファーム

購入電力に関しては、久井ファームでは2022年度、大阪支店では2024年度、新尾道工場では2024年5月より、再生可能エネルギー比率100%の電力の利用を開始しました。今後も、他の事業所において再生可能エネルギー比率100%の電力導入を検討し、持続可能なエネルギー利用の拡大に努めてまいります。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) エネルギー消費と温室効果ガス

【遮熱塗料の利用】

総合研究所では、空調効率の向上とエネルギー消費量の削減を目的として、研究棟の壁面に遮熱塗料を塗布しています。この遮熱塗料は、太陽光による熱の侵入を抑制することで建物内部の温度上昇を軽減し、冷房使用量の削減につながります。

これにより、エネルギー使用量の低減を通じた環境負荷の低減と、快適な作業環境の維持を両立することが可能となっています。当社は今後も、建築・設備面からの環境配慮を積極的に推進してまいります。

【エコカーの利用】

丸善製薬では、すべての事業所において、社用車としてエコカー（ハイブリッド車・電気自動車）の導入を推進しています。

これにより、事業活動に伴う温室効果ガス排出量の削減を図り、環境負荷の低減に貢献しています。

また、エコカーの導入は、燃費性能の向上によるエネルギー効率の改善や運用コストの削減にも寄与しており、環境面と経済面の両立を実現する取り組みとして位置づけられています。

大気汚染防止

大気汚染は、人の健康や植物、生態系に深刻な影響を及ぼす要因であり、特に窒素酸化物（NOx）や硫黄酸化物（SOx）などの汚染物質は、ぜんそくなどの呼吸器疾患の発症率を高めることが知られています。これらの物質の排出量や濃度は、法令に基づき行政によって厳しく規制されています。

丸善製薬では、大気汚染の防止に向けた取り組みとして、ばい煙処理機能を備えた小型貫流ボイラーの設置をはじめ、排ガス中のばいじん、NOx、SOxの処理および削減に努めています。また、定期的な環境測定を実施し、「大気汚染防止法」をはじめとする関連法令を遵守した運用を継続しています。

尾道COOL CHOICEプロジェクトへの賛同

丸善製薬は、環境省が推進する地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」に賛同し、尾道市が展開する「尾道COOL CHOICEプロジェクト」に登録しています。CO2をはじめとする温室効果ガスの排出量削減に向けて、日々の事業活動を通じて積極的に貢献してまいります。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

3) 水

水は、人々の生命や生活を支える上で極めて貴重な資源です。自然の恵みを享受し、新たな価値につないでいくことを事業とする丸善製薬にとって、欠かすことのできない資源です。

丸善製薬では、原料の抽出や設備の洗浄など、製品の製造工程において水を使用・排出しており、水資源の問題を重要な環境課題として認識しています。生産拠点における生産の継続や周辺の水環境保全のために、水リスク評価に基づき、効率的な水利用の推進、排水の適正管理、排水処理の高度化などに努めています。

マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
環境負荷の低減	水使用量の削減と排水管理	サプライヤーでの環境負荷低減の技術支援を実施し、サプライチェーン全体として水の管理を進めます。	水資源使用原単位量(取水量)について、2013年度比10%削減を目指します。	

水リスク評価

水資源の危機に直面している地域を特定するために、WWFの「Water Risk Filter」や国土地理院の「ハザードマップポータルサイト」を活用し、水不足、水質、洪水、高潮などの水ストレスに関する評価を行っています。

生産拠点地域の取水においては、水ストレスの低い地域からの取水であることを確認していますが、本社工場および新尾道工場の水源については、極度の渇水状態となった場合に安定的な取水が困難となるため、貯水や工場間の水の移送などの対策を講じています。

また、近年増加傾向にある大型台風やゲリラ豪雨による洪水は、製造設備や製品保管倉庫の浸水リスクを高めているため、各工場では類似した製造設備を所有し、代替生産が可能な体制を整えています。さらに、本社工場の製品倉庫には、高潮を想定した防潮堤を設置しています。

水会計

丸善製薬では、水資源の持続可能な利用に向けて、取水・排水・消費量の把握と効率的な管理に取り組んでいます。

【総取水量】

2024年度の総取水量は306MLとなり、対前年比では増減はなく、2013年度比では13MLの減少(4.1%減)となりました。

【総排水量】

総排水量は260MLとなり、対前年比では増減はなく、2013年度比では28MLの減少(9.6%減)となりました。

【水消費量】

水消費量(=総取水量-総排水量)は46MLとなり、対前年比では増減はなく、2013年度比では14MLの増加(45.2%増)となりました。

【水消費量原単位】

水消費量原単位は0.0301ML/生産量tとなり、対前年比では0.0007ML/生産量tの減少(前年比2.1%減、2013年度比11.9%増)となりました。

2024年度は、本社工場においてスプレーポンプのシール水削減や、工場内の埋設管を地上配管に切り替えることで漏水対策を実施しました。

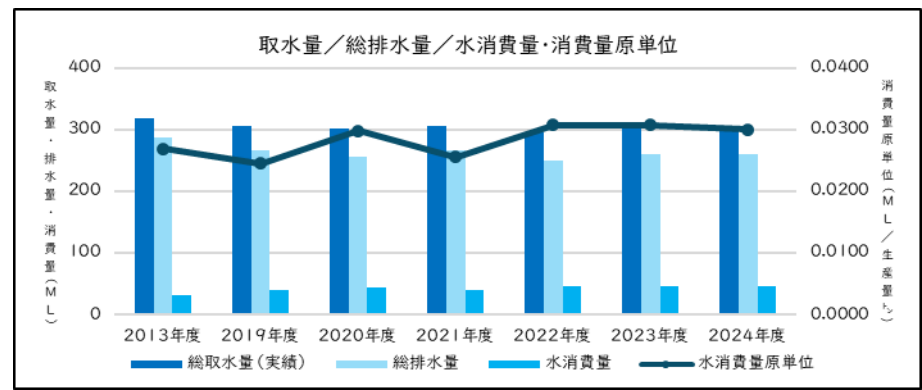
新尾道工場では、ボイラードレン廃棄水の有効利用を開始しました。三次工場では、真空ポンプ等を使用するシール水に流量計を設置し、削減に取り組んでいます。

これらの取り組みにより、製品生産量が増加したにもかかわらず、水消費量は増加することなく推移しており、水資源の効率的な利用が進んでいます。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

3) 水

【総取水量／総排水量／水消費量・消費量原単位の推移】



	2013年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
すべての地域からの総取水量	319	307	302	306	297	306	306
地表水	1	1	1	1	1	1	1
地下水	1	1	3	2	3	1	1
海水	203	169	167	166	158	161	162
生活随伴水	0	-	-	-	-	-	-
第三者の水	115	136	131	137	135	143	142
すべての地域の総排水量	288	268	257	267	251	260	260
地表水	55	76	68	76	70	75	77
地下水	0	-	-	-	-	-	-
海水	232	192	189	191	181	185	183
生活随伴水	0	-	-	-	-	-	-
第三者の水	0	-	-	-	-	-	-
すべての地域での総水消費量	32	39	45	39	46	46	46
水消費量原単位	0.0269	0.0246	0.0298	0.0256	0.0309	0.0308	0.0301
生産量	1,177ト	1,587ト	1,508ト	1,526ト	1,491ト	1,495ト	1,527ト

*単位: 取水量・排水量・消費量 (ML)、原単位 (ML／生産量ト)

排水管理

排水中の汚染物質を削減するため、排水処理設備を整備し、微生物による浄化処理を行ったうえで、徹底した管理のもと排水を行っています。定期的に広島県の水質評価検査を受け、排水中の汚染物質 (COD、窒素、リン) の総量を測定し、排水基準内であるとの評価を受けています。管理基準については、1971年に施行された「水質汚濁防止法」、および1973年に制定された「瀬戸内環境保全特別措置法 (瀬戸内法)」に基づき、水質を管理しています。

2024年度は、「水質汚濁防止法」および「瀬戸内環境保全特別措置法」に違反する事案はありませんでした。引き続き、製造用水の節水や徹底した排水管理を通じて、事業活動における水消費量の削減、ならびに両法に基づく適正な排水管理に取り組んでまいります。

【水中排出汚染物質総重量】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
水中排出汚染物質総重量	1.57	1.09	1.69	1.44	0.84	1.00

*単位: ト

久井ファームの水質検査・雨水の利用

久井ファームでは、地下水 (井戸水) を利用しています。この水は植物の栽培だけでなく、従業員の飲料水としても利用しているため、飲料水に適した項目で水質検査を実施しています。

また、発酵過程で生じるドリップは排水処理設備で浄化し、堆肥の水分調整に再利用しております。

さらに、不足する水については、改修工事により設置された貯水タンクによって雨水を回収・利用できる体制を整えています。



久井ファーム堆肥場雨水貯水タンク

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

4) 廃棄物

丸善製薬は、製造過程において廃棄物を排出しています。廃棄物の多くは、植物を抽出した後に生じる抽出残渣や、各工場の排水に含まれる汚泥、ろ過工程で使用する珪藻土などです。

廃棄物の削減に取り組む事は、事業活動に必要な資材やエネルギー資源を効率的に活用することにつながり、環境保全活動全般に寄与する重要な取り組みです。また、サーキュラーエコノミーの浸透に伴い、廃棄物の削減や資源の再利用の重要性は、今後ますます高まると認識しています。

マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
環境負荷の低減	廃棄物発生量の削減	5R (Reduce<削減>、Reuse<再利用>、Recycle<再資源化>)、Renewable<持続可能な資源の活用>、Repair<修理して使う>)を推進し廃棄物の排出ゼロを目指します。	マテリアルフロー分析を実施し、廃棄物発生量の削減を進めます。 Reduce:プラスチック使用量の削減 Renewable:抽出原料残渣の100%有効利用化(堆肥化/燃料化/飼料化)	

抽出残渣の有効利用

丸善製薬は、環境負荷を低減するとともに、自社で有用植物原料の試験栽培を行うため、2007年に広島県三原市に約75,000㎡の農地「久井ファーム」を設立しました。

久井ファームでは、植物エキスの製造過程で発生する抽出残渣(植物から有用成分を取り出した後の残留物)を焼却処分せずに発酵・堆肥化し、新たな有用植物の栽培に活用する「循環型農法」を導入しています。

焼却処分を行わず堆肥として再利用することで、廃棄物の削減に加え、焼却処分時に発生するCO2排出の抑制や、農地土壌を吸収源とする炭素貯留などを通じて、環境負荷の低減に貢献することが期待されます。バイオマス燃料としての活用に加え、今後も抽出残渣のさらなる有効利用について検討を進めてまいります。

2024年度は、抽出残渣をより効率的に処理・堆肥化するための堆肥場改修工事が完了し、より高品質な堆肥の製造が可能となりました。

【抽出残渣の久井ファーム搬入量】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
抽出残渣の久井ファーム搬入量	90t	86t	918	729	209	445

*単位: t



久井ファーム全景



堆肥場内(抽出残渣の堆肥化)



堆肥場



堆肥場(太陽光発電設備)

汚泥処理

工場排水に含まれる汚泥の処理にあたっては、微生物処理を行い、下水放流基準値以下に浄化したうえで排水しています。排水槽の環境を維持するため、微生物に好気呼吸の代謝を促す装置を設置し、容積負荷率の向上、汚泥の減容効果の強化、散気効率の改善を図っています。この装置の導入により、排水設備への負荷が低減され、消費電力の削減にもつながっています。

2024年度も引き続き、三次工場において、さらなる汚泥削減および節電を目的に、より高度な処理能力を有する微生物の探索と導入の検討を継続しています。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

4) 廃棄物

珪藻土処理

事業活動の規模拡大に伴い、ろ過工程でろ材として使用する珪藻土の使用量が増加しています。珪藻土を含むろ過残渣は、堆肥化を進める上で障害となるため、現在は外部施設にて廃棄処理を行っています。

今後は、ろ過残渣の全量リサイクルを目指した処理方法の検討や、珪藻土を使用しないろ過方法の導入検討が必要であると考えています。また、さまざまな種類の残渣を扱うようになったことで、堆肥化の条件が十分に確立されないまま保管された残渣から腐敗臭が発生し、近隣住民からの苦情が寄せられる事例もありました。これを受けて、堆肥場施設の改修が完了し、現在は堆肥化条件確立に向けた検討を進めています。

包装資材

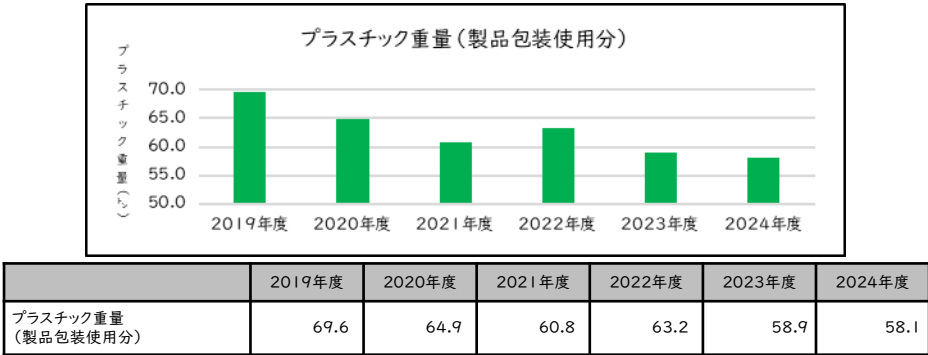
製品の包装については、廃棄物削減のため、簡易包装を導入しています。製品の多くは外装に段ボール箱を使用し、内装材にはプラスチック製の包装資材を使用しています。プラスチックに関する課題は認識しており、さらなる削減の取り組みが不可欠であると考えています。

包装資材には、製品の品質保持や情報提供などの役割があるため、今後はこうした役割を担保しつつ、資源の枯渇や海洋プラスチック問題を意識しながら、プラスチック使用量の削減や、植物由来・再生由来プラスチック容器の導入などの取り組みを検討し、環境負担の低減に貢献してまいります。

2024年度は、アルミ包材の使用を中止し、酸素や水蒸気の透過を抑える高いバリア性能を持つ「GL FILM」への切り替えを進めました。また、18リットル缶などで使用されていた「かぶせ缶」の使用を廃止し、環境に配慮したパッケージングの検討を進めています。

さらに、輸送時の荷崩れ防止用フィルムについても使用量を削減し、プラスチック使用量の削減に取り組みました。引き続き、包装資材以外で使用されているプラスチックについても、使用削減に努めてまいります。

【プラスチック重量（製品包装使用分）】



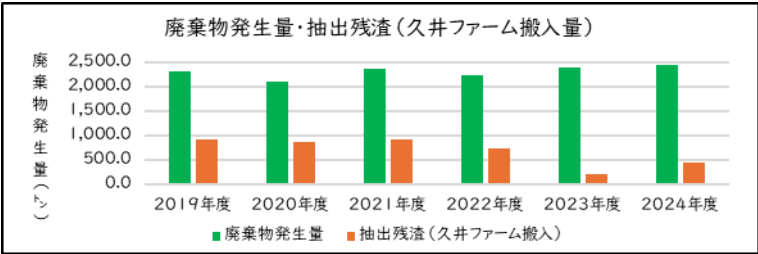
*単位:ト
*製品販売に使用される包装資材のみの重量

廃棄物管理

【発生した廃棄物の発生量】

総合研究所や品質管理部門では、研究や検査にともない多種多様な廃棄物が発生しています。これらの廃棄物は分別を徹底し、専門の処理業者に委託して適切に処分しています。

また、事務の効率化、コンプライアンスの徹底、データの透明性の確保といった観点から、マニフェストの電子化を推進しています。



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

4) 廃棄物

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
発生した廃棄物の発生量 うち久井ファーム搬入量	2,309 901	2,111 861	2,352 918	2,228 729	2,376 209	2,434 445
処分されなかった廃棄物の重量	0	0	0	0	0	0
有害廃棄物	0	0	0	0	0	0
非有害廃棄物	0	0	0	0	0	0
処分された廃棄物の重量	2,309	2,111	2,352	2,228	2,376	2,434
有害廃棄物	2	2	3	2	2	2
非有害廃棄物 うち久井ファーム搬入量	2,307 901	2,109 861	2,349 918	2,226 729	2,374 209	2,432 445

*単位:ト

アップサイクル製品の提供

丸善製薬では、社会課題の解決に貢献する商品として、原材料の栽培地で発生する廃棄物を有効活用し、アップサイクル製品の製造・販売に取り組んでいます。パイナップル果汁の搾りかすや、エゴマの成長過程で「摘心」される若葉などを活用し、アップサイクル植物エキスとして新たな価値を提供しています。



**高まる潤い
明るい肌へ**

フルーツ由来の新素材
パイナップルセラミド

「潤い4d」のパイナップルセラミド

丸善製薬は、タイ王国北部の山岳地帯（NKA）に地産の農産物の活用を促進し、持続可能な社会の実現に貢献しています。パイナップル果汁の搾りかすを有効活用し、高保湿成分「パイナップルセラミド」を開発しました。この成分は、肌の保湿力と弾力を高める効果があり、乾燥肌や敏感肌の改善に効果的です。また、パイナップルセラミドは、肌の細胞を活性化し、肌の再生を促進する効果があります。この成分は、肌の保湿力と弾力を高める効果があり、乾燥肌や敏感肌の改善に効果的です。また、パイナップルセラミドは、肌の細胞を活性化し、肌の再生を促進する効果があります。



和ism® <エゴマ葉>

和ism® <エゴマ葉>で頭皮環境を改善

頭皮フローラを整え、頭皮の痛み、抜け毛・白髪発生を抑える

- コリネバクテリウム属細菌抑制効果
- 頭皮の赤み改善効果
- 抜け毛を減少させ、白髪発生抑制効果

様々な頭皮の悩み、毛髪の成長をサポート

- 頭皮環境改善作用
- バリア機能向上作用
- 毛髪のハリ・コシ促進作用

環境に優しいアップサイクル原料

- 成長過程で廃棄されるエゴマ若葉を有効活用
- 有機栽培
- トレーサビリティ（広域展開）

和ism®のアップサイクル

エゴマ若葉（エゴマ葉）を多く含むため、植物の成長を促進する効果があります。また、エゴマ若葉は、頭皮の環境を改善し、頭皮の痛み、抜け毛・白髪発生を抑える効果があります。また、エゴマ若葉は、頭皮の環境を改善し、頭皮の痛み、抜け毛・白髪発生を抑える効果があります。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

5) 生物多様性

「甘草」のサステナブル調達への取り組み

甘草は丸善製薬にとって重要な植物資源のひとつです。将来にわたる甘草の保護と安定的な調達を目的に、30年来の学術的交流がある中国科学院 華南植物園と連携し、甘草栽培に関する共同研究に取り組んでいます。オーストラリアの自社農園（現在は閉鎖）で培ってきた約20年間の栽培経験を活かし、種苗生産、幼苗育成、栽培管理方法などのノウハウをもとに、優良系統を栄養繁殖した種苗を用いた商業規模での栽培試験を実施してきました。

2024年度は、優良系統由来の地下茎（ストロン）を用いて前年度より栽培を開始した甘草根を収穫しました。この収穫量をもとに、2026年度以降の栽培面積を算出し、安定調達に向けたシステム構築を推進してまいります。

引き続き、甘草の研究を継続し、甘草栽培の発展と持続可能な原料調達に貢献してまいります。



また、甘草に続き、他の植物原料についても「買う」から「育てる」への調達方針の転換を検討してまいります。

生物多様性条約・名古屋議定書に基づく遺伝資源へのアクセス対応

生物多様性条約は、生物多様性の保全および持続可能な利用を目的として、1992年5月に国連で採択され、1993年12月に発効された国際的な条約です。

2010年には、生物多様性条約の実効性を高めるための国際的なルールとして、名古屋議定書が採択されました。

日本は2017年に名古屋議定書の締約国となり、従来以上に生物多様性条約への対応が重要となっています。

丸善製薬では、お客様に安心して製品をご利用いただくために、原料提供国の法令を遵守し、適切な手続きを経たうえで遺伝資源を利用することに努めています。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

5.公正な事業慣行

お取引様との信頼関係を大切に、公正・透明・自由な競争と適正な取引を行います。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) 腐敗行為の防止

丸善製薬は、「企業倫理方針」と「行動規範」を定め、コンプライアンス経営の推進に取り組んでいます。

「企業倫理方針」とは、企業倫理と法令遵守に対する当社の基本的な考え方をまとめたものであり、「行動規範」とは、この方針を踏まえて全ての役員と従業員のとるべき行動や判断基準を示したものです。

2024年1月に取締役会での審議を経て、「企業倫理方針・行動規範」を策定しました。これらの考え方を社内で共有し、実践することで、お客様・社会から信頼される企業を目指してまいります。

企業倫理方針

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。この実現のために「企業倫理方針」を策定し、法令や社会ルールおよびその精神を理解し遵守するとともに、社会倫理を尊重し社会的責任を果たしてまいります。

■お客様に対して

お客様のニーズと社会課題の解決を見据えた商品の供給に努めます。
サプライチェーンにおいて倫理的な調達を行います。
情報セキュリティに努めます。

■社会に対して

遵法に徹して公正な企業活動を行い、適切な情報開示を行います。
持続可能な社会の実現への貢献を目指し、社会・環境面に配慮した事業活動を実施します。
社会の多様性に対応し、地域社会とのコミュニケーション活動を推進します。

■従業員に対して

全従業員の人権を尊重する活動を推進します。
スキルアップを支援し、従業員が最大限に能力を発揮できるよう努めます。
安全で快適な職場環境を整え、生産性を高めます。

制定：2024年1月19日

行動規範

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。

「行動規範」は、「企業倫理方針」を踏まえて全ての役員と従業員のとるべき行動や判断基準を示したものです。

世界が直面する環境課題および社会課題の解決がより重要になると考え、事業に関わる全ての皆様と将来の地球環境と社会に対して責任を持って日々の事業活動に取り組んでまいります。

1. 社会への貢献

- ・社会に貢献し、持続可能な発展に努めることを使命とします。
- ・公正・透明性・誠実さ・信頼性など、重要な価値観を尊重します。
- ・素材探索から製品開発まで、分析技術と最先端の評価技術でお客様の声にお応えするとともに、社会課題の解決を見据えた商品の開発に努めます。
- ・お客様の満足度向上に貢献できるよう、安全・安心を最優先とした商品・サービスの提供に努めます。
- ・事故や不良品が発生した時は、迅速に情報開示・安全対策等の対応を行います。
- ・地域社会への貢献を重視し、コミュニケーション活動を推進します。
- ・ボランティア活動や社会貢献活動に積極的に参加します。

2. 公正な企業活動

- ・各国・地域で定められた事業に関するすべての法令・規制・社会規範を遵守します。
- ・反社会的勢力やマネーロンダリングなどの違法行為に携わる者とは、一切の関係を持ちません。
- ・独占禁止法などの関連する法令を遵守し、公正で公平な取引を行います。
- ・会社利益と相反する行為を行いません。
- ・取引先、政治、行政、その他事業関係者と公正な関係を保ち、汚職、贈収賄、不正、詐欺行為など不適切な利益の供与、受理を行いません。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) 腐敗行為の防止

3. 情報セキュリティと個人情報・機密情報・知的財産権の保護

- ・コンピュータネットワーク上の脅威に対する防御策及び人的要因による過失から情報を守るための対策を講じ、定期的に確認を行います。
- ・事業活動を通じて入手した顧客、第三者、従業員、その他すべての個人情報及び取引上の情報や技術情報を適切に管理します。
- ・他者の知的財産権を侵害しません。

4. 環境への配慮

- ・事業活動が環境に負荷を与えることを念頭に、環境の保全を考慮し関連法令・規制を遵守します。
- ・研究・開発の段階から製品が環境に及ぼす影響を評価し、環境保全に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
- ・持続可能な資源利用のため、定期的にエネルギーや水、原材料などの事業活動に必要な資源の利用状況を確認し、利用効率の改善を図ります。
- ・事業活動全体を通して省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を促進し、温室効果ガスの発生抑制に努めます。
- ・化学物質の管理を徹底し、大気や水、土壌などの汚染防止に努めます。
- ・有害物質の使用削減、廃棄物の削減、処理、処分の適正化や有効利用を推進します。
- ・生物多様性を尊重し、生物多様性に配慮した事業活動を行います。
- ・持続可能な調達をかなえるために環境保全に配慮した調達活動を行います。

5. 人権と多様性の尊重

- ・個人の権利と多様性を尊重します。
- ・基本的権利を尊重し、国籍・出身地域・言語・人種・民族・宗教・思想・年齢・障がい・性別・性自認・性的指向・雇用形態・配偶者の有無・妊娠等の理由による雇用・採用・昇進などの差別や、個人の尊厳を損なう行為を行いません。
- ・いかなる形態の現代奴隷・あらゆる強制労働を一切認めません。

- ・児童の道徳、健康、安全を損なうような就労を防止し、就業年齢に満たない児童労働を撤廃します。
- ・精神的または肉体的苦痛を有する言動やあらゆるハラスメントを行いません。
- ・持続可能な調達をかなえるために社会面に配慮した調達活動を行います。

6. 労働慣行と人材育成

- ・事業活動において適用される労働時間と賃金に関する法令を遵守します。
- ・従業員の健康と安全を第一に考え、健全で働きやすい職場環境づくりと安全の確保に努めます。
- ・従業員と従業員の家族の仕事と私生活の充実のためにワークライフバランスの推進に取り組みます。
- ・結社の自由と団体交渉に関する法令を遵守し、従業員の権利を尊重します。
- ・従業員に教育の機会を提供し、一人ひとりの適性、価値観に配慮した能力開発・自己実現を支援します。
- ・成果や能力を踏まえて、公平・公正・透明かつ意欲向上につながる人事制度を導入します。

制定:2024年1月19日

丸善製薬「企業倫理方針・行動規範」
<https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/conduct.pdf>

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) 腐敗行為の防止

腐敗防止の取り組み・腐敗リスク評価

丸善製薬は、国連グローバル・コンパクトに賛同し、2023年より参加企業として登録されています。人権、労働、環境、腐敗防止に関する10原則に基づき、国内外の新たなビジネスパートナー選定において、「企業倫理方針・行動規範」および「サプライヤー行動規範」に沿って腐敗リスクを包括的に評価し、防止に努めています。腐敗防止の徹底に向け、「贈収賄」「利益相反」「詐欺」「マネーロンダリング」「不正取引」「反社会的勢力との関係」など高リスク行為を重点的にチェックしています。リスクが高いと判断された事項は、本部長会（執行役員会）で対応を協議し、必要に応じて取締役会に報告しています。

【汚職防止／公正な競争】

丸善製薬は、贈収賄、利益相反、詐欺、マネーロンダリング、不正取引などの不正行為を一切行いません。経済のグローバル化に伴い、国内外で腐敗防止への要請が高まり、関連法規も強化されています。当社は、公務員や政治家への贈収賄を含むあらゆる不正を認めず、透明性と倫理を重視した企業活動を通じて、公正な競争の実現に努めています。

【反社会的勢力との関係遮断】

丸善製薬は、社会の一員として、社会秩序や安全を脅かす反社会的勢力とは一切関係を持たず、不当要求には毅然と対応します。従業員への教育に加え、警察など関係機関との連携や情報収集に努めています。また、取引先との契約書には反社会的勢力排除条項を設けています。

【確定した腐敗事例の総数／法的措置を受けた不正商取引の件数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
確定した腐敗事例	0件	0件	0件	0件	0件	0件
法的措置を受けた不正商取引	0件	0件	0件	0件	0件	0件

腐敗防止教育

腐敗行為防止のためには、個人の腐敗行為に関する知識の習得と意識を高める必要があることから、継続的な教育の実施が必要です。

2024年度は、外部講師を招き、取締役および従業員を対象とした研修を実施しました。汚職・贈収賄や海外との取引、反社会的勢力対策などのテーマに加え、国立大学等の研究機関への委託を想定した、いわゆる「みなし公務員」が相手となる場合の注意事項についてもテーマとして取り上げました。

【取締役を対象とした腐敗行為に関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	-名	-名	-名	6名	6名	6名
受講者数	-名	-名	-名	0名	0名	2名
受講率	-%	-%	-%	0.0%	0.0%	33.3%

【管理職を対象とした腐敗行為に関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	-名	-名	-名	63名	64名	71名
受講者数	-名	-名	-名	0名	0名	64名
受講率	-%	-%	-%	0.0%	0.0%	90.1%

【従業員を対象とした腐敗行為に関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	409名	417名	422名	437名	450名	457名
受講者数	28名	18名	20名	24名	21名	427名
受講率	6.8%	4.3%	4.7%	5.5%	4.7%	93.4%

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) 持続可能な調達

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかり繋ぐことで社会の発展に貢献するために「持続可能な調達方針」を策定し、サプライヤーの皆様からのご支援、ご協力のもと調達活動を実施しています。

マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
持続可能な調達とサプライチェーンマネジメント	持続可能な調達	全ての原料についてサプライヤーとの協働によって「持続可能な調達方針」を推進し、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	主要原料についてサプライヤーとの協働によって「持続可能な調達方針」を推進し、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	

持続可能な調達方針

丸善製薬は、すべてのサプライヤーからのご支援、ご協力のもと、持続可能な社会の実現への貢献を目指し、社会・環境面に配慮した調達活動を実施します。

1. 品質本位

自社の品質方針に準拠し、品質、安心、安全を優先した原材料の調達を行います。

2. 公正・公平性

サプライヤーの選定においては、品質、価格、納期、取引条件、保有技術、サービス能力、協力度、安定調達、CSRへの取り組み等の観点から総合的な評価により行います。また2社以上のサプライヤーからの競争見積りを原則として、公平な参入機会を提供します。

3. 遵法・倫理

社会の常識、関連する法令や倫理を含む会社の諸規程を遵守し、公正で良識ある調達活動を行います。またいかなるサプライヤーとも個人的な利害関係を持ちません。

4. 協働

サプライヤーとの良好なコミュニケーションのもと、相互理解、信頼関係の構築により、社会の健全な発展を目指します。

5. 人権

強制労働、児童労働、差別、非人道的扱いを支援することはありません。基本的人権を尊重し、労働環境、安全衛生に配慮した調達活動を推進します。

6. 環境

人に優しい世の中に役立つ事業継続と、地球環境の保全のために、関係する法令を遵守し、「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生する調達活動を実践します。

7. 情報セキュリティの保持

調達活動に関わる機密情報及び個人情報に関する法令を遵守厳重に管理します。

制定:2020年12月9日

改定:2022年2月9日

丸善製薬「持続可能な調達方針」

<https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/policy.pdf>

CSR関連の認証

【RSPO加盟・認証取得】

丸善製薬は、持続可能な原材料調達の取り組みとして、2021年9月にRSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil/持続可能なパーム油のための円卓会議)へ加盟し、2023年12月に新尾道工場においてRSPO認証を取得しました。引き続き、「持続可能な調達方針」のもと、各種認証の仕組みを活用し、持続可能な調達推進に取り組んでまいります。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) 持続可能な調達

CSR調達の意識啓発

原材料調達や製造委託に関わる従業員に対して、CSR調達の重要性や「持続可能な調達方針」の趣旨についての教育を実施しています。

方針に基づくCSR調達活動を具体的に推進するため、従業員が外部研修を受講し、その内容を社内に展開する形式で、受講者が講師となって社内研修を実施し、理解の深化を図っています。

2024年度は、調達を担う購買部への新規配属がなかったため集合研修は実施せず、サプライヤーアンケートの実施時期に合わせて、児童労働、強制労働を中心とした人権デューディリジェンスに関する課題について、ESG推進部員が講師となり個別指導を行いました。

【調達部門の従業員を対象とした資材調達に関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
対象者数	7名	6名	6名	6名	8名	6名
受講者数	0名	1名	2名	1名	8名	5名
受講率	0%	16.7%	33.3%	16.7%	100%	83.3%

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

3) サプライチェーンマネジメント

近年、企業のグローバル化、多角化が進み、多様な取引先がビジネスパートナーとなる中で、CSR（企業の社会的責任）を認識し、サプライチェーン全体でその責任を果たすべきという考え方が急速に広まっています。

丸善製薬は、サプライヤーの皆様とともに取り組む姿勢を明確にするため、2020年12月に「持続可能な調達方針」を策定（2022年2月に改定）し、2022年2月に「サプライヤー行動規範」を策定しました。

これはサプライヤーの皆様にも人権・労働・環境・腐敗防止などに配慮していただき、サプライチェーン全体でCSR意識を向上させていくためのガイドラインです。今後も引き続きサプライヤーの皆様とのコミュニケーションを活発化させながら、持続可能な調達活動を推進してまいります。

マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
持続可能な調達とサプライチェーンマネジメント	サプライチェーンマネジメント	「サプライヤー行動規範」に沿って、国内外のサプライヤーへのモニタリング調査を実施し、サプライチェーン全体における人権・労働・環境等の課題の把握と対応を目指します。	「サプライヤー行動規範」に沿って、国内外のサプライヤーへのモニタリング調査を実施し、サプライチェーン全体における人権・労働・環境等の課題の把握と対応を目指します。	

サプライヤー行動規範

1. 品質と安全性の確保

- (1) 安全を最優先とした商品・サービスの提供に努めます。
- (2) 事故や不良品が発生した時は、情報開示、安全対策等の対応を行います。

2. 法令・社会規範の遵守

- (1) 各国・地域で定められた事業に関する法令と社会規範を遵守します。
- (2) 取引先、政治、行政、その他事業関係者と公正な関係を保ち、汚職、贈収賄、不正、詐欺行為など不適切な利益の供与、受理を行いません。
- (3) 反社会的勢力やマネーロンダリングなどの違法行為に携わる者とは、一切の関係を持ちません。
- (4) 独占禁止法などの関連する法令を遵守し、公正で公平な取引を行います。
- (5) 会社利益と相反する行為を行いません。

3. 人権の尊重

- (1) 個人の人権と多様性を尊重します。
- (2) 基本的人権を尊重し、国籍・出身地域・言語・人種・民族・宗教・思想・年齢・障がい・性別・性自認・性的指向・雇用形態・配偶者の有無・妊娠等の理由による雇用・採用・昇進などの差別や、個人の尊厳を損なう行為を行いません。
- (3) いかなる形態の現代奴隷も一切認めません。
- (4) あらゆる強制労働を一切認めません。
- (5) 児童の道德、健康、安全を損なうような就労を防止し、就業年齢に満たない児童労働を撤廃します。
- (6) 結社の自由と団体交渉に関する法令を遵守し、労働者の団結権や団体交渉の権利を尊重します。
- (7) 自らの事業活動において適用される労働時間と賃金に関する法令を遵守します。
- (8) 精神的または肉体的苦痛を有する言動やあらゆるハラスメントを行いません。

4. 環境への配慮

- (1) 事業活動が環境に負荷を与えることを念頭に、環境の保全を考慮し関連法令・規制を遵守します。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬の サステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な 企業活動	消費者課題	コミュニティへの 参画及び発展
----------	------	-------------------	------	----	------	----	-------------	-------	--------------------

3) サプライチェーンマネジメント

- (2) 持続可能な資源利用のため、定期的にエネルギーや水、原材料などの事業活動に必要な資源の利用効率の改善を図ります。
- (3) 廃棄物の削減、処理処分の適正化や有効利用を推進します。
- (4) 事業活動全体を通して省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を促進し、温室効果ガスの発生抑制に努めます。
- (5) 大気や水、土壌などの汚染防止に努めます。
- (6) 生物多様性を尊重し、生物多様性に配慮した事業活動を行います。

5. 情報セキュリティと個人情報・機密情報・知的財産権の保護

- (1) コンピュータネットワーク上の脅威に対する防御策及び人的要因による過失から情報を守るための対策を講じ、定期的に確認を行います。
- (2) 事業活動を通じて入手した顧客、第三者、従業員、その他すべての個人情報及び取引上の情報や技術情報を適切に管理します。
- (3) 他者の知的財産権を侵害しません。

制定：2022年2月9日

丸善製薬「サプライヤー行動規範」

<https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/supplier.pdf>

サプライヤーとのCSR協働およびエンゲージメント

丸善製薬は、サプライヤーの皆様との健全で信頼性の高い関係構築に努めています。自社における公正・公平かつ透明性のある取引の実践はもちろん、サプライチェーン全体を通じた持続可能な調達の推進にも取り組んでいます。

サプライヤーの皆様にもサステナビリティへの取り組みを進めていただけるよう、当社の「サプライヤー行動規範」において、品質と安全性の確保、法令・社会規範の遵守、人権の尊重、環境への配慮、情報セキュリティと個人情報・機密情報・知的財産権の保護についての協力をお願いしています。

また、サプライチェーン上の原材料調達における「コーポレートガバナンス」「人権」「労働」「環境」「倫理」「品質・安全性」「情報セキュリティ」「サプライチェーン」「地域社会」に関するリスクを把握するため、サプライヤーごとにCSRアンケートを実施し、取り組み状況の確認を進めています。

【サプライヤー別CSRアンケートの実施】

2024年度は、仕入総額の約81%にあたるサプライヤー様に対し、「持続可能な調達方針」「サプライヤー行動規範」およびグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (GCNJ) の「CSR調達セルフ・アセスメント質問表」についてご案内しました。

その結果、すべての対象サプライヤー様からご回答をいただくことができました。

【調達原料別CSRアンケートの実施】

2024年度は、主要な購入原材料ごとに「原材料調査票CSRアンケート」をお送りし、依頼品目の約84%にあたる原材料についてご回答をいただくことができました。

【取引先とのエンゲージメント活動】

サプライヤー別アンケートに回答いただいたすべてのサプライヤー様には、フィードバックを実施し、サステナブル調達への理解と協力をお願いしています。また、特に取り組みを強化していただきたいサプライヤー様に対しては、順次個別にエンゲージメント活動（サステナビリティへの取り組みに対する情報交換やベストプラクティスの共有など）を実施しています。

今後は、遵守状況に関するデューディリジェンスの実施を検討するとともに、サステナビリティに積極的に取り組む取引先からの優先調達についても検討を進めてまいります。

なお、2024年度は、当社の「持続可能な調達方針」「サプライヤー行動規範」の周知活動フェーズであったため、サステナビリティ基準に基づくサプライヤーの選定は実施していません。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

4) 財産権の尊重

財産権の尊重

丸善製薬は、「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生しながら世界に向け自然の恵みを提供し続けたいという企業理念のもと、知的財産権を積極的に取得し活用する事で、自社事業の「保護」と「守り」の知的財産活動を行ってきました。この「守り」の活動を大切にしつつ、競争優位性を意識した「攻め」の知的財産活動にも取り組んでいます。

また、当社の重要課題である美と健康への貢献や、環境負荷低減などの社会課題にも向き合い、取引先様と当社のお互いの強みを活かしながら「共創」「協調」の観点から持続的成長に結びつけていくことに取り組んでいます。「攻め」「守り」に加え、「共創」「協調」の知的財産活動を推進することにより、事業の成長と企業価値の向上を目指しています。

特許対応・文献調査

特許対応・文献調査は、お客様が安心して当社の製品をご利用いただくために必要不可欠な権利・情報管理と捉えています。文献検索、特許検索、法的情報調査により、最新の情報収集と活用に努めています。

従業員教育

営業・研究開発員へ社内研修を実施し、第三者の知的財産権を尊重する風土・体制づくりに努めています。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬の サステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な 企業活動	消費者課題	コミュニティへの 参画及び発展
----------	------	-------------------	------	----	------	----	-------------	-------	--------------------

6.消費者課題

自然からの恵み（有用性）を、独自の技術により、安心・安全でお客様に満足頂ける
高品質な製品として安定提供します。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) 品質保証

丸善製薬は、お客様が求める高い品質の製品を安定して提供することに注力しています。

お客様の満足度向上のために、品質全般を保証・統括する部署を設け、市場に送り出す製品の品質確保と向上に継続して取り組んでいます。

品質方針

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。

この実現のために「品質方針」を策定し、『顧客満足度向上』ならびに『会社信頼度向上』の実現に取り組めます。

1. 人々の健康と美の実現を願って抽出道を究め、国内外のお客様のニーズと信頼に応える製品を提供します。
2. お客様に「安心・安全」な製品を「安定的」に提供する事を使命とし、品質の確保と向上に取り組めます。
3. 適用される法令・規制要求事項の遵守を基本とし、社会的要求事項に応えます。
4. 品質マネジメントシステムを運用し、その有効性の継続的な改善により信頼性の向上に努めます。

制定：2022年2月9日

丸善製薬「品質方針」

<https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/quality.pdf>

品質保証体制

丸善製薬の品質保証・統括部門として、工場ごとに品質管理を行う部署を設けており、製品品質を確保するために自社にて設定した製品規格に適合しているか

試験検査を実施しています。主力である医薬甘草系製品は、GMPを遵守した工場で製造しています。

2001年3月に三次工場および関連部門では、品質マネジメントシステムである国際規格：ISO9002：1994の認証を取得し、現在はISO9001：2015の認証を維持し、お客様に満足していただける品質保証体制を整えています。

分析技術と品質検査

最新分析技術の製造への導入を常に意識し、生物活性評価や薬理、活性成分の単離や抽出技術の解明などの研究はすべてこの分析技術がベースとなっています。

製品品質の確保と顧客サービスの向上を目指して、品質検査（原料検査、工程品検査、製品検査など）に関する教育・訓練を受けた検査員が、市場に送り出す製品の品質クレームゼロを目標として、適切な試験の実施に努めています。

原料から製品出荷まで、お客様のあらゆるご要望にお応えし、安心してご使用いただける最高の品質をお届けします。

製品情報提供

お客様のご要望に応じた納品仕様書作成をはじめ、製品に関する情報を集約し、迅速に提供します。

製品の安全性管理

製品の安全性については、開発・設計段階から原料の調達も含めて検討を行い、環境への影響や人の健康に対するリスクなどの評価を行います。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) 品質保証

内部監査

各工場を対象とした製品品質および製造環境を考慮した内部監査を年1回実施しています。

内部監査員は品質保証部門から選任し、教育を施した後に監査を実施します。部外者として工場監査を実施することにより、普段気付いていなかった業務遂行上の改善に役立っています。

また、指摘事項は他工場に対しても水平展開を行い、全工場として継続的な改善を図っています。

5Sの徹底

本社・新尾道・三次の各工場においては、工場ごとに安全衛生委員会を設けており、従業員の労働安全を念頭に月1回の安全衛生パトロールと会議を実施し、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)に基づく衛生管理の徹底化を図っています。

工場内の衛生管理は、製造する全ての製品の安全確保の基本であり、異物混入や微生物汚染の防止に役立っています。

上質で清潔な設備を維持することで、質的にも量的にも確実に品質を守り、お客様のご要望にお応えします。



ハラール認証

丸善製薬では、ムスリム向けの製品開発にも対応できるよう、ハラール認証を取得した製品を提供しています。

2025年3月末時点で、グリチルリチン酸ジカリウム、マタビ抽出液BG30、レモンバームエキスRA、β-グリチルレチン酸、シーオーグレチノール®、和ism®シリーズ(アシタバ、ウメ、ウンシュウミカン、ガイヨウ)など、計18品目が認証を取得しています。



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) 製品開発

丸善製薬は、人々の健康と美の実現を願い、その達成手段を自然のいのちの中から引き出し、みなさまにお役立てします。

健康産業に貢献する中で、私達社員の人間性を高めていく努力はもとより、人々がより人間性の高い生活を営むことができる社会を築くため、新しい価値のある事業を創造していく努力を継続します。

植物を中心とした「自然の恵み」をお客様にお届けするために、社会課題解決に着目し、天然素材の入手から、医薬品・医薬部外品・化粧品・食品に利用するための技術開発を加えた素材研究開発を主軸に置き、お客様に喜んでご利用いただける製品開発を行っています。

マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
美と健康への貢献	美と健康へ貢献する製品開発	自然の恵みを世界につなぎ、すこやかな社会を支え、すべての人が笑顔であり続ける未来を実現します。	■食品 人生100年時代到来に向け健康寿命延伸をキーワードに製品開発を実施します。製品の有効性や安全性といった機能面は勿論、持続可能な原料調達も含めてお客様に信頼頂けるモノづくりを実施します。 ■化粧品 エビデンスに基づいた実効感、そして安全性や持続性など様々な点で信頼される化粧品原料開発を行うと共に、お客様の価値創造を徹底的にサポートします。	

製品研究・製品開発の5つのキーワード

丸善製薬は、お客様の声に耳を傾け、5つのキーワード(「植物」「美と健康」「抽出・精製・発酵技術」「安心・安全」「サステナビリティ」)に基づいて製品研究・製品開発を行っています。

新たな研究テーマ、新たな開発テーマはアイデア提案会から検討されることもあります。アイデアは丸善製薬「行動規範」に沿って、社会課題解決をテーマとして提案する仕組みになっています。

役員・執行役員・顧問契約している大学教授に参加いただき、投票結果やアドバイスをもとに将来の自社製品テーマとして具体的な議論が進められます。

現代は、美に対する価値観の多様化や超高齢化社会により、健康への関心が高まっています。これまで培ってきた研究開発力を結集し、自然の恵みのチカラを活かして、美と健康の課題解決に貢献してまいります。

【食品事業】

世の中の環境変化が激しくなる中、健康寿命延伸に求められるものは、「食の楽しさ」と「健康機能」であると考えています。自然の恵みを世界につなぎ、すこやかな食生活を通してすべての人が笑顔であり続ける未来を実現するために、有効性や安全性といった機能面はもちろん、持続可能な原料調達も含めてお客様に信頼いただけるモノづくりに取り組んでいます。

【薬粧事業】

価値観が多様化していく中、私たち一人ひとりが「なりたい自分」と「なりたい肌」に向き合う必要があると考えています。植物に秘められた自然の恵みを世界につなぎ、化粧品を通じてすべての人が笑顔であり続ける未来を実現するために、エビデンスに基づいた実効感、そして安全性や持続性など様々な点で信頼される原料開発を行うと共にお客様の価値創造を徹底的にサポートしています。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) 製品開発

研究成果発表

丸善製薬は、素材探索から製品研究・製品開発までの過程で、社会課題の解決やお客様ニーズに対応するための分析技術・評価技術の研鑽・向上に取り組んでいます。

製品研究・製品開発のプロセスで得られた知見は、学会や論文誌などを通じて発表しています。

【化粧水塗布前後の感性に関する研究】

近年、化粧品の使用が肌だけでなく心にもポジティブな影響を与えることが注目され、「肌と心」の関係に関する研究が進められています。

こうした背景を受け、慶應義塾大学の満倉靖恵教授の監修のもとで、「感性アナライザ」を用い、「コメ発酵液」の塗布が感性に与える影響を定量的に評価する取り組みを行いました。

その結果、「コメ発酵液」が肌になじんだ後に肌に触れた際、「好き」という感情が試験開始時と比較して有意に高まることを確認しました。

この研究成果が、第34回 IFSCC Congressイグアス大会（ブラジル）および第2回日本化粧品技術者会学術大会（IFSCC国内報告会・神戸）にて発表されました。



【抗シワ作用に関する研究】

東京工科大学（光老化研究室・正木仁教授（当時））、近畿大学（病態分子解析学研究室・多賀淳教授）との共同研究により、「レモンバームエキス」にEndo180産生促進作用による抗シワ効果を確認しました。

この研究成果が、「Photodermatology, Photoimmunology & Photomedicine」に掲載されました。

【一酸化窒素産生に関する研究】

九州大学（食品分析学研究室・松井利郎教授）との共同研究により、「HMPA_{*}」およびその代謝物が血管内皮細胞においてNO産生促進作用を有することを確認しました。

この研究成果が、「ACS Omega」に掲載されました。

【酸化ストレスと筋線維組成に対する作用に関する研究】

早稲田大学（スポーツ科学学術院予防医学研究室・鈴木克彦教授）との共同研究により、「HMPA_{*}」の酸化ストレスと筋線維組成に及ぼす影響を確認しました。

この研究成果が、「Nutrients」に掲載されました。

【筋萎縮抑制作用に関する研究】

徳島大学（生体栄養学分野・二川健教授）との共同研究により、「HMPA_{*}」にマウス筋芽細胞C2C12における筋萎縮抑制作用を確認しました。

この研究成果が、「Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition」に掲載されました。

【皮膚の若返りに関する研究】

高知大学（総合科学系複合領域科学部門・難波卓司准教授）との共同研究により、「ハス胚芽エキス」に老化研究で世界的に注目を集める「若返り（rejuvenation）」に関する有効性があることを確認しました。

この研究成果が、国際的な総合科学雑誌「Nature」（2025年3月13日号）の「老化研究特集」に記事広告として掲載されました。

*HMPA: 3-(4-Hydroxy-3-Methoxyphenyl)Propionic Acid

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) 製品開発

【育毛・脱毛予防に関する研究】

東京工科大学（毛髪科学研究室・岩淵徳郎教授）との共同研究により、「 β -グリチルレチン酸」にヘアサイクルの成長期延長につながる毛乳頭および外毛根鞘細胞の増殖促進、TGF- β 発現抑制、テストステロン5 α -リダクターゼ活性阻害の各作用を確認しました。

この研究成果が、「Biological and Pharmaceutical Bulletin」に掲載されました。

【育毛効果に関する研究】

丸善製薬における研究により、「甘草葉エキス」にプロスタグランジン (PG) D2によって引き起こされるヘアサイクルの乱れを整える育毛素材としての有用性を確認し、さらにその関与成分も明らかになりました。

この研究成果が、日本薬学会第145回年会にて発表されました。

【抗炎症作用に関する研究】

丸善製薬における研究により、「グリチルリチン酸ジカリウム (GK2)」に表皮角化細胞のインターロイキン37 (IL-37) mRNA発現および細胞内タンパク質産生を促進する作用を確認しました。さらに、ヒト摘出皮膚を用いた試験において、表皮基底層から有棘層にかけてのIL-37発現が増加することが明らかになりました。

これらの結果から、GK2の皮膚に対する抗炎症作用には、表皮角化細胞におけるIL-37産生促進作用が関与している可能性が示唆されました。

この研究成果が、日本薬学会第145回年会にて発表されました。

【酸化ストレスと持久力に関する研究】

早稲田大学（スポーツ科学学術院予防医学研究室・鈴木克彦教授）との共同研究により、「ブラックジンジャー抽出物」の継続投与による酸化ストレスの低減と持久運動能力の向上が確認されました。

この研究成果が、「Antioxidants」に掲載されました。

【筋力と筋分解抑制に関する研究】

早稲田大学（スポーツ科学学術院予防医学研究室・鈴木克彦教授）との共同研究により、「HMPA_{*}」に筋力増加と持久性運動後の筋分解抑制作用を確認しました。

この研究成果が、「International Journal of Molecular Sciences」に掲載されました。

*HMPA: 3-(4-Hydroxy-3-Methoxyphenyl)Propionic Acid

製品開発と評価・表彰

丸善製薬は、これまで人々の美と健康の課題を解決するために多くの製品を開発してまいりました。これらの製品は出品した展示会やイベントなどで評価されています。

【コメ発酵液PD】

「コメ発酵液PD」は、特別な酵母を使用して発酵させた、肌に潤いを与えるだけでなく、心地よい使用感を生み出す特徴を持った医薬部外品添加物として承認されている機能性化粧品原料です。

脳波計を用いて、コメ発酵液を配合したローションを塗布した際の感情反応を測定する「感性評価」などの取り組みが世界的に新規性のある知見として認められ、

世界的化粧品アワードである「BSB Innovation Award 2024」の最も革新的な機能性原料部門（乳化剤、多機能性ベース原料）において第2位を受賞しました。

今回の受賞で当社製品は6年連続、日本企業では最多となる累計8品目の受賞となります。



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) 製品開発

【スマート乳酸菌®】

「スマート乳酸菌®」の「抗炎症剤（特許第5995593号）」が令和6年度中国地方発明表彰で発明奨励賞を受賞しました。

地方発明表彰は、明治37年に設立された発明協会の表彰事業の内、大正10年より開始した歴史ある表彰事業であり、実施されている優れた発明、考案又は意匠を生み出した技術者・研究開発者を顕彰するものです。



【スマート乳酸菌®】

「スマート乳酸菌®」は、健康な人の健常域でやや高めの血中肝機能酵素（ALT、AST）値を低下させる機能が期待できる機能性食品原料です。

横浜市立大学（肝胆膵消化器病学教室・中島淳主任教授・小林貴助教）との共同研究により、リーキーガット（腸漏れ）を改善し、腸のバリア機能を維持する働きが示唆されたことを確認しました。

この研究成果が、国際科学誌「Scientific Reports」（電子版）に掲載されました。

【スマート乳酸菌®】

「スマート乳酸菌®」は、ヒト試験において摂取による腸管透過性の改善と粘膜固有層の抗炎症作用が示唆されました。

この研究成果が、「薬理と治療」に掲載されました。

【スマート乳酸菌®】

「スマート乳酸菌®」は、ヒト試験においてスマート乳酸菌®摂取による肝機能改善作用が確認されました。

この研究成果が、「薬理と治療」に掲載されました。

【アクティボディ®RB】

「アクティボディ®RB」は、中枢神経系グリア細胞のアクアポリン4や抗炎症サイトカイン（TGF- β やIL-10）の発現を促進し、脳機能への効果が期待できる機能性食品原料です。「アクティボディ®RB」の摂取と軽運動を併用したプラセボ対照ランダム化二重盲検並行群間比較試験により、認知機能の一部を改善することを確認しました。

この研究成果が、「応用薬理」に掲載されました。

新商品

2024年度は、2品の新製品を上市することができました。引き続き、製品提供を通じて美と健康の課題解決に貢献してまいります。

【長命草根エキスパウダーMF】

「長命草根エキスパウダーMF」は、抗酸化作用や抗炎症作用など、健康に寄与する効果が期待できる機能性食品原料です。

ミネラル豊富な土壌で育った長命草の根から抽出されたエキスを含み、抗肥満、抗老化、抗炎症、免疫賦活作用など多くの有効性が期待されています。

【サラキープ®K】

「サラキープ®K」は、ユッカ抽出物（ステロイドサポニン）を主成分とし、酵母などの真菌類に対する抗菌作用を持つ日持ち向上剤製剤です。

既存のサラキープ®シリーズのラインナップに、ステロイドサポニン含量を規格化したサラキープ®Kを追加いたしました。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

2) 製品開発

薬事対応・法規制対応

薬粧商品は医薬品や化粧品の配合成分として用いられていますので、各国の関連法規制に従う必要があります。お客様に安心してご使用いただけるよう、必要な許認可の取得や配合可否の判断を行います。

また、自社商品の枠にとどまらず、各国の最新の法規制情報を入手し、解析し、お客様や社内関連部署に提供しています。

2024年度は、医薬部外品添加物承認取得と中国新原料登録のための行政対応と情報収集対応を行いました。

その他の活動

【記念日の制定】

・HMPAの日（毎年3月4日）

HMPAの認知度向上と多くの人々に自身の健康について考えてもらうことを目的として、ポリフェノールの活性本体の1つであるHMPAの正式名称である3-(4-Hydroxy-3-Methoxyphenyl)Propionic Acidの頭の数字から着想を得て、毎年3月4日を「HMPAの日」と制定し、一般社団法人日本記念日協会によってこの日が正式に記念日として登録されました。



・ブラックジンジャーの日（毎年7月10日）

発売10年を迎えたブラックジンジャーの更なる発展と市場拡大を目的として毎年7月10日を「ブラックジンジャーの日」と制定し、一般社団法人日本記念日協会によってこの日が正式に「ブラックジンジャーの日」として登録されています。

7月10日は丸善製薬がブラックジンジャーの食薬区分を厚生労働省に照会し、2013年に食薬区分の非医薬品リスト収載が通知された日付となります。

【学会／協会／研究会／NPO】

・学会

日本水産学会、日本栄養・食糧学会、日本香粧品学会、日本皮膚科学会、日本食品化学学会、日本血管生物医学学会、和漢医薬学会、ファンクショナルフード学会、日本免疫学会 ほか

・協会

広島バイオテクノロジー推進協議会、広島県製薬協会、日本抗加齢協会、日本医薬品原薬工業会、日本植物園協会、日本植物防疫協会、日本ライセンス協会、福山地区危険物安全協会、ひろしま産業振興機構、三次法人会、広島県発明協会、広島北部地域職業能力開発協会（広島北部地域職業訓練センター）、三次郷心会、三次労働基準協会三次支部、備北地区危険物安全協会、近畿化粧品原料協会、日本化粧品技術者会西日本支部、日本栄養評議会（CRN JAPAN）、化粧品原料協会、九州醤油醸造用品協会、西日本醤油醸造用品協会、東京都漬物事業共同組合、日本化粧品技術者会東日本支部、毛髪科学技術者協会、Personal Care Products Council（米国化粧品工業会：PCPC）、日本ボイラ協会広島支部、日本食品・バイオ知的財産権センター、日本知的財産協会、日本浴用剤工業会、日本医薬品添加剤協会、健康食品産業協議会、三次商工会議所、三次市雇用労働対策協議会、パクチーアカデミー協会、日本化粧品工業会、ステビア工業会、甘草工業懇話会、日本食品添加物協会、関西医薬品協会、関西医薬品協会 薬事法規研究委員会、日本健康・栄養食品協会 ほか

・研究会

柿渋・カキタンニン研究会、茶学術研究会、日本食品機械研究会、Tie2・リンパ・血管研究会、美容・アンチエイジング研究会、セラミド研究会、ノビレチン研究会、日本香辛料研究会、山梨県食品技術研究会、薬業健康食品研究会、腸内細菌をターゲットとした食品開発研究会 ほか

・NPO法人

食品治療学研究所、アーユルシード生活環境研究所

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

3) 製品情報へのアクセス

会員制ホームページ「総合プロダクトガイド」

丸善製薬は、製品情報へのアクセス手段として会員制HP「総合プロダクトガイド」を設けています。

「総合プロダクトガイド」では、化粧品原材料や食品原材料の製品パンフレット、技術資料、品質関連書類、最新ニュースなどを提供、「化粧品原料一覧」では、化粧品、医薬部外品の表示名称から、そして「食品原料一覧」では食品原料の素材名から各原材料が検索・確認でき、原材料情報へのアクセスを簡便化しています。

【総合プロダクトガイド】



丸善製薬株式会社総合プロダクトガイド: <https://www.maruzenpcy.co.jp/productguide/>



商品開発にお役立ていただける様に「解説動画」では成分の有効性や特徴を動画でわかりやすく解説、そして「みんなの意識調査」では丸善製薬独自の視点で実施した消費者調査結果を公開しています。

【解説動画】



【みんなの意識調査】



また「専門家VOICE」ページでは、健康や美容に関連する様々な専門分野で活躍されている有識者に丸善製薬がインタビューし、注目の学説や耳よりな情報を学びのコンテンツとして提供しています。

これら会員制HPでの情報掲載に加え、取引先向けメールマガジンで最新情報の配信、Webセミナーを活用して商品開発にお役立ていただける商品情報の配信やコンセプトのご提案などWebを活用した施策を行うと共に、化粧品・食品各分野の展示会にも出展するなど、様々な手法で丸善製薬の製品情報をお届けしています。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

3) 製品情報へのアクセス

展示会出展

丸善製薬は、「自然の恵みをつなぎ 人々が美しく健康でいられる 社会(づくり)に貢献します」というパーパスのもと、社会課題の解決に向けた製品を広く発信するため、国内外の展示会や学会に積極的に出展し、最新の製品情報や研究成果を紹介しています。

【ウェルネスフードジャパン2024】

- ・開催場所／東京ビッグサイト東展示棟
- ・日程／2024年7月16日(火)～7月18日(木)
- ・展示製品
 - 3-(4-ヒドロキシ-3-メトキシフェニル)プロピオン酸



【Hi Korea 2024】

- ・開催場所／韓国ソウルCOEX(ホールA)
- ・日程／2024年8月27日(火)～8月29日(木)
- ・展示製品
 - パイナップル果実由来グルコシルセラミド
 - ヒハツ抽出物



【Fi Vietnam 2024】

- ・開催場所／Saigon Exhibition & Convention Centre
- ・日程／2024年10月9日(水)～10月11日(金)
- ・展示製品
 - パイナップル果実由来グルコシルセラミド
 - ブラックジンジャー抽出物
 - 3-(4-ヒドロキシ-3-メトキシフェニル)プロピオン酸



【食品開発展2024】

- ・開催場所／東京ビッグサイト西1・2・4ホール&アトリウム
- ・日程／2024年10月23日(水)～10月25日(金)
- ・展示製品
 - 機能性表示食品対応素材
 - HMPAの肝機能に関する最新研究データ



【PCHi 2025】

- ・開催場所／The China Import and Export Fair Complex Guangzhou
- ・日程／2025年2月19日(水)～2月21日(金)
- ・展示製品
 - 自社農場栽培植物エキス
 - ハス胚芽エキスを中心にヒト肌における有効性が確認されたエキス

【Hi & Fi Asia-China】

- ・開催場所／National Exhibition and Convention Center (Shanghai)
- ・日程／2024年6月19日(水)～6月21日(金)
- ・展示製品
 - パイナップル果実由来グルコシルセラミド
 - レモンバームエキス

【第49回日本香粧品学会】

- ・開催場所／日経ホール(東京)
- ・日程／2024年6月28日(金)～6月29日(土)
- ・展示製品
 - コメ発酵液
 - ハス胚芽エキス
 - ユキノシタエキス

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な
企業活動

消費者課題

コミュニティへの
参画及び発展

3) 製品情報へのアクセス

【第2回日本化粧品技術者会 学術大会】

- ・開催場所／神戸国際会議場（兵庫）
- ・日程／2024年11月18日（月）～11月20日（水）
- ・展示製品
 - コメ発酵液
 - ハス胚芽エキス
 - ユキノシタエキス
 - センブリエキス・ニンジンエキス

セミナー・Webセミナー

丸善製薬は、展示会出展に加え、取引先を対象としたセミナーやWebセミナーを定期的に開催しています。製品や研究成果に関する最新情報を共有し、相互理解と信頼関係の構築を図ることで、より良い社会の実現に貢献しています。

【第5回・第6回 丸善製薬化粧品原料セミナー】

- ・開催場所
 - 第5回／日比谷国際ビル コンファレンス スクエア（東京）
 - 第6回／ホテルモントレ大阪（大阪）
- ・日程
 - 第5回／2024年11月14日（木）
 - 第6回／2024年11月28日（木）
- ・タイトル
 - これからの化粧品を考える
 - 植物にできることは、もっとある -



【開催一覧】

日程	カテゴリ	開催地	タイトル
2024/5/16	化粧品	Web	はじめての植物エキス
2024/5/23	薬事	Web	海外法規『中国化粧品関連法規制の最新情報』
2024/6/4	食品	Web	今更聞けない機能性表示の基本、こっそり解説します
2024/6/19	食品	Web	怖くない。機能性表示届出
2024/6/20	薬事	Web	新人向け『初めての化粧品、医薬部外品』
2024/10/18	食品 化粧品	神奈川	Tie2・リンパ・血管研究会第10回学術集会
2024/11/14	化粧品	東京	第5回丸善製薬化粧品原料セミナー
2024/11/28	化粧品	大阪	第6回丸善製薬化粧品原料セミナー
2024/12/12	化粧品	大阪	コスメコンシェルジュ向けプライベートセミナー
2024/12/12	薬事	Web	基礎講座『申請書作成・オンライン申請Webセミナー』
2024/12/20	化粧品	Web	年末人気ランキングセミナー
2025/2/13	食品	Web	一緒にぼかばか体感素材2025
2025/2/13	薬事	東京	グローバルな化粧品規制の流れと台湾PIF ～なぜ台湾はPIF制度を導入したのか？～
2025/2/20	薬事	大阪	グローバルな化粧品規制の流れと台湾PIF ～なぜ台湾はPIF制度を導入したのか？～



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬の サステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な 企業活動	消費者課題	コミュニティへの 参画及び発展
----------	------	-------------------	------	----	------	----	-------------	-------	--------------------

7. コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展

良き企業市民として、地域・社会とのコミュニケーションを積極的に図り、社会貢献に取り組めます。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) コミュニティへの参加

“Work locally.Think globally”(尾道から世界を考える)を実践する企業として、尾道から世界へ新たな価値をお届けし、地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。

主な協賛活動

【おのみち住吉花火まつり(住吉神社例大祭)】

地域社会とのつながりを大切に、毎年開催されるおのみち住吉花火まつりに協賛しています。この協賛を通じて、地域の活性化と文化の継承に貢献しています。花火まつりは地域住民や観光客にとって重要なイベントであり、丸善製薬はその成功を支援することで、地域社会との絆を深めています。



【せとだレモンマラソン2025】

地域の健康促進と活性化を目的に、せとだレモンマラソン2025に協賛しています。このマラソンイベントは、地域住民や観光客と一緒に楽しみながら健康的なライフスタイルを推進する機会を提供しています。



【2024西日本学生トライアスロン選手権尾道因島大会】

地域のスポーツ振興と健康促進を目的に、2024西日本学生トライアスロン選手権尾道因島大会に協賛しています。尾道市の「スポーツ無限大おのみち」というスローガンに沿って、トライアスロン競技に打ち込む学生を支援する大会趣旨に賛同し、地元企業として協賛しています。本大会への協賛を通じて、青少年の健全育成と、トライアスロンの普及と認知度向上に貢献してまいります。



【尾道健膳館®シリーズ(ドリンク)の提供】

・広島県高校野球連盟審判部 ・向島中央小学校 ・尾道みなと祭り スタンブラリー ・広島県消防学校 ・御袖天満宮 ・みなりはらぺこレストラン ・広島県民スポーツ大会ゴルフ向島地区予選 ・エンシェア ・トライアスロン実行委員会 ・尾道PTA連合会 ・庄原フットボールクラブ事務局 ・尾道高校野球部 ・尾道消防団 ・広島ユナイテッドFC ・西日本学生トライアスロン選手権大会 ・尾道市立美術館主催 尾道高校生スケッチ大会 ・江ノ奥 盆踊り大会 ・絵のまち通り商店街振興組合 ・尾道市消防大会 ・尾道青年会議所 ・尾道市教育員委員会 ・しまなみ映画祭 ・サンフレッチェ広島レジーナ ・おのみち仮装コスプレフェス ・フォノグラム ・第2回ぶんちゃんこざかなくんカップ広島県学童軟式野球大会 ・花と潮風かおる尾道むかいしまウォーク ・広島県児童生徒発明くふう展 ・むかいしまもそろサイクリング2024 ～恋で走って島めぐり～ ・久保亀山八幡神社 秋祭り ・向島まるごとフェスタ ・尾道郷心会 バスツアーイベント ・尾道JC 小学生スポーツ体験イベント ・木ノ庄東地区体育協会 ・荻原ふれあいグランドゴルフ ・映画「104歳、哲代さんのひとり暮らし」試写会 ・因島ウォーキング大会 ・向島町体育協会 ・三次市野球教室inさみた実行委員会 ・UMEhouseうらしま ・三次市「高校生キャリア育成事業 企業ガイダンス」 ・せとだレモンマラソン ・向島体育協会 向島駅伝大会 ・やまなみ街道チャレンジライド2025 ・玉の浦春のゴルフ祭 ・久保八幡神社 ・尾道市生涯学習課

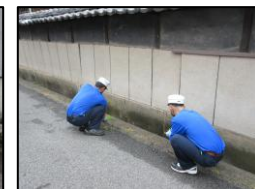
従業員が参加する活動

【尾道みなと祭「ええじゃんSANSА・がり」踊り】】

毎年4月に開催される尾道みなと祭の「ええじゃんSANSА・がり」踊りコンテストに、従業員有志で結成されたチームで参加しています。



【事業所周辺の清掃】



トップメッセージ	企業理念	丸善製菓のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

1) コミュニティへの参加

【出前授業】

尾道市では“夢と志を抱きグローバル社会を生き抜く子どもの育成”を政策の柱として「夢・志ナビゲーション」の取り組みが行われています。丸善製菓の研究員が尾道市立向島中学校の出前授業の講師として招聘され、この取り組みに貢献しています。



向島地区緑化活動ボランティア

向東町メイン道路沿い緑化活動ボランティアの一環として向東地区公衆衛生推進協議会を通じて、花壇用に久井ファームの肥土を提供しました。



尾道COOL CHOICEプロジェクトへの賛同

丸善製菓は、環境省が中心となって進めている地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」に対して、尾道市が取り組みを推進している「尾道COOL CHOICEプロジェクト」に賛同、登録しました。CO2などの温室効果ガスの排出量削減のために、日々の事業活動の中で貢献してまいります。



Jブルークレジット(尾道の海のゆりかご)の購入

尾道市は「ゼロカーボンシティ」を宣言し、2022年から脱炭素に向けた取り組みの一環として、市沿岸地域に造成された干潟や藻場のCO2吸収減の拡大や環境学習を推進するプロジェクトを開始しています。

丸善製菓は、このプロジェクトに貢献するためブルーカーボン・オフセット推進事業「尾道の海のゆりかご(干潟・藻場)再生による里海づくり」によるJブルークレジットを購入しています。



久井ファーム住民見学会の開催

2024年度は、近隣住民の代表者の皆さまを久井ファームへお招きし、堆肥場改修工事住民見学会を開催しました。丸善製菓の農園事業の現状と課題、将来の目指す姿についてご説明させていただき、当社事業への理解を深めていただきました。住民の皆さまからは、「設備内容がしっかりしている。」「安心しました。」といったお声をいただきました。



